

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Computer Assisted English Learning A						
担当教員	橋本 貴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	1.0
授業のテーマ	Skillとしての英語力の養成（語彙力に重点を置く）						
授業の概要	3年次以降の専門科目の理科に求められるしっかりとした英語力と、実社会で必要とされる高度な英語運用能力の効果的養成を目的とする。教材はCD-ROM版のTOEIC学習ソフトを使って、リスニング力、読解力を鍛え、文法と語彙に関する知識を着実に増やしていく。授業の一部は各自がコンピュータを使っておこなうので、自分のペースとやり方に従って効率よく学ぶことができる。残りの時間は語彙学習のための教材を使って語彙力のアップを図る。						
到達目標	(1) 使用するコンピュータソフトはTOEICの傾向と対策を目的としたものだが、英語の総合力アップを目指したものであるため、英語力養成に必要な知識が身につく。 (2) 毎回の単語テストをすることによって、TOEIC 600点に必要なとされる語彙力がつく。						
授業計画	<p>新TOEICテスト文法問題を鬼のように特訓するソフト</p> <p>第1回 単語を見極める (1) 第2回 単語を見極める (2) 第3回 単語を見極める (3) 第4回 品詞を見極める (1) 第5回 品詞を見極める (2) 第6回 品詞を見極める (3) 第7回 品詞を見極める (4) 第8回 接続詞と前置詞 (1) 第9回 接続詞と前置詞 (2) 第10回 接続詞と前置詞 (3) 第11回 接続詞と前置詞 (4) 第12回 動詞の形 (1) 第13回 動詞の形 (2) 第14回 動詞の形 (3) 第15回 学期のまとめ・復習と期末試験</p> <p>『新TOEIC TEST基礎1200語 スコア600レベル』について</p> <p>第1回 語彙Unit 1 単語 (happen~disappear) の解説と例文 第2回 語彙Unit 2 単語 (consider~subject) の解説と例文 第3回 語彙Unit 3 単語 (complete~attorney) の解説と例文 第4回 語彙Unit 4 単語 (likely~stuff) の解説と例文 第5回 語彙Unit 5 単語 (executive~quantity) の解説と例文 第6回 語彙Unit 6 単語 (damage~favorite) の解説と例文 第7回 語彙Unit 7 単語 (grade~opinion) の解説と例文 第8回 語彙Unit 8 単語 (suspect~reduce) の解説と例文 第9回 語彙Unit 9 単語 (flat~reply) の解説と例文 第10回 語彙Unit 10 単語 (available~grind) の解説と例文 第11回 語彙Unit 11 単語 (sales~joint) の解説と例文 第12回 語彙Unit 12 単語 (sue~ruin) の解説と例文</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習：毎回行われる単語テストに備えて、授業で解説した単語を覚えてくること。 事後学習：授業で学んだことをもう一度確認すること。外国語の学習では反復練習が最も効果的で、わずかな時間でも復習すれば、大きな学習効果が得られる。						
授業方法	上記授業計画にのっとり最低限の共通の課題を受講生全員に課すが、基本的には、受講生各人の英語能力に応じた、自主的な学習を行ってもらう。またインターネットに接続されているCALL教室の端末を利用して講義を行うため、ネット上の有益な無料のサービスを最大限活用して、効率的に英語力を高め、TOEIC対策が行えるよう、指導を行う。						
評価基準と評価方法	試験(65%)、小テスト(30%)、ノート作成(5%)をもとに最終評価を算出する。(2012年度の規定。学部共通の必修科目のため変更となる場合がある。)						
教科書	白野伊津夫、Lisa A. Stefani 著 『新TOEIC TEST基礎1200語 スコア600レベル』語研 ISBN4-87615-125-3 C0082						

参考書	『5-Minute Quizzes for the TOEIC Test Reading 1』 木村哲夫、John Heissian、ヘシヤン田中ゆき子著 マクミラン ランゲージハウス ISBN978-4-7773-6253-0 C3082 ENGLISH NAVI 「基本的な英単語」 http://englishnavi.net/tango/index.html
-----	---

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Computer Assisted English Learning B						
担当教員	橋本 貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	1.0
授業のテーマ	Skillとしての英語力の養成（語彙力に重点を置く）						
授業の概要	3年次以降の専門科目の理科に求められるしっかりとした英語力と、実社会で必要とされる高度な英語運用能力の効果的養成を目的とする。教材はCD-ROM版のTOEIC学習ソフトを使って、リスニング力、読解力を鍛え、文法と語彙に関する知識を着実に増やしていく。授業の一部は各自がコンピュータを使っておこなうので、自分のペースとやり方に従って効率よく学ぶことができる。残りの時間は語彙学習のための教材を使って語彙力のアップを図る。						
到達目標	(1) 使用するコンピュータソフトはTOEICの傾向と対策を目的としたものだが、英語の総合力アップを目指したものであるため、英語力養成に必要な知識が身につく。 (2) 毎回の単語テストをすることによって、TOEIC 600点に必要なとされる語彙力がつく。						
授業計画	<p>新TOEICテスト文法問題を鬼のように特訓するソフト</p> <p>第1回 よく出る文法構文問題 (1) 第2回 よく出る文法構文問題 (2) 第3回 出る順 語彙(ビジネス) (1) 第4回 出る順 語彙(ビジネス) (2) 第5回 出る順 語彙(ビジネス) (3) 第6回 出る順 語彙(ビジネス) (4) 第7回 出る順 語彙(生活・一般) (1) 第8回 出る順 語彙(生活・一般) (2) 第9回 出る順 語彙(生活・一般) (3) 第10回 出る順 語彙(生活・一般) (4) 第10回 出る順 語彙(生活・一般) (4) 第11回 ビジネス編 (1) マネジメント 第12回 ビジネス編 (2) 経済・金融・ 第13回 ビジネス編 (3) 商品開発・プロジェクト 第14回 ビジネス編 (4) 人事・労働問題 第15回 学期のまとめ・復習と期末試験</p> <p>『新TOEIC TEST基礎1200語 スコア600レベル』について</p> <p>第1回 語彙Unit 13 単語(pile~confirm)の解説と例文 第2回 語彙Unit 14 単語(annual~rough)の解説と例文 第3回 語彙Unit 15 単語(household~aspect)の解説と例文 第4回 語彙Unit 16 単語(decorate~proof)の解説と例文 第5回 語彙Unit 17 単語(split~defendant)の解説と例文 第6回 語彙Unit 18 単語(confident~snap)の解説と例文 第7回 語彙Unit 19 単語(innocent~generate)の解説と例文 第8回 語彙Unit 20 単語(starve~cheat)の解説と例文 第9回 語彙Unit 21 単語(grave~award)の解説と例文 第10回 語彙Unit 22 単語(tease~formulate)の解説と例文 第11回 語彙Unit 23 単語(alert~feminine)の解説と例文 第12回 語彙Unit 24 単語(faint~retain)の解説と例文</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習：毎回行われる単語テストに備えて、授業で解説した単語を覚えてくること。 事後学習：授業で学んだことをもう一度確認すること。外国語の学習では反復練習が最も効果的で、わずかな時間でも復習すれば、大きな学習効果が得られる。						
授業方法	上記授業計画にのっとり最低限の共通の課題を受講生全員に課すが、基本的には、受講生各人の英語能力に応じた、自主的な学習を行ってもらう。またインターネットに接続されているCALL教室の端末を利用して講義を行うため、ネット上の有益な無料のサービスを最大限活用して、効率的に英語力を高め、TOEIC対策が行えるよう、指導を行う。						
評価基準と評価方法	TOEIC (60%)、試験(15%)、小テスト(20%)、ノート作成(5%)をもとに最終評価を算出する。 単位認定のためには、1. TOEICの成績=400点以上、2. 小テストの成績=40%以上、授業ノートの提出の3条件を満たさなければ評価対象とならない。						
教科書	CAEL Aで使用した物と同じ。新たに準備する必要は無い。						

参考書	各種インターネットサービス。
-----	----------------

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Computer Assisted English Learning B						
担当教員	橋本 貴						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	1.0
授業のテーマ	Skillとしての英語力の養成（語彙力に重点を置く）						
授業の概要	3年次以降の専門科目の理科に求められるしっかりとした英語力と、実社会で必要とされる高度な英語運用能力の効果的養成を目的とする。教材はCD-ROM版のTOEIC学習ソフトを使って、リスニング力、読解力を鍛え、文法と語彙に関する知識を着実に増やしていく。授業の一部は各自がコンピュータを使っておこなうので、自分のペースとやり方に従って効率よく学ぶことができる。残りの時間は語彙学習のための教材を使って語彙力のアップを図る。						
到達目標	(1) 使用するコンピュータソフトはTOEICの傾向と対策を目的としたものだが、英語の総合力アップを目指したものであるため、英語力養成に必要な知識が身につく。 (2) 毎回の単語テストをすることによって、TOEIC 600点に必要なとされる語彙力がつく。						
授業計画	<p>新TOEICテスト文法問題を鬼のように特訓するソフト</p> <p>第1回 よく出る文法構文問題 (1) 第2回 よく出る文法構文問題 (2) 第3回 出る順 語彙(ビジネス) (1) 第4回 出る順 語彙(ビジネス) (2) 第5回 出る順 語彙(ビジネス) (3) 第6回 出る順 語彙(ビジネス) (4) 第7回 出る順 語彙(生活・一般) (1) 第8回 出る順 語彙(生活・一般) (2) 第9回 出る順 語彙(生活・一般) (3) 第10回 出る順 語彙(生活・一般) (4) 第10回 出る順 語彙(生活・一般) (4) 第11回 ビジネス編 (1) マネジメント 第12回 ビジネス編 (2) 経済・金融・ 第13回 ビジネス編 (3) 商品開発・プロジェクト 第14回 ビジネス編 (4) 人事・労働問題 第15回 学期のまとめ・復習と期末試験</p> <p>『新TOEIC TEST基礎1200語 スコア600レベル』について</p> <p>第1回 語彙Unit 13 単語(pile~confirm)の解説と例文 第2回 語彙Unit 14 単語(annual~rough)の解説と例文 第3回 語彙Unit 15 単語(household~aspect)の解説と例文 第4回 語彙Unit 16 単語(decorate~proof)の解説と例文 第5回 語彙Unit 17 単語(split~defendant)の解説と例文 第6回 語彙Unit 18 単語(confident~snap)の解説と例文 第7回 語彙Unit 19 単語(innocent~generate)の解説と例文 第8回 語彙Unit 20 単語(starve~cheat)の解説と例文 第9回 語彙Unit 21 単語(grave~award)の解説と例文 第10回 語彙Unit 22 単語(tease~formulate)の解説と例文 第11回 語彙Unit 23 単語(alert~feminine)の解説と例文 第12回 語彙Unit 24 単語(faint~retain)の解説と例文</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習：毎回行われる単語テストに備えて、授業で解説した単語を覚えてくること。 事後学習：授業で学んだことをもう一度確認すること。外国語の学習では反復練習が最も効果的で、わずかな時間でも復習すれば、大きな学習効果が得られる。						
授業方法	上記授業計画にのっとり最低限の共通の課題を受講生全員に課すが、基本的には、受講生各人の英語能力に応じた、自主的な学習を行ってもらう。またインターネットに接続されているCALL教室の端末を利用して講義を行うため、ネット上の有益な無料のサービスを最大限活用して、効率的に英語力を高め、TOEIC対策が行えるよう、指導を行う。						
評価基準と評価方法	TOEIC (60%)、試験(15%)、小テスト(20%)、ノート作成(5%)をもとに最終評価を算出する。 単位認定のためには、1. TOEICの成績=400点以上、2. 小テストの成績=40%以上、授業ノートの提出の3条件を満たさなければ評価対象とならない。						
教科書	CAEL Aで使用した物と同じ。新たに準備する必要は無い。						

参考書	各種インターネットサービス。
-----	----------------

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	予備登録						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画	この画面は予備登録用です。 シラバスの内容については、担当者名の入ったものを参照ください。						
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	予備登録						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画	この画面は予備登録用です。 シラバスの内容については、担当者名の入ったものを参照ください。						
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	予備登録						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画	この画面は予備登録用です。 シラバスの内容については、担当者名の入ったものを参照ください。						
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	予備登録						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画	この画面は予備登録用です。 シラバスの内容については、担当者名の入ったものを参照ください。						
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Benton						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Benton						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Benton						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Benton						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Bowden						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	M. Bowden						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	E. Dean						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Natural Idiomatic English Conversation						
授業の概要	<p>Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression ; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.</p> <p>The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.</p>						
到達目標	To give students practice listening and speaking natural idiomatic English Conversation.						
授業計画	<p>The themes or activities and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Classroom language 2. Home 3. Fashion 4. Travel 5. Conversation Creation Day 1 6. Health 7. Personality 8. Relationships 9. Conversation Creation Day 2 10. Memories 11. Inspiration 12. Review Unit 2 13. Conversation Creation Day 3 14. Student Interviews 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades.						
教科書	Sullivan, Kristen & Todd Beukens: Impact Conversation 2 (Student book with CD). Hong Kong: Pearson Longman Asia ELT, 2009. ISBN 978-962-01-9934-9						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	D. Heywood						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	D. Heywood						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English conversation						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making comparisons 2. Talking about clothing 3. Describing people 4. Talking about appearance and personality 5. Talking about cities and making suggestions 6. Talking about local attractions 7. Review session 8. Talking about places 9. More talk about places 10. Talking about vacations 11. More talk about vacations 12. Talking about future plans 13. Talking about careers and schools 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note that changes are possible owing to cancelled classes and/or student learning requirements.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades. As this class is being taught by several different teachers, individual classes will have different emphases and will vary in the exact mode of evaluation.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 1. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407373</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 1 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978-0-19-4407298</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	A. J. Silva						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Natural Idiomatic English Conversation						
授業の概要	<p>Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression ; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.</p> <p>The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.</p> <p>The class syllabus will follow the units in the textbook.</p>						
到達目標	To give students practice listening and speaking natural idiomatic English Conversation						
授業計画	<p>The themes or activities and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Classroom language 2. Home 3. Fashion 4. Travel 5. Conversation Creation Day 1 6. Health 7. Personality 8. Relationships 9. Conversation Creation Day 2 10. Memories 11. Inspiration 12. Review Unit 2 13. Conversation Creation Day 3 14. Student Interviews 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades.						
教科書	Sullivan, Kristen & Todd Beukens: Impact Conversation 2 (Student book with CD). Hong Kong: Pearson Longman Asia ELT, 2009. ISBN 978-962-01-9934-9						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	A. J. Silva						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Natural Idiomatic English Conversation						
授業の概要	<p>Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression ; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.</p> <p>The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.</p> <p>The class syllabus will follow the units in the textbook.</p>						
到達目標	To give students practice listening and speaking natural idiomatic English Conversation						
授業計画	<p>The themes or activities and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Classroom language 2. Home 3. Fashion 4. Travel 5. Conversation Creation Day 1 6. Health 7. Personality 8. Relationships 9. Conversation Creation Day 2 10. Memories 11. Inspiration 12. Review Unit 2 13. Conversation Creation Day 3 14. Student Interviews 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades.						
教科書	Sullivan, Kristen & Todd Beukens: Impact Conversation 2 (Student book with CD). Hong Kong: Pearson Longman Asia ELT, 2009. ISBN 978-962-01-9934-9						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Oral English						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Natural Idiomatic English Conversation						
授業の概要	<p>Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.</p> <p>The overall objective is to develop students' comfort in speaking English and improving their fluency.</p>						
到達目標	To give students practice listening and speaking natural idiomatic English Conversation.						
授業計画	<p>The themes or activities and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Classroom language 2. Home 3. Fashion 4. Travel 5. Conversation Creation Day 1 6. Health 7. Personality 8. Relationships 9. Conversation Creation Day 2 10. Memories 11. Inspiration 12. Review Unit 2 13. Conversation Creation Day 3 14. Student Interviews 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on conversational ability for 60% and listening ability for 40% of their grades.						
教科書	Sullivan, Kristen & Todd Beukens: Impact Conversation 2 (Student book with CD). Hong Kong: Pearson Longman Asia ELT, 2009. ISBN 978-962-01-9934-9						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading A						
担当教員	柏本 吉章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み、内容を的確に把握する力の養成						
授業の概要	授業クラスは、入学時に実施される英語の統一試験の成績を基に習熟度別に編成し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用いて、各レベルに応じた進度でおこなう。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化、政治、歴史、社会状況などの背景的な知識の説明をもおこなうことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力を身につけること (2) 語学的な知識だけではなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を身につけること						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション：Readingの技術、Readingの視点 第2回 Lesson 1 Men Are From Mars, Women Are From Venus 第3回 Lesson 2 Chocolate 第4回 Lesson 3 Product Placement 第5回 Lesson 4 Fart Tax 第6回 Lesson 5 Letter from an Irania Girl 第7回 Lesson 6 Blogs 第8回 Lesson 1-6の復習と中間試験 第9回 Lesson 7 The Placebo Effect 第10回 Lesson 8 Sedna 第11回 Lesson 9 The Amazon 第12回 Lesson 10 Space Junk 第13回 Lesson 11 ID theft 第14回 Lesson 12 Euthanasia 第15回 Lesson 7-12の復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：辞書と文法書を片手に自分で考える訓練を重ねることで、どんな文にも対応できる能力を磨きと英語に対する感覚を養う。 授業後学習：繰り返し覚えることが外国語学習の基本であり、最も効果的な方法である。授業で習った重要な構文、表現、単語を復習することで、大きな力と自信を身につけてほしい。						
授業方法	講義（講読）						
評価基準と評価方法	定期試験70%、平常点30%						
教科書	『Reading Expert 2（リーディングエキスパート・実践編）』、宍戸真・Bruce Allen著、成美堂、ISBN978-4-7919-3113-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading A						
担当教員	勝山 吉和						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	講読による英語理解						
授業の概要	Power Reading Aは、英文を正確に読み、内容を的確に把握する力を養成することを目的とする。授業クラスは、入学時に実施される英語テストの成績を基に習熟度別に編成し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用い、各レベルに応じた進度でおこなう。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化、政治、歴史、社会状況などの背景的な知識の説明をもおこなうことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力が身につく。 (2) 単に語学的な知識が身につくだけでなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を獲得できる。						
授業計画	第1回 授業の紹介とChapter 1 Moon exploration 第2回 Chapter 2 Stephen Spielberg 第3回 Chapter 3 World population 第4回 Chapter 4 Money and sport 第5回 Chapter 1～4についての質疑応答と試験 第6回 Chapter 5 The sculptures of Rodin 第7回 Chapter 6 Positive thinking 第8回 Chapter 7 Esperanto 第9回 Chapter 8 Globalization 第10回 Chapter 5～8についての質疑応答と試験 第11回 Chapter 9 Online language learning 第12回 Chapter 10 Advertising 第13回 Chapter 11 Life without technology 第14回 Chapter 12 Urban wildlife 第15回 Chapter 9～12についての質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：辞書と文法書を片手に自分で考える訓練を重ねることで、どんな文にも対応できる能力と英語に対する感覚が身に付く。授業には必ず予習して出席すること。 授業後学習：繰り返し覚えることが外国語学習の基本であり、最も効果的な方法だ。授業で習った重要な構文、表現、単語を、たとえわずかな時間であっても復習すれば、大きな力と自信が身につく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験（2回）70%、平常点（小テスト、課題）30%						
教科書	Supreme Reading 1 宍戸真、Steve Taylor-Knowles、Malcolm Mann著 成美堂 ISBN978-4-7919-1281-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading A						
担当教員	白川 計子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み・内容を把握する力をつける						
授業の概要	この授業では、英文を正確に読み、内容を適格に把握する力を養成します。授業クラスは、入学時事実実施される英語の統一試験の成績をもとに習熟度別に編制し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用い、各レベルに応じた進度で行う。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化・政治・歴史・社会状況などの背景的な知識の説明も行うことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	ともかく少しでもずんずんと英文が読めるようになること。						
授業計画	第1回 イントロ [授業説明・教科書紹介] 第2回 Lesson 1: Pet Boom 第3回 Lesson 2: Endangered Animals 第4回 Lesson 3: Alien Species 第5回 Lesson 4: Popular Breeds of Dogs 第6回 Lesson 5: The Whaling Debate / 試験範囲・内容発表 第7回 ここまでの復習 第8回 質疑応答・中間試験 第9回 Lesson 6: Pampered Pets 第10回 Lesson 7: Artificial Pets 第11回 Lesson 8: The Role of Zoos 第12回 Lesson 9: Animal-Assisted Therapy 第13回 Lesson 10: Animal Phobias / 試験範囲・内容発表 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をしてきて下さい。授業開始後すぐに手が挙げられるような態勢にないと、とてもCPポイントは取ることができません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	■定期試験70% 平常点30%						
教科書	Gordenker, Alice / Rucynski, John. Surprising Japan! 松柏社, 2013 ISBN: 978-4-88198-675-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading A						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み・内容を把握する力をつける						
授業の概要	この授業では、英文を正確に読み、内容を適格に把握する力を養成します。授業クラスは、入学時事実実施される英語の統一試験の成績をもとに習熟度別に編制し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用い、各レベルに応じた進度で行う。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化・政治・歴史・社会状況などの背景的な知識の説明も行うことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	ともかく少しでもずんずんと英文が読めるようになること。						
授業計画	第1回 イントロ [授業説明・教科書紹介] 第2回 Lesson 1: Pet Boom 第3回 Lesson 2: Endangered Animals 第4回 Lesson 3: Alien Species 第5回 Lesson 4: Popular Breeds of Dogs 第6回 Lesson 5: The Whaling Debate / 試験範囲・内容発表 第7回 ここまでの復習 第8回 質疑応答・中間試験 第9回 Lesson 6: Pampered Pets 第10回 Lesson 7: Artificial Pets 第11回 Lesson 8: The Role of Zoos 第12回 Lesson 9: Animal-Assisted Therapy 第13回 Lesson 10: Animal Phobias / 試験範囲・内容発表 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をしてきて下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	■ 定期試験70% 平常点30%						
教科書	Gordenker, Alice / Rucynski, John. Surprising Japan! 松柏社, 2013 ISBN: 978-4-88198-675-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading B						
担当教員	柏本 吉章						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み、内容を的確に把握する力の養成						
授業の概要	習熟度別クラス編成のもと、習熟度に応じた教科書を使用し、単語、イディオム、構文のような語法に関することのみならず、文化と社会を含む周辺の知識についても解説をおこない、英語の総合的読解力の向上を目指す。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力が身につけること (2) 語学的な知識だけではなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を身につけること						
授業計画	第1回 Lesson 13 Venice, Italy (1) 第2回 Lesson 13 Venice, Italy (2) 第3回 Lesson 14 Honorifics 第4回 Lesson 15 Beauty in the Media 第5回 Lesson 16 Salzburg, Austria 第6回 Lesson 17 Sweatshops 第7回 Lesson 18 Aoma Oils 第8回 Lesson 13-18の復習と中間試験 第9回 Lesson 19 German Education 第10回 Lesson 20 Peter Jackson 第11回 英語のスピーチを読む 第12回 2013 Kobe Shoin Speech Contestに出席、宿題：Speech Contestのレポート 第13回 Lesson 21 Women in New Zealand 第14回 Lesson 22 Wine in France 第15回 Lesson 19-22の復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：辞書と文法書を片手に自分で考える訓練を重ねることで、どんな文にも対応できる能力を磨き、英語に対する感覚を養う。 授業後学習：繰り返し覚えることが外国語学習の基本であり、最も効果的な方法である。授業で習った重要な構文、表現、単語を復習することで、大きな力と自信を身につけてほしい。						
授業方法	講義（講読）						
評価基準と評価方法	定期試験70% 平常点30%						
教科書	『Reading Expert 2（リーディングエキスパート・実践編）』、宍戸真・Bruce Allen著、成美堂、ISBN978-4-7919-3113-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading B						
担当教員	勝山 吉和						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	講読による英語理解						
授業の概要	Power Reading Bは、Power Reading A と同じように、習熟度別クラス編成の下、クラスに応じた教科書を使用し、英語を単語、イディオム、構文のような語法に関することのみならず、文化と社会を含む百科事典的知識についても解説をおこない、英語の総合的読解力の向上を目指す。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力が身につく。 (2) 単に語学的な知識が身につくだけでなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を獲得できる。						
授業計画	第1回 Chapter 13 Smart drugs 第2回 Chapter 14 Disappearing language 第3回 Chapter 15 The first cities 第4回 Chapter 16 Ergonomics 第5回 Chapter 13～16についての質疑応答と試験 第6回 Chapter 17 City gardens 第7回 Chapter 18 Crime and sentencing 第8回 Chapter 19 Climate change 第9回 Chapter 20 Online commerce 第10回 Chapter 17～20についての質疑応答と試験 第11回 Chapter 21 Pop art 第12回 Chapter 22 Steve Jobs 第13回 Chapter 23 A short history of money 第14回 Chapter 24 The English Civil War 第15回 Chapter 21～24についての質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：辞書と文法書を片手に自分で考える訓練を重ねることで、どんな文にも対応できる能力と英語に対する感覚が身に付く。授業には必ず予習して出席すること。 授業後学習：繰り返し覚えることが外国語学習の基本であり、最も効果的な方法だ。授業で習った重要な構文、表現、単語を、たとえわずかな時間であっても復習すれば、大きな力と自信が身につく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験（2回）70%、平常点（小テスト、課題）30%						
教科書	Supreme Reading 1 宍戸真、Steve Taylor-Knowles、Malcolm Mann著 成美堂 ISBN978-4-7919-1281-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading B						
担当教員	白川 計子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み・内容を把握する力をつける						
授業の概要	この授業では、英文を正確に読み、内容を適格に把握する力を養成します。授業クラスは、入学時事実実施される英語の統一試験の成績をもとに習熟度別に編制し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用い、各レベルに応じた進度で行う。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化・政治・歴史・社会状況などの背景的な知識の説明も行うことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	とまかく少しでもずんずんと英文が読めるようになること。						
授業計画	第1回 イントロ [授業説明・教科書紹介] 第2回 Lesson 1: The Miracle on the Hudson 第3回 Lesson 2: Down with Selfishness 第4回 Lesson 3: Students and Cell Phones 第5回 Lesson 4: Garmar jobat 第6回 Lesson 5: Lay Judge System / 試験範囲・内容発表 第7回 ここまでの復習 第8回 質疑応答・中間試験 第9回 Lesson 6: The Knight of Sudan 第10回 Lesson 7: America's Game? 第11回 Lesson 8: The Road to the Presidency 第12回 Lesson 9: The Jazz Funeral 第13回 Lesson 10: Kenichiro Mogi / 試験範囲・内容発表 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験70% 平常点30%						
教科書	松尾秀樹(他)著 Reading Crystalline (三修社, ISBN=978-4-384-33402-9C1082)						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Reading B						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み・内容を把握する力をつける						
授業の概要	この授業では、英文を正確に読み、内容を適格に把握する力を養成します。授業クラスは、入学時事実実施される英語の統一試験の成績をもとに習熟度別に編制し、各レベルの学生の学力に適した教科書を用い、各レベルに応じた進捗で行う。授業では、単語、イディオム、構文のようなことばの説明だけではなく、文化・政治・歴史・社会状況などの背景的な知識の説明も行うことによって、より深く内容を理解できるようにする。						
到達目標	とまかく少しでもずんずんと英文が読めるようになること。						
授業計画	第1回 イントロ [授業説明・教科書紹介] 第2回 Lesson 1: The Miracle on the Hudson 第3回 Lesson 2: Down with Selfishness 第4回 Lesson 3: Students and Cell Phones 第5回 Lesson 4: Garmar jobat 第6回 Lesson 5: Lay Judge System / 試験範囲・内容発表 第7回 ここまでの復習 第8回 質疑応答・中間試験 第9回 Lesson 6: The Knight of Sudan 第10回 Lesson 7: America's Game? 第11回 Lesson 8: The Road to the Presidency 第12回 Lesson 9: The Jazz Funeral 第13回 Lesson 10: Kenichiro Mogi / 試験範囲・内容発表 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	必ず予習をして下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験70% 平常点30%						
教科書	松尾秀樹(他)著 Reading Crystalline (三修社, ISBN=978-4-384-33402-9C1082)						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	J. Angel						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Extras 3. Library Orientation etc. 4. Unit 1a 5. Unit 1b 6. Unit 2a 7. Unit 2b 8. Progress Check 9. Evaluation Day 1 10. Unit 3a 12. Unit 3b 13. Unit 4a 14. Unit 4b 15. Progress Check 16. Evaluation Day 2 17. Unit 5a 18. Unit 5b 19. Unit 6a 20. Unit 6b 21. Progress Check 22. Evaluation Day 3 23. Unit 7a 24. Unit 7b 25. Unit 8a 26. Unit 8b 27. Progress Check 28. Evaluation Day 4 29. Listening Test 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	J. Angel						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Extras 3. Library Orientation etc. 4. Unit 1a 5. Unit 1b 6. Unit 2a 7. Unit 2b 8. Progress Check 9. Evaluation Day 1 10. Unit 3a 12. Unit 3b 13. Unit 4a 14. Unit 4b 15. Progress Check 16. Evaluation Day 2 17. Unit 5a 18. Unit 5b 19. Unit 6a 20. Unit 6b 21. Progress Check 22. Evaluation Day 3 23. Unit 7a 24. Unit 7b 25. Unit 8a 26. Unit 8b 27. Progress Check 28. Evaluation Day 4 29. Listening Test 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	J. Angel						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Extras 3. Library Orientation etc. 4. Unit 1a 5. Unit 1b 6. Unit 2a 7. Unit 2b 8. Progress Check 9. Evaluation Day 1 10. Unit 3a 12. Unit 3b 13. Unit 4a 14. Unit 4b 15. Progress Check 16. Evaluation Day 2 17. Unit 5a 18. Unit 5b 19. Unit 6a 20. Unit 6b 21. Progress Check 22. Evaluation Day 3 23. Unit 7a 24. Unit 7b 25. Unit 8a 26. Unit 8b 27. Progress Check 28. Evaluation Day 4 29. Listening Test 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	J. Angel						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Extras 3. Library Orientation etc. 4. Unit 1a 5. Unit 1b 6. Unit 2a 7. Unit 2b 8. Progress Check 9. Evaluation Day 1 10. Unit 3a 12. Unit 3b 13. Unit 4a 14. Unit 4b 15. Progress Check 16. Evaluation Day 2 17. Unit 5a 18. Unit 5b 19. Unit 6a 20. Unit 6b 21. Progress Check 22. Evaluation Day 3 23. Unit 7a 24. Unit 7b 25. Unit 8a 26. Unit 8b 27. Progress Check 28. Evaluation Day 4 29. Listening Test 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	D. Chatham						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 2a 3 Library Orientation etc. 4 Unit 2b 5 Unit 4a 6 Unit 4b 7 Conversation Day 1 8 Unit 6a 9 Unit 6b 10 Unit 8a 11 Unit 8b 12 Conversation Day 2 13 Make-up Day 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	D. Chatham						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 2a 3 Library Orientation etc. 4 Unit 2b 5 Unit 4a 6 Unit 4b 7 Conversation Day 1 8 Unit 6a 9 Unit 6b 10 Unit 8a 11 Unit 8b 12 Conversation Day 2 13 Make-up Day 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	E. Dean						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Developing English Communication Skills						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	Improving Students' English Communication Skills in Listening and Speaking						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Talking about vacations 2. Talking about places to go and things to do 3. Giving opinions 4. Talking about movies and music 5. Talking about experiences 6. Talking about sports and activities 7. Review session 8. Describing places 9. Talking about world geography 10. Describing special events 11. Talking about birthdays and weddings 12. Giving advice 13. Talking about healthy lifestyles 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p> <p>As this course is taught by two different teachers, one on Tuesday and one on Friday, the Units in the textbook will be divided between them. Individual teachers will, in class, advise the students which Units they should prepare for their classes. Each Unit will be covered in two classes.</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation 20%, conversational and listening ability 80%.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 2. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407380</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 2 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407304</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	R. K. Mason						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 1a 3 Pronunciation Training 4 Unit 1b 5 Unit 3a 6 Unit 3b 7 Project Work 1 8 Unit 5a 9 Unit 5b 10 Unit 7a 11 Unit 7b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	R. K. Mason						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 1a 3 Pronunciation Training 4 Unit 1b 5 Unit 3a 6 Unit 3b 7 Project Work 1 8 Unit 5a 9 Unit 5b 10 Unit 7a 11 Unit 7b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	B. Plett						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Developing English Communication Skills						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression ; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	Improving Students' English Communication Skills in Listening and Speaking						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Talking about vacations 2. Talking about places to go and things to do 3. Giving opinions 4. Talking about movies and music 5. Talking about experiences 6. Talking about sports and activities 7. Review session 8. Describing places 9. Talking about world geography 10. Describing special events 11. Talking about birthdays and weddings 12. Giving advice 13. Talking about healthy lifestyles 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan.</p> <p>As this course is taught by two different teachers, one on Tuesday and one on Friday, the Units in the textbook will be divided between them. Individual teachers will, in class, advise the students which Units they should prepare for their classes. Each Unit will be covered in two classes.</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	None						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation 20%, conversational and listening ability 80%.						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 2. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407380</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 2 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407304</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	B. Plett						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 1a 3 Pronunciation Training 4 Unit 1b 5 Unit 3a 6 Unit 3b 7 Project Work 1 8 Unit 5a 9 Unit 5b 10 Unit 7a 11 Unit 7b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking A						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 2a 3 Library Orientation etc. 4 Unit 2b 5 Unit 4a 6 Unit 4b 7 Conversation Day 1 8 Unit 6a 9 Unit 6b 10 Unit 8a 11 Unit 8b 12 Conversation Day 2 13 Make-up Day 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	J. Angel						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 7a 2. Unit 7b 3. Unit 8a 4. Unit 8b 5. Progress Check 6. Evaluation Day 1 7. Unit 9a 8. Unit 9b 9. Unit 10a 10. Unit 10b 11. Progress Check 12. Evaluation Day 2 13. Unit 11a 14. Unit 11b 15. Unit 12a 16. Unit 12b 17. Progress Check 18. Evaluation Day 3 19. Unit 13a 20. Unit 13b 21. Unit 14a 22. Unit 14b 23. Progress Check 24. Evaluation Day 4 25. Unit 15a 26. Unit 15b 27. Unit 16a 28. Unit 16b 29. Evaluation Day 4 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	J. Angel						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 7a 2. Unit 7b 3. Unit 8a 4. Unit 8b 5. Progress Check 6. Evaluation Day 1 7. Unit 9a 8. Unit 9b 9. Unit 10a 10. Unit 10b 11. Progress Check 12. Evaluation Day 2 13. Unit 11a 14. Unit 11b 15. Unit 12a 16. Unit 12b 17. Progress Check 18. Evaluation Day 3 19. Unit 13a 20. Unit 13b 21. Unit 14a 22. Unit 14b 23. Progress Check 24. Evaluation Day 4 25. Unit 15a 26. Unit 15b 27. Unit 16a 28. Unit 16b 29. Evaluation Day 4 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	J. Angel						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 7a 2. Unit 7b 3. Unit 8a 4. Unit 8b 5. Progress Check 6. Evaluation Day 1 7. Unit 9a 8. Unit 9b 9. Unit 10a 10. Unit 10b 11. Progress Check 12. Evaluation Day 2 13. Unit 11a 14. Unit 11b 15. Unit 12a 16. Unit 12b 17. Progress Check 18. Evaluation Day 3 19. Unit 13a 20. Unit 13b 21. Unit 14a 22. Unit 14b 23. Progress Check 24. Evaluation Day 4 25. Unit 15a 26. Unit 15b 27. Unit 16a 28. Unit 16b 29. Evaluation Day 4 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	J. Angel						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 7a 2. Unit 7b 3. Unit 8a 4. Unit 8b 5. Progress Check 6. Evaluation Day 1 7. Unit 9a 8. Unit 9b 9. Unit 10a 10. Unit 10b 11. Progress Check 12. Evaluation Day 2 13. Unit 11a 14. Unit 11b 15. Unit 12a 16. Unit 12b 17. Progress Check 18. Evaluation Day 3 19. Unit 13a 20. Unit 13b 21. Unit 14a 22. Unit 14b 23. Progress Check 24. Evaluation Day 4 25. Unit 15a 26. Unit 15b 27. Unit 16a 28. Unit 16b 29. Evaluation Day 4 30. Conclusion and Make-up 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. 4th Ed. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	D. Chatham						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 2nd Semester Introduction 2 Unit 10a 3 Unit 10b 4 Unit 12a 5 Unit 12b 6 Conversation Day 1 7 Unit 14a 8 Unit 14b Unit 16a 10 Unit 16 11 Conversation Day 2 12 Challenge Practice 13 Challenge Conversation 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	D. Chatham						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 2nd Semester Introduction 2 Unit 10a 3 Unit 10b 4 Unit 12a 5 Unit 12b 6 Conversation Day 1 7 Unit 14a 8 Unit 14b Unit 16a 10 Unit 16 11 Conversation Day 2 12 Challenge Practice 13 Challenge Conversation 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	E. Dean						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Students' English Communication Skills						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression ; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	Improving Students' English Communication Skills in Listening and Speaking						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making complaints 2. Talking about stores and things to buy 3. Describing preferences 4. Talking about appearance and personality 5. Telling stories 6. Talking about accidents and injuries 7. Review session 8. Making speculations 9. Talking about animal features 10. Talking about past habits 11. Talking about school activities 12. Explaining possibilities 13. Talking about places to live 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan. As this course is taught by two different teachers, one on Tuesday and one of Friday, the Units in the textbook will be divided between them. Individual teachers will, in class, advise the students which Units they should prepare for their classes. Each Unit will be covered in two classes.</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation 20%, conversational and listening ability 80%						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 2. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407380</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 2 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407304</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	R. K. Mason						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 9a 3 Pronunciation Training 4 Unit 9b 5 Unit 11a 6 Unit 11b 7 Project Work 1 8 Unit 13a 9 Unit 13b 10 Unit 15a 11 Unit 15b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 20013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	R. K. Mason						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 9a 3 Pronunciation Training 4 Unit 9b 5 Unit 11a 6 Unit 11b 7 Project Work 1 8 Unit 13a 9 Unit 13b 10 Unit 15a 11 Unit 15b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	B. Plett						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	Students' English Communication Skills						
授業の概要	Classes will emphasize the following: language practice from controlled language to freer expression; pronunciation and listening practice; reading and talk based on reading topics; entertaining surveys and games that allow students to add their own information, ideas and opinions.						
到達目標	Improving Students' English Communication Skills in Listening and Speaking						
授業計画	<p>The class syllabus will follow the units in the textbook. Main components of the course and approximate week taught are:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Making complaints 2. Talking about stores and things to buy 3. Describing preferences 4. Talking about appearance and personality 5. Telling stories 6. Talking about accidents and injuries 7. Review session 8. Making speculations 9. Talking about animal features 10. Talking about past habits 11. Talking about school activities 12. Explaining possibilities 13. Talking about places to live 14. Review session 15. Revision and listening test <p>Note: Individual teachers may make adjustments to the week-by-week plan. As this course is taught by two different teachers, one on Tuesday and one on Friday, the Units in the textbook will be divided between them. Individual teachers will, in class, advise the students which Units they should prepare for their classes. Each Unit will be covered in two classes.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation 20%, conversational and listening ability 80%						
教科書	<p>Wilson, Ken. Smart Choice 2. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407380</p> <p>Wilson, Ken. Smart Choice 2 Workbook. Oxford: Oxford University Press, 2011. ISBN 978019 4407304</p>						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	B. Plett						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 Course Introduction 2 Unit 9a 3 Pronunciation Training 4 Unit 9b 5 Unit 11a 6 Unit 11b 7 Project Work 1 8 Unit 13a 9 Unit 13b 10 Unit 15a 11 Unit 15b 12 Project Work 2 13 Checking and Practice Day 14 Presentation 15 Review and Conclusion						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Power Speaking B						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	English Listening and Speaking						
授業の概要	This course, taught fully in English, will focus on the essentials for communicating in English: introducing yourself and others, talking about daily life, home life, eating and much more. An additional focus will be placed on listening practice and vocabulary building.						
到達目標	To improve as much as possible, students English conversational abilities.						
授業計画	1 2nd Semester Introduction 2 Unit 10a 3 Unit 10b 4 Unit 12a 5 Unit 12b 6 Conversation Day 1 7 Unit 14a 8 Unit 14b Unit 16a 10 Unit 16b 11 Conversation Day 2 12 Challenge Practice 13 Challenge Conversation 14 Listening Day 15 Review and Conclusion						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare for classes by looking forward in the textbook.						
授業方法	Skills						
評価基準と評価方法	Students will be evaluated based on class participation, conversations and a final listening test.						
教科書	Jack C. Richards. Interchange 1. Cambridge: Cambridge University Press, 2013.						
参考書	None						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Practical English Grammar A						
担当教員	吉井 康博						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	実践英文法演習						
授業の概要	Practical English Grammar Aは、英語の4技能の強化をはかるための基礎科目です。中学校・高等学校で学んだ英文法の知識を整理し、十分に理解しておくことは、外国語である英語を理解する上で必要不可欠であるだけでなく、さらに英語力を伸ばす効果的で効率のよい学習方法です。授業では、文法用語による説明は必要最小限にとどめ、用例を中心に文法の各項目の解説を行い、練習問題で学習内容を確認します。教科書は、日常的な会話やライティングに使える実用的な語彙や例文を扱ったものを使用します。						
到達目標	文法知識を演習形式で体系づけることにより、英文の意味を正確に捉え、正しい英語を話し、書けるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation / Perfect and Perfect Progressive Tenses (First Part) 2. Review Quiz / Future Time (First Part) 3. Review Quiz / Modals, Part II (First Part) 4. Review Quiz / The Passive (First Part) 5. Review Quiz / Noun Clauses (First Part) 6. Review Quiz / Adjective Clauses (First Part) 7. Review Quiz / Gerunds and Infinitives, Part I (First Part) 8. Review Quiz / Gerunds and Infinitives, Part II (First Part) 9. Review Quiz / Coordinating Conjunctions (First Part) 10. Review Quiz / Adverb Clauses (First Part) 11. Review Quiz / Reduction of Adverb Clauses to Adverbial Phrases (First Part) 12. Review Quiz / Connectives that Expresses Cause and Effect (First Part) 13. Review Quiz / Conditional Sentences and Wishes (First Part) 14. Question-and-Answer Session 15. End-of-Semester Review Quiz 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回復習テストを行いますから、しっかりとテスト準備をすること。						
授業方法	基本事項の解説の後、練習問題を解いていきます。						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30% / Participation: 10% / End-of-Semester Review Quiz 60%						
教科書	Understanding and Using English Grammar WORKBOOK Betty S. Azar他 PEARSON EDUCATION / Longman ISBN 0-13-241543-7 978-0-13-241543-9						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Practical English Grammar B						
担当教員	吉井 康博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	実践英文法演習						
授業の概要	Practical English Grammar Aと同様中学校・高等学校で学んだ英文法を復習し知識を整理することで、英語の理解と運用に役立てます。授業も文法用語による説明は必要最小限にとどめ、用例を用いてできるだけ具体的に説明し、練習問題で学習内容を確認します。前期のAと後期のBで、英語を理解し運用するのに必要な英文法の基本的な項目全般について一通り見ていき、実践的な知識を養います。						
到達目標	文法知識を演習形式で体系づけることにより英文の意味を正確に捉え、正しい英語を話し書けるようにします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation / Perfect and Perfect Progressive Tenses (Second Part) 2. Review Quiz / Future Time (Second Part) 3. Review Quiz / Modals, Part II (Second Part) 4. Review Quiz / The Passive (Second Part) 5. Review Quiz / Noun Clauses (Second Part) 6. Review Quiz / Adjective Clauses (Second Part) 7. Review Quiz / Gerunds and Infinitives, Part I (Second Part) 8. Review Quiz / Gerunds and Infinitives, Part II (Second Part) 9. Review Quiz / Coordinating Conjunctions (Second Part) 10. Review Quiz / Adverb Clauses (Second Part) 11. Review Quiz / Reduction of Adverb Clauses to Adverbial Phrases (Second Part) 12. Review Quiz / Connectives that Expresses Cause and Effect (Second Part) 13. Review Quiz / Conditional Sentences and Wishes (Second Part) 14. Question-and-Answer Session 15. End-of-Semester Review Quiz 						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回復習テストを行いますから、しっかりとテスト準備をすること。						
授業方法	基本事項の解説の後、練習問題を解いていきます。						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30% / Participation: 10% / End-of-Semester Review Quiz 60%						
教科書	Understanding and Using English Grammar WORKBOOK Betty S. Azar他 PEARSON EDUCATION / Longman ISBN 0-13-241543-7 978-0-13-241543-9						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Reading for Developing Beliefs A						
担当教員	柏本 吉章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読み、内容を的確に把握する力の養成						
授業の概要	さまざまな内容の英文を前にして、構文、文法、単語、イディオムなど、適切な知識を駆使して効率的にその内容を把握する技術が身につくように、徹底した英文読解訓練をします。日常生活に身近なビジネスに関連する話題を取り上げ、TOEIC対策等に生かせる語彙力の強化を目指します。						
到達目標	効率的でかつ正確なリーディングのための技術と実社会で役立つ語彙力が身につくこと						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション：Readingの姿勢、Readingの楽しみ 第2回 Chapter 1 Kewpie: A World beyond Mayonnaise ① 第3回 Chapter 1 Kewpie: A World beyond Mayonnaise ② 第4回 Chapter 2 Shimadzu: X-ray Eyes that Saw through the Future ① 第5回 Chapter 2 Shimadzu: X-ray Eyes that Saw through the Future ② 第6回 Chapter 2 Shimadzu: X-ray Eyes that Saw through the Future ③ 第7回 Chapter 4 Wacoal: Startling with "Inner" Beauty ① 第8回 Chapter 4 Wacoal: Startling with "Inner" Beauty ② 第9回 Chapter 1-4の復習、中間試験 第10回 Chapter 5 Yairi Guitar: Sweet Sounds of Success ① 第11回 Chapter 5 Yairi Guitar: Sweet Sounds of Success ② 第12回 Chapter 5 Yairi Guitar: Sweet Sounds of Success ③ 第13回 Chapter 6 KGS: Setting Sights on a Barrier-free World ① 第14回 Chapter 6 KGS: Setting Sights on a Barrier-free World ② 第15回 Chapter 5-6の復習、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	指示された部分の語彙の意味調べや練習問題など、授業前の十分な予習を前提とします。						
授業方法	英文講読と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	中間試験と期末試験70%、平常点30%						
教科書	『Front-runners in the 21st Century: 12 Outstanding Companies (挑戦する企業—ものづくりへの情熱とビジネス成功の秘訣)』、Brenda Hayashi他著、松柏社、ISBN4-88198-576-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Reading for Developing Beliefs A						
担当教員	白川 計子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	リーディングを楽しむ						
授業の概要	英文を楽しく読む体験をする。英語の読解力の向上を目指す。特に、語彙力、内容の推測力を鍛え、訳読に頼らず内容把握できることを目指す。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力が身につく。 (2) 単に語学的な知識が身につくだけでなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を獲得できる。						
授業計画	第1回 Introduction 第2回 Lesson 1 第3回 Lesson 2 第4回 Lesson 3 第5回 Lesson 4 第6回 Lesson 5 第7回 Lesson 6 第8回 Midterm Exam (Idioms and Vocabularies) 第9回 Lesson 7 第10回 Lesson 8 第11回 Lesson 9 第12回 Lesson 10 第13回 Lesson 11 第14回 Review and Pre-exam 第15回 Review and Final Exam						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストの予習						
授業方法	リーディングと講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、試験50%						
教科書	Focus on Reading! 「読み方から教えるリーディング・レッスン」Richard Carpenter/関口智子著(松柏社) ISBN978-4-88198-659-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Reading for Developing Beliefs B						
担当教員	柏本 吉章						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	英文を正確に読む力、的確に理解する力を養成する						
授業の概要	さまざまな内容の英文を前にして、構文、文法、単語、イディオムなど、適切な知識を駆使して効率的にその内容を把握する技術が身につくように、徹底した英文読解訓練をします。最新のビジネスに関連する話題をとりあげたテキストを使い、TOEIC対策等に生かせる語彙力の強化を目指します。						
到達目標	効率的でかつ正確なリーディングのための技術と実社会で役立つ語彙力が身につくこと						
授業計画	第1回 Chapter 7 Casio Computer: Shockingly Revolutionary ① 第2回 Chapter 7 Casio Computer: Shockingly Revolutionary ② 第3回 Chapter 7 Casio Computer: Shockingly Revolutionary ③ 第4回 Chapter 9 Kao: More than Just a Pretty Face ① 第5回 Chapter 9 Kao: More than Just a Pretty Face ② 第6回 Chapter 9 Kao: More than Just a Pretty Face ③ 第7回 Chapter 10 Kyocera: Business, the Kyocera Way ① 第8回 Chapter 10 Kyocera: Business, the Kyocera Way ② 第9回 Chapter 7-10の復習、中間試験 第10回 Chapter 11 Sanrio: Big Smile from Small Gifts ① 第11回 Chapter 11 Sanrio: Big Smile from Small Gifts ② 第12回 Chapter 11 Sanrio: Big Smile from Small Gifts ③ 第13回 Chapter 12 MOS FOOD SERVICE: The MOST Delicious Burger in Town ① 第14回 Chapter 12 MOS FOOD SERVICE: The MOST Delicious Burger in Town ② 第15回 Chapter 11-12の復習、期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	指示された部分の語彙の意味調べや練習問題など、授業前の十分な予習を前提とします。						
授業方法	英文講読と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	中間試験と期末試験70%、平常点30%						
教科書	『Front-runners in the 21st Century: 12 Outstanding Companies (挑戦する企業—ものづくりへの情熱とビジネス成功の秘訣)』、Brenda Hayashi他著、松柏社、ISBN4-88198-576-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Reading for Developing Beliefs B						
担当教員	白川 計子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	リーディングを楽しむ						
授業の概要	英文を楽しく読む体験をする。英語の読解力の向上を目指す。特に、語彙力、内容の推測力を鍛え、訳読に頼らず内容把握できることを目指す。						
到達目標	(1) 英文を正確に読み、内容を把握する力が身につく。 (2) 単に語学的な知識が身につくだけでなく、文化、政治、歴史、社会状況などのような人間の行動の背景となる知識を獲得できる。						
授業計画	未定						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストの予習						
授業方法	リーディングと講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、試験50%						
教科書	未定						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs A						
担当教員	M. Bowden						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Aは、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIA.)						
到達目標	Class activity will consist of a variety of communication activities. One part of class time will be dedicated to the preparation and actualization of a poster presentation. 授業では様々な練習を通じて、より長く持続できるコミュニケーションと会話術を学ぶ。授業時間の一部を割いて、プレゼンテーションの準備と発表を行う。						
授業計画	第1回：Introducing oneself. Basic conversation. (Unit 1) 第2回：Meeting people (Unit 2) 第3回：Talking about food and cooking (Unit 3) 第4回：Talking about the weather (Unit 4) 第5回：Review Units 1-4 and further practice 第6回：Choosing a topic for the poster presentation 第7回：Talking about work (Unit 5) 第8回：Talking about hobbies and other activities (Unit 6) 第9回：Review Units 5 and 6 and further practice 第10回：Preparation and practice for poster presentation 第11回：In class poster presentation contest 第12回：Talking about sports and games (Unit 7) 第13回：Talking about transportation and travel (Unit 8) 第14回：Review Units 7 and 8 and further practice 第15回：Review and test						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their poster presentation, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their poster presentation (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、プレゼンテーション (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let's Talk 2, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69284-7						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs A						
担当教員	H. Mallett						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Aは、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIA.)						
到達目標	Class activity will consist of a variety of communication activities. One part of class time will be dedicated to the preparation and actualization of a poster presentation. 授業では様々な練習を通じて、より長く持続できるコミュニケーションと会話術を学ぶ。授業時間の一部を割いて、プレゼンテーションの準備と発表を行う。						
授業計画	第1回： Meeting people (Unit 1) 第2回： Expressing yourself (Unit 2) 第3回： Talking about crime (Unit 3) 第4回： Talking about surprising happenings (Unit 4) 第5回： Review Units 1-4 and further practice 第6回： Choosing a topic for the poster presentation 第7回： Talking about education and learning (Unit 5) 第8回： Talking about famous people (Unit 6) 第9回： Review Units 5 and 6 and further practice 第10回： Preparation and practice for poster presentation 第11回： In class poster presentation contest 第12回： Talking about the world (Unit 7) 第13回： Talking about technology (Unit 8) 第14回： Review Units 7 and 8 and further practice 第15回： Review and test						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their poster presentation, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their poster presentation (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、プレゼンテーション (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 3, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69287-8						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs A						
担当教員	H. Mallett						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Aは、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIA.)						
到達目標	Class activity will consist of a variety of communication activities. One part of class time will be dedicated to the preparation and actualization of a poster presentation. 授業では様々な練習を通じて、より長く持続できるコミュニケーションと会話術を学ぶ。授業時間の一部を割いて、プレゼンテーションの準備と発表を行う。						
授業計画	第1回： Meeting people (Unit 1) 第2回： Expressing yourself (Unit 2) 第3回： Talking about crime (Unit 3) 第4回： Talking about surprising happenings (Unit 4) 第5回： Review Units 1-4 and further practice 第6回： Choosing a topic for the poster presentation 第7回： Talking about education and learning (Unit 5) 第8回： Talking about famous people (Unit 6) 第9回： Review Units 5 and 6 and further practice 第10回： Preparation and practice for poster presentation 第11回： In class poster presentation contest 第12回： Talking about the world (Unit 7) 第13回： Talking about technology (Unit 8) 第14回： Review Units 7 and 8 and further practice 第15回： Review and test						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their poster presentation, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their poster presentation (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、プレゼンテーション (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 3, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69287-8						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs A						
担当教員	A. J. Silva						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Aは、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIA.)						
到達目標	Class activity will consist of a variety of communication activities. One part of class time will be dedicated to the preparation and actualization of a poster presentation. 授業では様々な練習を通じて、より長く持続できるコミュニケーションと会話術を学ぶ。授業時間の一部を割いて、プレゼンテーションの準備と発表を行う。						
授業計画	第1回：Introducing oneself. Basic conversation. (Unit 1) 第2回：Meeting people (Unit 2) 第3回：Talking about food and cooking (Unit 3) 第4回：Talking about the weather (Unit 4) 第5回：Review Units 1-4 and further practice 第6回：Choosing a topic for the poster presentation 第7回：Talking about work (Unit 5) 第8回：Talking about hobbies and other activities (Unit 6) 第9回：Review Units 5 and 6 and further practice 第10回：Preparation and practice for poster presentation 第11回：In class poster presentation contest 第12回：Talking about sports and games (Unit 7) 第13回：Talking about transportation and travel (Unit 8) 第14回：Review Units 7 and 8 and further practice 第15回：Review and test						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their poster presentation, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their poster presentation (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、プレゼンテーション (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 2, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69284-7						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs B						
担当教員	M. Bowden						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Bは、Speaking for Expressing Beliefs Aを受けて、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIB.)						
到達目標	In Speaking for Expressing Beliefs B students will focus on improving their conversational abilities , as well as practice engaging in simple discussion on topics of personal and social interest. One part of class time will be dedicated to the preparation of a speech and participation in a class speech contest. Speaking for Expressing Beliefs Bでは英語会話能力がある一定のレベルに達した学生が、教室での活動を通じて、若者に興味のある様々な個人的・社会的な話題についての自分の意味を形成し、明確かつ簡潔に正確な英語で表現できるようになることを目指す。授業時間の一部を割いて、スピーチの準備と発表をおこなう。						
授業計画	第1回 : Talking about vacation (Unit 9) 第2回 : Talking about machines and technology (Unit 10) 第3回 : Review Units 9 and 10 and further practice 第4回 : Talking about the environment (Unit 11) 第5回 : Talking about news and current events (Unit 12) 第6回 : Choosing a topic for the speech contest 第7回 : Talking about city life (Unit 13) 第8回 : Review Units 11-13 and further practice 第9回 : Preparation for the speech contest 第10回 : In class speech contest 第11回 : Talking about entertainment and art (Unit 14) 第12回 : Talking about memories (Unit 15) 第13回 : Comedy and humor (Unit 16) 第14回 : Review Units 14-16 and further practice 第15回 : Review and test						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their speech, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their speech (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、スピーチ (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 2, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69284-7						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs B						
担当教員	H. Mallett						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Bは、Speaking for Expressing Beliefs Aを受けて、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIB.)						
到達目標	In Speaking for Expressing Beliefs B students will focus on improving their conversational abilities , as well as practice engaging in simple discussion on topics of personal and social interest. One part of class time will be dedicated to the preparation of a speech and participation in a class speech contest. Speaking for Expressing Beliefs Bでは英語会話能力がある一定のレベルに達した学生が、教室での活動を通じて、若者に興味のある様々な個人的・社会的な話題についての自分の意味を形成し、明確かつ簡潔に正確な英語で表現できるようになることを目指す。授業時間の一部を割いて、スピーチの準備と発表をおこなう。						
授業計画	第1回 : Talking about health (Unit 9) 第2回 : Talking about money (Unit 10) 第3回 : Review Units 9 and 10 and further practice 第4回 : Talking about the news (Unit 11) 第5回 : Talking about relationships (Unit 12) 第6回 : Choosing a topic for the speech contest 第7回 : Talking about adventure (Unit 13) 第8回 : Review Units 11-13 and further practice 第9回 : Preparation for the speech contest 第10回 : In class speech contest 第11回 : Talking about self-improvement (Unit 14) 第12回 : Talking about travel and tourism (Unit 15) 第13回 : Talking about employment (Unit 16) 第14回 : Review Units 14-16 and further practice 第15回 : Review and test						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their speech, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their speech (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、スピーチ (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 3, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69287-8						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs B						
担当教員	H. Mallett						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Bは、Speaking for Expressing Beliefs Aを受けて、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIB.)						
到達目標	In Speaking for Expressing Beliefs B students will focus on improving their conversational abilities , as well as practice engaging in simple discussion on topics of personal and social interest. One part of class time will be dedicated to the preparation of a speech and participation in a class speech contest. Speaking for Expressing Beliefs Bでは英語会話能力がある一定のレベルに達した学生が、教室での活動を通じて、若者に興味のある様々な個人的・社会的な話題についての自分の意味を形成し、明確かつ簡潔に正確な英語で表現できるようになることを目指す。授業時間の一部を割いて、スピーチの準備と発表をおこなう。						
授業計画	第1回 : Talking about health (Unit 9) 第2回 : Talking about money (Unit 10) 第3回 : Review Units 9 and 10 and further practice 第4回 : Talking about the news (Unit 11) 第5回 : Talking about relationships (Unit 12) 第6回 : Choosing a topic for the speech contest 第7回 : Talking about adventure (Unit 13) 第8回 : Review Units 11-13 and further practice 第9回 : Preparation for the speech contest 第10回 : In class speech contest 第11回 : Talking about self-improvement (Unit 14) 第12回 : Talking about travel and tourism (Unit 15) 第13回 : Talking about employment (Unit 16) 第14回 : Review Units 14-16 and further practice 第15回 : Review and test						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their speech, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their speech (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、スピーチ (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 3, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69287-8						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Speaking for Expressing Beliefs B						
担当教員	A. J. Silva						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	Conversational and topical English speaking						
授業の概要	Speaking for Expressing Beliefs Bは、Speaking for Expressing Beliefs Aを受けて、学生の日常英会話の能力を幅広いコミュニケーションの機能と場面に適用できるレベルに伸ばすことを目的とする。 (This class is taught concurrently with Power Speaking IIB.)						
到達目標	In Speaking for Expressing Beliefs B students will focus on improving their conversational abilities , as well as practice engaging in simple discussion on topics of personal and social interest. One part of class time will be dedicated to the preparation of a speech and participation in a class speech contest. Speaking for Expressing Beliefs Bでは英語会話能力がある一定のレベルに達した学生が、教室での活動を通じて、若者に興味のある様々な個人的・社会的な話題についての自分の意味を形成し、明確かつ簡潔に正確な英語で表現できるようになることを目指す。授業時間の一部を割いて、スピーチの準備と発表をおこなう。						
授業計画	第1回 : Talking about vacation (Unit 9) 第2回 : Talking about machines and technology (Unit 10) 第3回 : Review Units 9 and 10 and further practice 第4回 : Talking about the environment (Unit 11) 第5回 : Talking about news and current events (Unit 12) 第6回 : Choosing a topic for the speech contest 第7回 : Talking about city life (Unit 13) 第8回 : Review Units 11-13 and further practice 第9回 : Preparation for the speech contest 第10回 : In class speech contest 第11回 : Talking about entertainment and art (Unit 14) 第12回 : Talking about memories (Unit 15) 第13回 : Comedy and humor (Unit 16) 第14回 : Review Units 14-16 and further practice 第15回 : Review and test						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should prepare the appropriate lessons from the textbook before coming to class. Students will also need to spend time researching information for use in their speech, as well as dedicating time for preparation and practice.						
授業方法	Practical (実習)						
評価基準と評価方法	Evaluation will be based on participation in class activities (60%), the work on their speech (20%), and a final test (20%). 授業活動 (20%)、スピーチ (20%)、定期試験 (20%) で総合的に評価する。						
教科書	Let' s Talk 2, 2nd edition Leo Jones Cambridge University Press ISBN 978-0-521-69284-7						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs A						
担当教員	J. Angel						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	The aim of this course is to review different sorts of words and usage, clauses, sentences, and paragraphs. You will learn how to write about yourself and your hobbies, write a movie review and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 Keeping in Touch, Recent news about family and friends - Language Study 3. Chapter 1 Keeping in Touch - Writing 4. Chapter 2 Tourist Information, a place you have visited - Language Study 5. Chapter 2 Tourist Information - Writing 6. Chapter 3 Celebration, events and festivals - Language Study 7. Chapter 3 Celebration - Writing 8. Hand in homework / Language Review 1 9. Chapter 4 The Last Time, past events - Language Study 10. Chapter 4 The Last Time - Writing 11. Chapter 5 Memories, recalling childhood - Language Study 12. Chapter 5 Memories - Writing 13. Chapter 6 I'd Love to Come - Language Study 14. Chapter 6 I'd Love to Come - Writing 15. Hand in homework / Language Review 2 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs A						
担当教員	A. E. Jackson						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	The aim of this course is to review different sorts of words and usage, clauses, sentences, and paragraphs. You will learn how to write about yourself and your hobbies, write a movie review and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 Keeping in Touch, Recent news about family and friends 3. Chapter 2 Tourist Information, a place you have visited 4. Chapter 3 Celebration, events and festivals 5. Hand in homework / Language Review 1 6. Chapter 4 The Last Time, past events 7. Chapter 5 Memories, recalling childhood 8. Chapter 6 I'd Love to Come 9. Hand in homework / Language Review 2 10. Movie 11. Writing a movie review 12. Chapter 7 Cards for All Occasions, writing greeting cards 13. Chapter 8 Living Abroad, impressions of life in another country 14. Chapter 9 A Social Problem, issues and answers 15. Hand in homework / Language Review 3 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs A						
担当教員	B. Plett						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	The aim of this course is to review different sorts of words and usage, clauses, sentences, and paragraphs. You will learn how to write about yourself and your hobbies, write a movie review and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 Keeping in Touch, Recent news about family and friends 3. Chapter 2 Tourist Information, a place you have visited 4. Chapter 3 Celebration, events and festivals 5. Hand in homework / Language Review 1 6. Chapter 4 The Last Time, past events 7. Chapter 5 Memories, recalling childhood 8. Chapter 6 I'd Love to Come 9. Hand in homework / Language Review 2 10. Movie 11. Writing a movie review 12. Chapter 7 Cards for All Occasions, writing greeting cards 13. Chapter 8 Living Abroad, impressions of life in another country 14. Chapter 9 A Social Problem, issues and answers 15. Hand in homework / Language Review 3 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs A						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	The aim of this course is to review different sorts of words and usage, clauses, sentences, and paragraphs. You will learn how to write about yourself and your hobbies, write a movie review and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Chapter 1 Keeping in Touch, Recent news about family and friends - Language Study 3. Chapter 1 Keeping in Touch - Writing 4. Chapter 2 Tourist Information, a place you have visited - Language Study 5. Chapter 2 Tourist Information - Writing 6. Chapter 3 Celebration, events and festivals - Language Study 7. Chapter 3 Celebration - Writing 8. Hand in homework / Language Review 1 9. Chapter 4 The Last Time, past events - Language Study 10. Chapter 4 The Last Time - Writing 11. Chapter 5 Memories, recalling childhood - Language Study 12. Chapter 5 Memories - Writing 13. Chapter 6 I'd Love to Come - Language Study 14. Chapter 6 I'd Love to Come - Writing 15. Hand in homework / Language Review 2 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs B						
担当教員	J. Angel						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	You will learn how to write letters, speeches and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 7 Cards for All Occasions, writing greeting cards 2. Chapter 8 Living Abroad, impressions of life in another country - Language Study 3. Chapter 8 Living Abroad - Writing 4. Chapter 9 A Social Problem, issues and answers - Language Study 5. Chapter 9 A Social Problem - Writing 6. Hand in homework / Language Review 3 7. Chapter 10 - Study Abroad, Contacting a language school abroad - Language Study 8. Chapter 10 - Study Abroad - Writing 9. Chapter 11 - A New Employee, Dealing with a staff member from abroad - Language Study 10. Chapter 11 - A New Employee - Writing 11. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Language Study 12. Chapter 12 - Getting a job - Writing 13. Presentation 14. Hand in homework / Language Review 4 15. Course Review 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs B						
担当教員	A. E. Jackson						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	You will learn how to write letters, speeches and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 10 - Study Abroad, Contacting a language school abroad - Language Study 2. Chapter 10 - Study Abroad - Writing 3. Chapter 11 - A New Employee, Dealing with a staff member from abroad - Language Study 4. Chapter 11 - A New Employee - Writing 5. Speech writing 1 6. Speech writing 2 7. Class speech contest 8. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Language Study 9. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Writing 10. Presentation 11. Hand in homework / Language Review 4 12. Essay writing 1 13. Essay writing 2 14. Essay writing 3 15. Hand in homework / Course Review 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs B						
担当教員	B. Plett						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	You will learn how to write letters, speeches and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 10 - Study Abroad, Contacting a language school abroad - Language Study 2. Chapter 10 - Study Abroad - Writing 3. Chapter 11 - A New Employee, Dealing with a staff member from abroad - Language Study 4. Chapter 11 - A New Employee - Writing 5. Speech writing 1 6. Speech writing 2 7. Class speech contest 8. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Language Study 9. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Writing 10. Presentation 11. Hand in homework / Language Review 4 12. Essay writing 1 13. Essay writing 2 14. Essay writing 3 15. Hand in homework / Course Review 						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	Writing for Expressing Beliefs B						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	English Composition						
授業の概要	This course is designed to develop skills in formulating and organizing your ideas and expressing those ideas in written English.						
到達目標	You will learn how to write letters, speeches and use different types of language for formal and informal situations.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Chapter 7 Cards for All Occasions, writing greeting cards 2. Chapter 8 Living Abroad, impressions of life in another country - Language Study 3. Chapter 8 Living Abroad - Writing 4. Chapter 9 A Social Problem, issues and answers - Language Study 5. Chapter 9 A Social Problem - Writing 6. Hand in homework / Language Review 3 7. Chapter 10 - Study Abroad, Contacting a language school abroad - Language Study 8. Chapter 10 - Study Abroad - Writing 9. Chapter 11 - A New Employee, Dealing with a staff member from abroad - Language Study 10. Chapter 11 - A New Employee - Writing 11. Chapter 12 - Getting a job, The application and interview process - Language Study 12. Chapter 12 - Getting a job - Writing 13. Presentation 14. Hand in homework / Language Review 4 15. Course Review 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students should read the textbook before class and finish homework on time.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, homework, essays and reports.						
教科書	'Writing Plus', Alan Jackson, Kinseido ISBN 4-7647-3803-1						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	アカデミックライティングA						
担当教員	山内 啓子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	学術的な英文ライティング						
授業の概要	アカデミックな文書を書くために1,2年次で培ったパラグラフィティングの能力を発展させます。この授業では基本である文法上の規則を再認識することから始め、メモ書き・下書き・見直し・編集を経て、より良い文書作成へと進めてゆきます。その際に様々なライティングのルールや方法を学び、幅広いテーマについて、記述、物語、論証などの様々な文体を書く能力を身につけます。						
到達目標	論文の書き方のルールが分かり、前期にはトピックセンテンスの機能、導入、主要部が明快になったパラグラフが書けるようになります。						
授業計画	<p>アカデミック文書を書くための方法や約束事を学び、それらを習熟するために様々な文章を書き、点検し実力をつけていきます。そのためにテキストを活用しながら授業を行います。</p> <p>前期：Chapter 1~7</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. chapter 1 単語レベルの確認（品詞等、）語彙の充実 3. chapter 1 brain storming, メモ書き 4. chapter 2 描写力の向上 5. chapter 2 パラグラフ構造の確認 6. chapter 3 可算/不可算語 7. chapter 3 トピックセンテンス 8. chapter 4 冠詞の問題 9. chapter 4 パラグラフの主要部の書き方 10. revision CVの書き方 11. chapter 5 文章の構成確認 12. chapter 5 パラグラフの結論文の書き方 13. chapter 6 記述文 14. chapter 7 記述文・見直し・編集 15. chapter 7 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：テキストを読み、練習問題を解いておく。</p> <p>授業後学習：課題を作成し、必ず次の授業で提出すること。</p>						
授業方法	<p>授業中には個人の書く文章を個別に添削したり、板書で手本を示し、分り易い丁寧な授業を行います。</p> <p>ほぼ毎週ワープロ打ちの原稿提出の課題があります。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業への積極参加、小テスト、提出物等の累積評価を試験に加味します。</p> <p>提出課題50%, テスト累計30%, 授業参加20%</p>						
教科書	'From Word to Letter' (P.Mallett & 山内啓子 共著) 開文社 ISBN978-4-87571-742-3						
参考書	授業中にプリントで配布します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	アカデミックライティングB						
担当教員	山内 啓子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	学術的な英文ライティング						
授業の概要	アカデミックな文書を書くために1,2年次で培ったパラグラフライティングの能力を発展させます。前期に引き続き学術的な主題についてのライティングができるように学びを進めます。また、卒業論文のサマリーが書けるように、さらに論文を英語で書きたいと希望する学生のために学術論文の作成に関しても指導します。						
到達目標	後期には、論文の書き方のルールが分かり、論理的な構成ができた文書が書けるようになります。						
授業計画	後期 : Chapter 7~12 1. Revision + chapter 7 前期の復習 2. chapter 8 パラグラフの構成再確認 3. chapter 9 物語の書き方 4. chapter 9 物語の書き方2 5. chapter 10 論証文の書き方 6. chapter 10 論証文の書き方2 7. chapter 10 論証文の書き方3 8. Revision 確認テスト 9. 補助教材 英文サマリーの書き方 10. 補助教材 英文サマリーの書き方2 11. chapter 12 公的文書の書き方 12. chapter 12 公的文書の書き方 13. 補助教材 論文の書き方 14. 補助教材 論文の書き方2 15. Revision まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストを読み、練習問題を解いておく。 授業後学習：課題を作成し、必ず次の授業で提出すること。						
授業方法	授業中には個人の書く文章を個別に添削したり、板書で手本を示し、分り易い丁寧な授業を行います。 ほぼ毎週ワープロ打ちの原稿提出の課題があります。						
評価基準と評価方法	授業への積極参加、小テスト、提出物等の累積評価を試験に加味します。 提出課題50%, テスト累計30%, 授業参加20%						
教科書	'From Word to Letter' (P.Mallett & 山内啓子 共著) 開文社 ISBN978-4-87571-742-3						
参考書	授業中にプリントで配布します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	意味と運用A						
担当教員	郡司 隆男						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	単語と文の「意味」を考えます						
授業の概要	<p>ことばには、形式（音）と内容（意味）という2つの側面があります。この中でも特に重要なのは意味です。ことばを理解するということは意味を理解することであり、ものを考えるというの、ものごとの意味を考えるということに他ならないからです。</p> <p>もともと、意味とは何かと考えると、とても難しい問題であることに気づくと思います。この授業では、英語や日本語の日常のことばの使用例の中から、単語と文の意味にまつわるさまざまな現象を取り上げ、それらを整理しつつ、一定の原則にまとめていきます。</p> <p>まず、単語の意味の成り立ちを整理し、単語どうしの意味には規則的な関係があることを見ます。その上で、単語の意味がどのようにして文の意味につながっていくのかを系統的に解説していく予定です。</p>						
到達目標	この授業では、ことばの大事な要素である、単語と文の「意味」をめぐる多様な問題を通じて、ことばとそれを使う人間をより深く理解することを目的とします。今まであまり考えたことがなかった問題かもしれませんが、少しでも、ことばを見る目が深まることを期待します。						
授業計画	第1回：この授業で学ぶこと 第2回：知っているようで知らない「意味」 第3回：「意味」とは何か、語の意味 第4回：単語の構造（1） 第5回：単語の構造（2） 第6回：単語の構造（3） 第7回：文の意味 第8回：意味と論理（1） 第9回：意味と論理（2） 第10回：単語の意味の分解（1） 第11回：単語の意味の分解（2） 第12回：複合動詞の意味（1） 第13回：複合動詞の意味（2） 第14回：複合動詞の意味（3） 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前に配られた資料は授業の前に読んでおくこと。テーマの区切りごとに課題を出します。その際に自分の理解の不十分なところがあったら自分で調べるなどして補っておくこと。						
授業方法	1, 2回の導入の後、配布資料などにしたがって、講義形式で進めていきます。練習問題の一部は授業中に一緒に考えていき、その場で解答してもらいます。一部は宿題とし、その採点結果は、成績評価の材料にします。						
評価基準と評価方法	授業中の小テストないし宿題の出来具合に平常点を加味して成績をつけます。前半で出席率が極端に悪い人は、単位を必要としないものと判断することもあるので、無間に欠席しないよう注意して下さい。						
教科書	ハンドアウトを用意します。						
参考書	『意味と文脈』（今仁生美・金水敏、岩波書店）、『単語と文の構造』（郡司隆男、岩波書店）、『ことばの科学ハンドブック』（郡司隆男・西垣内泰介編著、研究社）、『形態論と意味』（影山太郎、くろしお出版）、その他、授業時間中に指示します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	意味と運用B						
担当教員	郡司 隆男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文の意味、さらに、一文を越えた、ことばの使用場面に関わる「意味」の問題を考えます						
授業の概要	<p>文と文の間の論理的な関係を理解するとともに、論理では捉えきれない意味の多彩さについても考えます。意味の問題を通して、言語の不思議さ・おもしろさを経験してもらう予定です。</p> <p>授業では、英語や日本語の日常の場面に即したことばの使用例から、会話の相手に話し手の意図がどのように伝わっていくかを整理して、そこに見出される一定の法則性を明らかにしていきます。</p> <p>また、文章・談話の意味を中心に考えることを通じて、論理的に効果のある論証のしかたを実例に即して考えていきます。</p>						
到達目標	ことばの「意味」をめぐる多様な問題を通じて、ことばを使う人間をより深く理解することを目的とします。今まで何げなく使っていたことばの使い方に潜む深い原理を理解することを期待します。						
授業計画	<p>第1回: この授業で学ぶこと</p> <p>第2回: 演繹と推測 (1)</p> <p>第3回: 演繹と推測 (2)</p> <p>第4回: 条件構造 (1)</p> <p>第5回: 条件構造 (2)</p> <p>第6回: 条件構造 (3)</p> <p>第7回: What is pragmatics?</p> <p>第8回: Entailment</p> <p>第9回: Presupposition</p> <p>第10回: The co-operative principle and implicature</p> <p>第11回: More on implicatures</p> <p>第12回: Speech acts</p> <p>第13回: More about speech acts</p> <p>第14回: Politeness</p> <p>第15回: まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前に配られた資料は授業の前に読んでおくこと。テーマの区切りごとに課題を出します。その際に自分の理解の不十分なところがあったら自分で調べるなどして補っておくこと。						
授業方法	1, 2回の導入の後、配布資料などにしたがって、講義形式で進めていきます。練習問題の一部は授業中に一緒に考えていき、その場で解答してもらいます。一部は宿題とし、その採点結果は、成績評価の材料にします。						
評価基準と評価方法	授業中の小テストないし宿題の出来具合に平常点を加味して成績をつけます。前半で出席率が極端に悪い人は、単位を必要としないものと判断することもあるので、無闇に欠席しないよう注意して下さい。						
教科書	ハンドアウトを用意します。						
参考書	『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書)、Pragmatics (Jean Stilwell Peccei, Routledge)、その他 授業時間中に指示する。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	エアラインイングリッシュ						
担当教員	安藤 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	エアライン（航空業界）を素材にして、英語でのCommunication能力を習得、向上させる						
授業の概要	エアラインイングリッシュでは、英語による基本的な自己紹介から、実際のエアラインの面接試験の質疑で問われるような高度な質問まで、広範囲にわたって英語による質疑応答を学習し、国内エアラインの英会話面接のみならず、外資系エアラインの試験にも対応できるようなコミュニケーション能力を身につける。さらに、望まれる素養・適性はなにか、面接の際の態度と言ったことも学ぶ。同時に、機内アナウンス、機内での会話、エアライン用語なども学習し、エアラインで必要とされる英語力の総合的な向上を目指す。エアラインを志望しない学生のかたも、興味深く楽しんで学習できる内容です。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語による自己紹介ができるようになる 2. 乗客としても乗務員としても、機内で必要な会話のほとんどを英語でできるようになる 3. 英語の機内アナウンスを、理解でき、かつ実施できるようになる 4. 「エアライン」に関する専門用語を習得する 						
授業計画	<p>Part1 Interview Questions</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Basic Questions (名前、家族 etc.) 2. Basic Questions (出身地、アルバイト etc.) 3. Have you ever been abroad/ 4. How is your command of English? 5. What did you enjoy most? 6. What do you do to stay fit? 7. Motives & Reasons (志望動機) <p>Part2 In-flight English</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 1. Befor Departure 9. 2. Liquor Service 10. 3. Meal Service 11. 4. In-flight Sales 12. 5. Customs, Immigration and Quarantine 6. In-flight Entertainment 13. 7. Airsick Passenger 14. 8. In-flight information 15. 9. After Landing&Faresell <p>*We study specific words and phrases for Airline in every session.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	初回授業時に、クラス内にて指示します。						
授業方法	講義と、テキストに沿った実践的practiceで行います。						
評価基準と評価方法	平常点15%、試験85% (アナウンス試験と筆記試験)						
教科書	教科書に関しては、初回授業時に、クラス内にて指示します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	エアラインイングリッシュ						
担当教員	安藤 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	エアライン（航空業界）を素材にして、英語でのCommunication能力を習得、向上させる						
授業の概要	エアラインイングリッシュでは、英語による基本的な自己紹介から、実際のエアラインの面接試験の質疑で問われるような高度な質問まで、広範囲にわたって英語による質疑応答を学習し、国内エアラインの英会話面接のみならず、外資系エアラインの試験にも対応できるようなコミュニケーション能力を身につける。さらに、望まれる素養・適性はなにか、面接の際の態度と言ったことも学ぶ。同時に、機内アナウンス、機内での会話、エアライン用語なども学習し、エアラインで必要とされる英語力の総合的な向上を目指す。エアラインを志望しない学生のかたも、興味深く楽しんで学習できる内容です。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語による自己紹介ができるようになる 2. 乗客としても乗務員としても、機内で必要な会話のほとんどを英語でできるようになる 3. 英語の機内アナウンスを、理解でき、かつ実施できるようになる 4. 「エアライン」に関する専門用語を習得する 						
授業計画	<p>Part1 Interview Questions</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Basic Questions (名前、家族 etc.) 2. Basic Questions (出身地、アルバイト etc.) 3. Have you ever been abroad/ 4. How is your command of English? 5. What did you enjoy most? 6. What do you do to stay fit? 7. Motives & Reasons (志望動機) <p>Part2 In-flight English</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 1. Befor Departure 9. 2. Liquor Service 10. 3. Meal Service 11. 4. In-flight Sales 12. 5. Customs, Immigration and Quarantine 6. In-flight Entertainment 13. 7. Airsick Passenger 14. 8. In-flight information 15. 9. After Landing&Faresell <p>*We study specific words and phrases for Airline in every session.</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	初回授業時に、クラス内にて指示します。						
授業方法	講義と、テキストに沿った実践的practiceで行います。						
評価基準と評価方法	平常点15%、試験85% (アナウンス試験と筆記試験)						
教科書	教科書に関しては、初回授業時に、クラス内にて指示します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語学概論A						
担当教員	柏本 吉章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまな視点から英語の成り立ちを概観する						
授業の概要	<p>国際社会の中での英語の位置づけ、英語の歴史、英語の音韻、語の形態など、英語の姿をとらえるいくつかの通時的側面、共時的側面について紹介し、英語学の基本的な考え方への導入を図る。</p> <p>受講希望者へ 英語教育関係を進路とする人に限らず、「英語ってどんな言語」と関心を持つ人、英語をより身近なものにしたいと考える人を対象に、英語学の基本的な考え方に親しんでもらうことを目指します。</p>						
到達目標	専門課程において、また卒業後の社会生活においても英語と深く付き合っていく学生にとって、その土台となる英語という言語の歴史と変遷、またその形式的特性についての基礎的知識の獲得が目標となる。						
授業計画	第1回 英語について考える視点 第2回 世界の中の英語 第3回 英語の方言、アメリカ英語とイギリス英語 第4回 イギリスの歴史、英語の始まり 第5回 古期英語の姿 第6回 中期英語 への変遷 第7回 近代英語への流れ 第8回 発音のしくみと音の種類 第9回 音素の考え方 第10回 音節の構造、音の変化 第11回 強勢とイントネーション 第12回 形態論の考え方 第13回 語を作る要素 第14回 語形成のしくみ 第15回 授業内容のまとめ・総復習と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書の授業で取り扱う箇所を事前に読んでおくこと 授業後学習：授業で紹介した要点を踏まて、教科書の取り扱い箇所を再度しっかり読むこと						
授業方法	講義と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	平常点 30%、期末試験 70%						
教科書	『新 えいご・エイゴ・英語学』、稲木昭子・堀田知子・沖田知子著、松柏社、ISBN4-7754-0004-5						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語学概論B						
担当教員	柏本 吉章						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	英語という言語の性質を理解するための基礎的概念を概観する。						
授業の概要	<p>英語学の分野のうち、英語の文法構造、意味のあり方、対人関係の中での機能、ことばと社会の関係など、現代英語を構成するさまざまな形式的、機能的側面を取り上げ、英語研究への更なる関心を導き出すことを目指す。英語学の基礎的概念の理解だけでなく、言語を観察、分析するための方法論についても紹介し、科学的な視点からの英語の観察法や分析法に親しむ機会を提供する。</p> <p>受講者希望者へ さまざまな視点から「英語の成り立ちと働き」を概観する授業です。英語教育関係を進路とする人のほか、色々な分野で英語と深く付き合っていくみなさんにとって、その活動の土台となる知識を提供します。</p>						
到達目標	専門課程における多方向からの英語の探求に備えて、英語学の基本的知識や考え方の理解に基づく素地作りを目的とする。						
授業計画	第1回 はじめに：英語の音のしくみ、語のしくみ、文のしくみ 第2回 統語論(1) 文の分析方法 第3回 統語論(2) 文の構造と意味 第4回 統語論(3) 英文法と普遍文法 第5回 意味論(1) 意味の多様性 第6回 意味論(2) 意味の変化と意味関係 第7回 意味論(3) 意味の意味 第8回 語用論(1) 発話としてのことばの意味 第9回 語用論(2) 会話のルールとていねいさ、テキストと談話 第10回 語用論(3) テキストと談話 第11回 文体論(1) 文体と使用域 第12回 文体論(2) 英語のスタイル 第13回 コミュニケーションの成立、動物のコミュニケーションと人間言語のちがひ 第14回 言語と社会、言語と文化 第15回 学期のまとめと総復習、期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：教科書の授業で取り扱う箇所を事前に読んでおくこと 授業後学習：授業で紹介した要点を踏まて、教科書の取り扱い箇所を再度しっかり読むこと						
授業方法	講義と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	平常点 30%、期末試験成績 70%						
教科書	『新 えいご・エイゴ・英語学』、稲木昭子・堀田知子・沖田知子著、松柏社、ISBN4-7754-0004-5						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語教育概論A						
担当教員	岩井 麻紀						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	英語教育と英語学習						
授業の概要	母語習得、及び第二言語習得理論などを紹介し、その理論をどのように外国語学習、及び指導に生かすことができるか考えます。また、英語の絵本や歌も紹介します。						
到達目標	英語教育の背景にある基本的な理論を理解し、英語の4技能を高めるための指導に必要な実践的な知識を修得する。 英語の絵本や歌などを通して、早期英語教育に必要な英語力を高める。						
授業計画	第1回：母語を基礎に外国語は習得される 第2回：母語を基礎に外国語は習得される 第3回：なぜ子どもはことばが習得できるのか―「臨界期仮説」を考える 第4回：なぜ子どもはことばが習得できるのか―「臨界期仮説」を考える 第5回：どんな学習者が外国語学習に成功するか―個人差と動機づけの問題 第6回：どんな学習者が外国語学習に成功するか―個人差と動機づけの問題 第7回：外国語学習のメカニズム―言語はルールでは割り切れない 第8回：外国語学習のメカニズム―言語はルールでは割り切れない 第9回：外国語を身につけるために―第二言語習得理論の成果をどう生かすか 第10回：外国語を身につけるために―第二言語習得理論の成果をどう生かすか 第11回：効果的な外国語学習法 第13回：効果的な外国語学習法 第14回：質疑応答・試験 第15回：総復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、該当箇所を読んでおいてください。 授業後学習：授業で学んだことをまとめ、復習してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	テスト40% 平常点60%						
教科書							
参考書	白井恭弘著『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』（岩波書店） Pamela Conn Beall & Susan Hagen Nipp著『Wee Sing: The Best of Wee Sing』（Price Stern Sloan） Janet Schulman編『20th Century Children's Book Treasury』（Alfred A. Knopf）						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語教育概論B						
担当教員	岩井 麻紀						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	英語教育と英語学習						
授業の概要	英語の教授法を紹介し、指導法を学びます。また、英語を教える際に必要となる英語表現を身につけることも目指します。						
到達目標	第二言語習得の基礎理論と方法論などを学ぶ。 教室英語など指導に必要な実践的な英語コミュニケーション能力を高める。						
授業計画	第1回：英語教授法① Warm up・Closing Remarks 第2回：英語教授法② Classroom Commands 第3回：英語教授法③ Performance Activities 第4回：リスニングの指導① Interactions with ALT 第5回：リスニングの指導② Games: Sugoroku・Bingo 第6回：スピーキングの指導① Games: Cards 第7回：スピーキングの指導② Total Physical Response 第8回：リーディングの指導① Coloring・Drawing・Making 第9回：リーディングの指導② Festivals and Events 第10回：ライティングの指導① School Life 第11回：ライティングの指導② Play 第12回：異文化理解① Sports 第13回：異文化理解② Animals and Insects 第14回：質疑応答・試験 第15回：総復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、教科書の該当箇所の問題をしておいてください。 授業後学習：授業内容を復習してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	テスト40% 平常点60%						
教科書	カレイラ松崎順子著『子どもに英語を教えるための教室英語』（南雲堂）						
参考書	Pamela Conn Beall & Susan Hagen Nipp著『Wee Sing: The Best of Wee Sing』（Price Stern Sloan） Janet Schulman編『20th Century Children's Book Treasury』（Alfred A. Knopf）						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語教育ゼミ						
担当教員	山内 啓子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校などで英語を教えることのできる、児童/早期英語教育指導者の能力養成と演習						
授業の概要	<p>本授業では以下の4項を目標にしています：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語能力の向上 (TOEIC 700を目標とします) 2. 国際理解教育(自己啓発と共に、指導者として活用する教材の探究を行います) 3. 教材制作(作成することで、教材の活用・応用を体得します) 4. 模擬授業演習 <p>指導者としての英語の認識を深め、理解度を高めるだけでなく「表現力」をつけます。そのためには単に英語が話せるだけでなく、異文化理解を促し、真の表現者となるべく研鑽を積みます。理論の上に実践を重ね、具体的な能力を身につけるためのゼミです。</p>						
到達目標	小学校の授業サポートができる能力が身に付きます。また広く異文化を理解する寛容な態度を身につけます。						
授業計画	<p>このゼミでは以下のように授業を進めます：</p> <p>前期:教科書+国際理解・絵本研究 後期:教科書+教案作成・教材制作・模擬授業</p> <p>このゼミでは以下のように授業を進めます：</p> <p>前期:教科書+国際理解・絵本研究 後期:教科書+教案作成・教材制作・模擬授業</p> <p>「前期」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書 国際理解教育の意義I(国際理解とは) 2. 教科書 国際理解教育の意義II(青木保『異文化理解』前) 3. 教科書 国際理解教育の意義III(青木保『異文化理解』後) 4. 教科書 世界地理学習I(確認テスト) 5. 教科書 世界地理学習II(国際理解発表の準備) 6. 教科書(確認テスト) 世界地理学習III(国際理解発表の準備) 7. 教科書 文化の多面性(世界の宗教) 8. 教科書 文化の多面性(宗教と死生観) 9. 教科書 文化の多面性(宗教とタブー) 10. 教科書 異文化の多面性(食文化) 11. 教科書 異文化の多面性(自文化) 12. 教科書(確認テスト) 国際理解発表I 13. 国際理解発表II 絵本教材研究 14. 国際理解発表III 絵本音読訓練 						

授業計画	<p>15. ・国際理解発表Ⅳ(総括と評価) ・絵本音読訓練</p> <p>「後期」</p> <p>16. ・復習テスト</p> <p>17. ・教科書 ・指導教案とは ・教材制作(教材と資料)</p> <p>18. ・教科書 ・指導教案作成Ⅰ ・教材制作</p> <p>19. ・教科書 ・指導教案作成Ⅱ ・教材制作</p> <p>20. ・教科書 ・指導教案作成Ⅲ ・教材制作</p> <p>21. ・教科書(確認テスト) ・模擬授業実践</p> <p>22. ・模擬授業実践: 反省と改善策</p> <p>23. ・模擬授業実践: 反省と改善策</p> <p>24. ・模擬授業実践: 反省と改善策</p> <p>25. ・教科書 ・改善指導案作成</p> <p>26. ・教科書 ・改善模擬授業</p> <p>27. ・教科書(確認テスト) ・改善模擬授業</p> <p>28. ・改善模擬授業</p> <p>29. ・総まとめⅠ</p> <p>30. ・総まとめⅡ</p>
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>テキストを事前予習して授業の臨むこと。 また国際ニュースもチェックし、世界情勢を把握しておくこと。 国際理解発表や模擬授業に先立っては授業外で十分練習を行うこと。</p>
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	<p>積極的なクラス参加、確認テスト、レポート提出、発表・模擬授業、授業態度等で総合評価を行います。 発表累計40%、テスト類30%、レポート類30%</p>
教科書	<p>梶浦麻子・Goodmacher: 『This is Culture』(南雲堂) ISBN4-523-17489-X 青木保「異文化理解」(岩波新書) ISBN4-00-430740-6</p>
参考書	<p>三浦 孝、弘山 貞男、中嶋 洋一編著『だから英語は教育なんだ』(研究社) ISBN978-4-327-41060-5 江利川 春雄「日本人は英語をどう学んできたか」(研究社) ISBN978-4-327-41068-1 その他は授業中に紹介します</p>

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション概論A						
担当教員	川中 紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	<p>文化とコミュニケーション</p> <p>この授業のねらいは主に2つあります。1つは英語圏の人々と「異文化間コミュニケーション」ができるような実践的英語力の基礎を身につけることです。もう1つは、「コミュニケーション」のしくみを理論的に学ぶことです。</p> <p>本年度は、英語圏を中心とした海外のテレビ・コマーシャルを実際に数多く見ることによって、ナチュラル・スピードの英語の聴解力を養い、英語圏の文化に対する理解を深めます。</p> <p>コマーシャルの分析を通じて、メッセージの伝達方法と文化の関連を考え、日本文化と英語圏文化の差異について具体例に基づいて検討します。また、コミュニケーション論の隣接領域である心理学の基礎知識や英語通訳技術の基礎、そしてコミュニケーションの理論を紹介し、効果的な異文化間コミュニケーション能力を養成します。</p> <p>このような知識・能力は、ジャーナリズムや航空・旅行業界などの接客業に関心がある人にとっても就職に有利な武器になるでしょう。</p> <p>また、将来、留学を考えている人にとっては、実践的な異文化間コミュニケーション力の基礎を養うことができるでしょう。</p>						
到達目標	<p>実践的な英語コミュニケーション力を身につけること。</p> <p>文化とコミュニケーションについて理解を深めること。</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第1章</p> <p>第2回 第2章：比較広告①</p> <p>第3回 第3章：ステレオタイプ</p> <p>第4回 演習：コミュニケーションの理論（身体運動学、近接学）</p> <p>第5回 第4章：英国とデンマークのコマーシャル</p> <p>第6回 第5章：高齢者をテーマにした米国のコマーシャル</p> <p>第7回 第6章：英国と米国のコマーシャルの比較</p> <p>第8回 演習：非言語コミュニケーション（近接学II）</p> <p>第9回 第7章：ドイツのコマーシャル</p> <p>第10回 第8章：韓国のコマーシャル</p> <p>第11回 第9章：米国で放送禁止のコマーシャル</p> <p>第12回 第10章：動物をトピックにしたコマーシャル</p> <p>第13回 第11章：比較広告②</p> <p>第14回 第12章：PSAの広告</p> <p>第15回 まとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習を十分して授業にのぞむこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>受講状況を考慮に入れ、レポート・発表(2割)・試験(8割)の総合評価。最終試験の成績を重視します。欠席についてはマイナス点として評価します。</p> <p>試験で60点未満の人、また試験を受験しなかった人はレポートを提出しても不合格になります。</p> <p>レポートを提出しなかった人は、試験で満点に近い点数がとれないと不合格となります。</p>						
教科書	<p>TVコマーシャルに見る異文化 (I)</p> <p>岩崎暁男ほか著 (成美堂)</p> <p>ISBN 4-7919-4544-1</p>						
参考書	<p>参考書の購入は受講生に任せます。授業の内容を更に深めたい学生は、以下の参考書の購入が望ましいです。また、様々な参考文献を毎回紹介します、</p> <p>テキスト心理学 橋本憲尚ほか著 (ミネルヴァ書房)</p>						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション概論A						
担当教員	辻野 理花						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	英語コミュニケーション概論Aでは、異文化間コミュニケーションの理論と実践を学ぶ。コンテキストと伝達情報の関係、非言語コミュニケーションの理論を紹介し、文化による差異を考察する。また、テレビ・コマーシャルを含むメディア研究カルチャーショックの事例研究を基にして異文化間コミュニケーション能力と実践的英語力を養う。						
到達目標	異文化間コミュニケーションの理論について学ぶことができる 実践的な英語能力を身につける						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 非言語コミュニケーション① 第3回 非言語コミュニケーション② 第4回 非言語コミュニケーション③ 第5回 コンテキストと情報伝達 第6回 TVコマーシャルに見るステレオタイプ 第7回 PSA広告① 第8回 PSA広告② 第9回 映像に見るステレオタイプ① 第10回 映像に見るステレオタイプ② 第11回 映像に見るステレオタイプ③ 第12回 カルチャーショック① 第13回 カルチャーショック② 第14回 異文化のまなざし 第15回 まとめ</p> <p>各テーマごとに、映像資料などをとりいれ、進めていきます。また英語の教材も適宜使います。講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習として出される課題をしっかりと準備してくる						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	受講状況、授業中に書いてもらう小レポートと小テスト（複数回）で評価する（小テスト：小レポート：平常点＝3：1：1で評価する）						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション概論B						
担当教員	川中 紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	<p>テレビ・コマーシャルに見る異文化</p> <p>この授業では、主に英語圏のテレビ・コマーシャルを数多く見て、ナチュラル・スピードの英語の聞き取りに慣れ、異文化への理解を深めることを目標にします。</p> <p>短時間で、製品やサービスを売り込むことをねらって制作されているコマーシャルには、それぞれの文化が「最も効果的」だと考えるコミュニケーション・スタイルのエッセンスが詰まっています。</p> <p>「英語コミュニケーション概論A」の応用編、という意味のある授業なので、川中紀子担当の概論Aを受講した上でこの授業を受ければ、異文化間コミュニケーションへの理解が深まり、より高度な英語の聞き取りに挑戦することができるでしょう。</p> <p>また、2回生から初めて川中紀子担当の授業を受ける人にとっても、海外のコマーシャルを見ながら、実践的な英語力が身につくように指導します。留学・就職にも役に立つ授業になるでしょう。</p> <p>随時、実際に英語圏の大学・大学院で使われているコミュニケーション論のテキスト（洋書）やTOEFLの練習問題も使いますので、留学を考えている人には、その準備となるでしょう。</p>						
到達目標	ナチュラル・スピードの英語の聞き取りに慣れ、英語圏の文化について理解を深めること。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（広告の社会・文化的背景）</p> <p>第2回：第1章（アメリカ合衆国の広告の特徴）</p> <p>第3回：第2章（比較広告）</p> <p>第4回：第3章（SFをテーマにした広告）</p> <p>第5回：第4章（問題解決志向の広告）</p> <p>第6回：第5章（歴史的な事実を用いた広告）</p> <p>第7回：第6章（誇大広告）</p> <p>第8回：第7章（環境保護をテーマにした広告）</p> <p>第9回：第8章（映画をもとに作られた広告）</p> <p>第10回：第9章（「お金」がテーマの広告）</p> <p>第11回：第10章（ストーリー形式の広告）</p> <p>第12回：第11章（音楽を用いた広告）</p> <p>第13回：第12章（非言語コミュニケーションの理論を学ぶ広告）</p> <p>第14回：まとめと受講生のプレゼンテーション</p> <p>第15回：復習と受講生のプレゼンテーション、テスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習を十分して授業にのぞむこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	<p>受講状況（出席・発表）を考慮に入れ、試験（8割）と発表・レポート（2割）の総合評価。</p> <p>試験を受験しなかった人は、発表やレポートを提出しても不合格となります。</p> <p>また、レポートを提出しなかった人は、テストが満点に近くないと不合格となりますので、注意してください。</p>						
教科書	<p>TVコマーシャルに見る異文化（II）</p> <p>岩崎暁男ほか（成美堂）</p> <p>ISBN 4-7919-4559-X</p>						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション概論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	英語コミュニケーション概論Bでは、英語コミュニケーション概論Aで身につけた知識と英語力をもとに、更に専門的な異文化間コミュニケーションについての理論を学ぶ。時間・空間の認識の文化による差異、自己、アイデンティティと文化との関わりなどについての理論を、英語の文献で紹介することによって、高度な英語力の読解力と異文化理解についての理解を深める。カルチャーショックに対応するために開発されたシミュレーションゲームや異文化理解のためのロールプレイなども、随時とりいれながら、実践的なコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	異文化間コミュニケーションの理論についての理解を深める 実践的な英語能力を身につける						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 空間・時間の認識① 第3回 空間・時間の認識② 第4回 空間・時間の認識③ 第5回 異文化理解とカルチャーショック① 第6回 異文化理解とカルチャーショック② 第7回 異文化理解とカルチャーショック③ 第8回 価値、規則と異文化衝突① 第9回 価値、規則と異文化衝突② 第10回 グローバリゼーションとアイデンティティ① 第11回 グローバリゼーションとアイデンティティ② 第12回 グローバリゼーションとアイデンティティ③ 第13回 TVコマーシャルの創りだすイメージ① 第14回 メディアの創りだすイメージ 第15回 まとめ</p> <p>各テーマごとに、映像資料などをとりいれ、進めていきます。また英語の教材も適宜使います。 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習として出される課題をしっかりと準備してくること						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	受講状況、授業中に書いてもらう小レポートと小テスト（複数回）で評価する。（小テスト：小レポート：平常点＝3：1：1で評価する）						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業注意紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション特論A/Special Lecture on Communicati						
担当教員	川中 紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画理論と文化						
授業の概要	<p>映画理論と文化</p> <p>映画ビデオを観ながら、映画理論・分析方法論を紹介します。社会の中でメディアが果たす役割と文化に及ぼす影響、また「女性性」の表現について考察します。時代とともに変化するディズニー・プリンセスの女性像にも焦点をあて、映画を通して英語表現を学ぶことも目指します。時間が許せば、宮崎アニメの女性像・男性像も考察します。</p> <p>前期(特論A)はヒッチコックの映画『裏窓』『めまい』を中心に「見る男性・行動する男性」に対して「見られる女性・受身の女性」という図式を映像の中に読み取っていくフェミニスト映画理論について批評します。</p> <p>後期(特論B)は、前期で紹介したカメラ・アイ、ファッションなどを含む映画理論・分析方法論を「女性の心の発達」というテーマから考察していきます。</p> <p>後期では、女性の心が成長するプロセスを扱った映画の中で、ヒッチコックの『レベッカ』を鑑賞し、批評家の分析を紹介することから始めます。女性の心の発達を映画を通じて考える良い機会になるでしょう。『ローマの休日』『千と千尋の神隠し』『時をかける少女』『ハウルの動く城』などの映画の鑑賞・分析も予定していますが、後期で中心となるのは、受講生みなさんの映画の発表とディスカッションです。</p> <p>3、4回生での演習・卒論に取り組む際にはもちろん、社会人になっても重要となる「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」を鍛えるためにも、レジュメを作成して発表するという経験に早くから挑戦してもらいたいものです。時間が許せば、映画のほかにも人気漫画や演劇などにも触れ、さまざまな女性像・男性像を考えてみたいのです。</p> <p>映画が好きな受講生はもちろん、ポピュラー・カルチャー、ファッション、フェミニズムなど幅広い関心を持った皆さんの積極的な参加を期待します。映画を楽しみ、積極的にディスカッションや発表に参加したい人はぜひ受講して下さい。できれば、特論A、Bと通年で履修されることを薦めます。</p>						
到達目標	<p>映画と文化のかかわりについて、理解を深めること。</p> <p>また、字幕無しで映画テキストを理解し、英語の文献を読む力を養います。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：コミュニケーションのしくみと非言語コミュニケーションの役割</p> <p>第3回：『裏窓』鑑賞と批評Ⅰ</p> <p>第4回：『裏窓』鑑賞と批評Ⅱ</p> <p>第5回：『裏窓』鑑賞と批評Ⅲ</p> <p>第6回：『めまい』鑑賞と批評Ⅰ</p> <p>第7回：『めまい』鑑賞と批評Ⅱ</p> <p>第8回：『めまい』鑑賞と批評Ⅲ</p> <p>第9回：『裏窓』『めまい』の比較</p> <p>第10回：映画理論のまとめ、映画の中の女性像(時代によって変化する女性像とディズニー・プリンセス)</p> <p>第11回：受講生の選択による映画</p> <p>第12回：受講生のプレゼンテーション</p> <p>第13回：受講生のプレゼンテーションⅡ</p> <p>第14回：プレゼンテーションの技法とレポート作成について</p> <p>第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>しっかり予習をして授業に臨むこと。</p> <p>英語の難易度の高い洋書の読解も授業に含めるので、ある程度、英語力に自信のある学生を歓迎します。</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	受講状況(毎回のレポートと希望者による発表)を考慮に入れ、最終レポート(5割)試験(5割)の総合評価。						
教科書	配布プリント						

参考書	『ビデオで女性学』井上輝子ほか著、有斐閣 その他、たくさんの参考書、参考文献を授業中に指示します。
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コミュニケーション特論B/Special Lecture on Communicati						
担当教員	川中 紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画理論と文化						
授業の概要	<p>映画理論と文化</p> <p>映画ビデオを観ながら、映画理論・分析方法論を紹介しします。社会の中でメディアが果たす役割と文化に及ぼす影響、また「女性性」の表現について考察しします。白雪姫、シンデレラ、(シンデレラII)、オーロラ姫、ベル、アリエル、ジャスミン、そして『魔法にかけられて』のジゼルなど、様々なディズニー・プリンセスもとりあげ、時代によって変化する女性像を考察していきます。英語で映画を見ることにより、英語の力を向上させることも目指します。</p> <p>前期(特論A)はヒッチコックの映画『裏窓』『めまい』を中心に「見る男性・行動する男性」に対して「見られる女性・受身の女性」という図式を映像の中に読み取っていくフェミニスト映画理論について批評しします。</p> <p>後期(特論B)は、前期で紹介したカメラ・アイ、ファッションなどを含む映画理論・分析方法論を「女性の心の発達」というテーマから考察していきます。</p> <p>後期では、女性の心が成長するプロセスを扱った映画の中で、ヒッチコックの『レベッカ』を鑑賞し、批評家の分析を紹介することから始めます。女性の心の発達を映画を通じて考える良い機会になるでしょう。『ローマの休日』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『時をかける少女』などの映画の鑑賞・分析も予定していますが、後期で中心となるのは、受講生みなさんの映画の発表とディスカッションです。</p> <p>3、4回生での演習・卒論に取り組む際にはもちろん、社会人になっても重要となる「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」を鍛えるためにも、レジュメを作成して発表するという経験に早くから挑戦してもらいたいものです。時間が許せば、映画のほかにも人気漫画や演劇などにも触れ、さまざまな女性像・男性像を考えてみたいのです。</p> <p>映画が好きな受講生はもちろん、ポピュラー・カルチャー、ファッション、フェミニズムなど幅広い関心を持った皆さんの積極的な参加を期待します。映画を楽しみ、積極的にディスカッションや発表に参加したい人はぜひ受講して下さい。特論A、Bと通年で履修されることを薦めます。</p>						
到達目標	<p>映画と文化のかかわりについて理解を深めること。</p> <p>字幕無しで映画を理解し、英語テキストを講読する力も養います。</p> <p>また、受講生が選んだ映画についてのプレゼンテーションを通じて、表現力、コミュニケーション力も向上させていきます。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション(非言語コミュニケーションと映画理論)</p> <p>第2回：女性の心の発達と映画に見る女性像</p> <p>第3回：『レベッカ』鑑賞と批評 ①</p> <p>第4回：『レベッカ』鑑賞と批評 ②</p> <p>第5回：『レベッカ』鑑賞と批評 ③</p> <p>第6回：精神分析と映画理論</p> <p>第7回：『レベッカ』の女性像にみるエレクトラ・コンプレックス</p> <p>第8回：女性の心の発達と映画にみる「通過儀礼」のテーマ</p> <p>第9回：『時をかける少女』鑑賞と批評</p> <p>第10回：『時をかける少女』鑑賞と批評</p> <p>第11回：ブリュンヒルド・モチーフの異文化比較『ハウルの動く城』</p> <p>第12回：受講生のプレゼンテーション①</p> <p>第13回：受講生のプレゼンテーション②</p> <p>第14回：受講生のプレゼンテーション③</p> <p>第15回：まとめとテスト</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>予習を十分して授業に臨むこと。</p> <p>英語の難易度の高い洋書の読解も含まれるので、英語力に自信のある学生を歓迎します。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験：5、レポート：3、平常点：2=計10						
教科書	プリントを配布						

参考書	授業中にたくさんの参考文献を指示します。 『シネマのなかの臨床心理学』 山中康裕 著 有斐閣ブックス
-----	---

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コンピュータ特論A						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使って英語とことばを考える						
授業の概要	<p>*iMovie を使って英語の歌のカラオケや歌詞表示のムービーを作ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の意味をよく考えてふさわしい背景写真を選び、ムービーの素材にします。 ・ Photoshop を使って写真を加工し、歌詞を書き込みます。 ・ iMovie を使って画像と音楽をつなぎ合わせ、カラオケまたは歌詞表示のムービーに。 <p>*音声分析 MP3 とは何か？音声をデジタル化することによって、音声分析のソフトを使って、英語の発音の秘密を明らかにすることができます。</p>						
到達目標	コンピュータを使って、英語、そしてことば全体について考える方法を学びます。前期は特にマルチメディアとその活用について学びます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業についての全体的な紹介と注意事項 2. マルチメディア英語教材のムービーを作る(1) *著作権上問題のない音源を提供し、内容に合った背景写真を選ぶ *あわせて著作権について学びます 3. マルチメディア英語教材のムービーを作る(2) *Photoshop で写真を加工し、歌詞を書きます。 4. マルチメディア英語教材のムービーを作る(3) *Photoshop による作業続行 5. マルチメディア英語教材のムービーを作る(4) *iMovie で画像と音楽をムービーにつなぎあわせませす。 6. マルチメディア英語教材のムービーを作る(5) *iMovie で作業続行 7. ムービーを「共有」できるフォーマットに変換、提出 *YouTube と著作権について 8. MP3 って何？ *MP3のしくみとオーディオ・エディタの活用 9. オーディオ・エディタを使って英語教材を編集してみる(1) 10. オーディオ・エディタを使って英語教材を編集してみる(2) 11. オーディオ・エディタで見る英語の発音の秘密 (1) 12. オーディオ・エディタで見る英語の発音の秘密 (2) 13. 英語の発音をムービーで表現！(1) 14. 英語の発音をムービーで表現！(2) 15. 授業のまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的にコンピュータを使用する。						
授業方法	実習と講義						
評価基準と評価方法	小テスト、提出課題の評価および平常点。 提出課題が40点満点、小テスト30点満点、平常点は30点満点。詳細は教室で説明します。						

教科書	
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語コンピュータ特論B						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使って英語とことばを考える						
授業の概要	<p>Word をちゃんと使って、きれいな英文やレポートを書く練習をします。 ちゃんとしたフォントやスタイル機能を使ってきれいな文章を書く、さらに画像を取り込んだり、表機能を活用して文書をきれいに配置するテクニックを学びます。</p> <p>Html の基本を学んできれいなウェブサイトを作る練習をします。 Html の基本的なコマンドの使い方、画像やカラーの基本、表を利用した配置、さらにスタイル・ファイルを使ったきれいなサイトを作ります。あわせてウェブサイトのしくみと知的財産権について学びます。 Photoshop を使ってロゴなどの素材を作り、音声も取り込んだマルチメディアのサイトを作るところまで学びます。</p>						
到達目標	この授業のポイントは Word とウェブサイト作りです。Word と HTML を学ぶことで、「構造のある文書」の概念を学びます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要について 2. Word できちんとした英文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・スタイル機能を活用してきれいな英文を書く 3. Word できちんとした英文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・画像を取り込んできれいな文書を作る 4. Word できちんとした英文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・表機能を活用してきれいな文書を作る 5. Word できちんとした英文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・作業続行・完成 6. ウェブサイトを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・エディタのインストールと html の基本 ・ウェブサイトの規格・概要 7. ウェブサイトを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・html: リスト、表、リンク 8. ウェブサイトを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・html: 画像、カラーを使ってみる ・知的財産権-使えない画像について 9. ウェブサイトを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・スタイル・ファイル (CSS) を使ってみる 10. ウェブサイトを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・スタイルの活用 11. ロゴや素材を作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・Photoshop を使ってロゴやボタンなどの素材を作ってみよう 12. ロゴや素材を作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・Photoshop を使って作業続行 13. ウェブサイトに音声を組み込む <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権について注意 14. ウェブサイトに音声を組み込む <ul style="list-style-type: none"> ・作品完成! 15. 授業のまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的にコンピュータを使用する。						
授業方法	実習と講義						
評価基準と評価方法	小テスト、提出課題の評価および平常点。 提出課題が40点満点、小テスト30点満点、平常点は30点満点。詳細は教室で説明します。						

教科書	
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語聴解法研究A						
担当教員	山内 啓子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語リスニング能力向上トレーニング						
授業の概要	<p>発音の基本原則を再確認し、日本語との差を認識しながら英語の特徴であるリズム、アクセント、抑揚を認識することで英語のリスニング能力の向上を目指します。 具体的なトレーニング方法としてshadowing, repeating、速聴、多聴を繰り返して聴解能力の向上を図ります。また、英・米・豪などにより異なるネイティブの発音もその特徴を捉えることで理解を深め、総合的に「聴くこと」を練習します。</p> <p>学びの方法として教科書を中心に理論と基礎を学びますが、同時に音楽の聴き取りや、映画のセリフの聴き取りなども加えて学びに変化と楽しさをもたらします。</p>						
到達目標	<p>いろいろな英語をの差が分かるようになります。また、発音の基本を学ぶことでリスニングのコツが分かるようになり、それがリスニング力の向上になります。</p>						
授業計画	<p>前期にはリスニングの基本であるリズム、アクセント、強弱の付け方を中心に授業が進みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書 Unit 1 母音について 2 教科書 Unit 1 二重母音 3 教科書 Unit 1 子音について 4 教科書 Unit 1 日本語との差について 5 確認テスト 教科書 Unit 1から+音楽の聴き取り 6 教科書 Unit 2 音節と語強勢 7 教科書 Unit 2 文の強勢 8 教科書 Unit 2 ポーズ、ピッチ、イントネーション 9 確認テスト 教科書Unit 2から+音楽の聴き取り 10 教科書 Lesson 5 音のつながり 1 連結 11 教科書 Lesson 6 & 7 音のつながり 2 脱落 12 教科書 Lesson 8, 11 & 12 音のつながり 3 同化 13 確認テスト 「音のつながり」+ウェブサイトからの聴き取り 14 リスニング練習のまとめ 15 期末テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：テキストの予習 授業後：授業で学んだ発音の基本原則の復讐と練習。 自由時間に音楽や英語ニュース、ドラマ、映画などを字幕なしで見る、などの練習を多く行う。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>期末テスト 40% 確認テスト、および小テスト累計 40% 積極的授業参加 20%</p>						
教科書	今井由美子・井上球美子・井上聖子他著『Sound Make Perfect 英語音声学への扉-発音とリスニングを中心に』（英宝社出版）ISBN978-4-269-63013-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語聴解法研究B						
担当教員	山内 啓子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語リスニング能力向上トレーニング						
授業の概要	<p>発音の基本原則を再確認し、日本語との差を認識しながら英語の特徴であるリズム、アクセント、抑揚を認識することで英語のリスニング能力の向上を目指します。 具体的なトレーニング方法としてshadowing, repeating、速聴、多聴を繰り返して聴解能力の向上を図ります。また、英・米・豪などにより異なるネイティブの発音もその特徴を捉えることで理解を深め、総合的に「聴くこと」を練習します。</p> <p>学びの方法として教科書を中心に理論と基礎を学びますが、同時に音楽の聴き取りや、映画のセリフの聴き取りなども加えて学びに変化と楽しさをもたらします。</p>						
到達目標	<p>いろいろな英語をの差が分かるようになります。また、発音の基本を学ぶことでリスニングのコツが分かるようになり、それがリスニング力の向上になります。</p>						
授業計画	<p>前期にはリスニングの基本であるリズム、アクセント、強弱の付け方、音のつながりを中心に授業が進みました。 後期にはそれらを踏まえた上でさらに応用力をつけるトレーニングを行います。 授業は教科書を中心に、配布資料や音楽、映画も活用しながら実践力を付けるよう進めてゆきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 textbook unit 1 2 textbook unit 2 3 textbook unit 3 4 textbook unit 4 5 textbook unit 5 6 revision test + website listening 7 textbook unit 6 8 textbook unit 7&8 9 textbook unit 9&10 10 textbook unit 11&12 11 textbook unit 13&14 12 revision test + website listening 13 movie listening 1 14 movie listening 2 15 final exam 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：テキストの予習 授業後：授業で学んだ発音の基本原則の復讐と練習。 自由時間に音楽や英語ニュース、ドラマ、映画などを字幕なしで見る、などの練習を多く行う。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>期末テスト 40% 確認テスト、および小テスト累計 40% 積極的授業参加 20%</p>						
教科書	片野田浩子著『Activity-Based Listening』（朝日プレス）ISBN978-4-255-15534-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語とコンピュータ概論A						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータで遊ぼう！						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ デスクトップまわりをカスタマイズ ・ メールの使い方---大学生ならPCのメールを使おう！大学のウェブメールの設定、iPhone での設定など。 ・ iPhoneを使いこなそう---iPhoneはPCと連携してこそちゃんと使える。 ・ iTunes を使いこなそう---iTunes は高校生も使ってるけど、ちゃんとした使い方を学ぼう。 ・ Podcast 知ってる？---これもiTunes の知られざる魅力のひとつです。英語の教材がすごい！ ・ Let's play GarageBand!--- GarageBandは音楽の部品を組み合わせてオリジナルな音楽を作らせてくれるソフトウェアです。基本操作を学んで音楽を作り、iPhone の着信音にしよう！ ・ iMovie を活用しよう --- iMovie は写真や動画を組み込んで自分だけのムービーを作ることができるソフトウェアです。iMovie の基本から、応用してマルチメディア英語教材を作ってみよう♪ 						
到達目標	コンピュータのさわり方から始めて、音楽を作ったり、マルチメディアの英語教材を作ったり --- コンピュータでおしゃれに遊ぼう！。						
授業計画	<p>Week 1: Mac に慣れよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デスクトップ、Windows との共通点・相違点 (OSについて) ・ ハードウェアとソフトウェア ・ 「ディスク」「フォルダ」「ファイル」の扱い <p>Week 2: メールを設定しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸松蔭のウェブメールを活用するための設定 <p>Week 3: iPhoneとiTunes を使いこなそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iPhone を活用するためにはPCのiTunes を使いこなす必要があります <p>Week 4: iTunes を使いこなそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Podcast を活用しよう <p>Week 5: iTunes を使いこなそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Podcast から書き取りの練習 <p>Week 6: Let's Play GarageBand! (1)</p> <p>Week 7: Let's Play GarageBand! (2)</p> <p>Week 8: Let's Play GarageBand! (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GarageBand で作成した音楽をiPhone の着信音に♪ <p>Week 9: マルチメディア英語教材に挑戦しよう (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iMovie の基本から応用まで <p>Week 10: マルチメディア英語教材に挑戦しよう (2)</p> <p>Week 11: マルチメディア英語教材に挑戦しよう (3)</p> <p>Week 12: マルチメディア英語教材に挑戦しよう (4)</p> <p>Week 13: マルチメディア英語教材に挑戦しよう (5)</p> <p>Week 14: 作品完成！</p> <p>Week 15: まとめと復習</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	日常的にコンピュータを使用する。						
授業方法	実習と講義						
評価基準と評価方法	小テスト、提出課題の評価および平常点。 提出課題が40点満点、小テスト30点満点、平常点は30点満点。詳細は教室で説明します。						

教科書	
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語とコンピュータ概論B						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使って英語とことばを考える						
授業の概要	<p>リスニング教材を選び、その内容に合った背景写真を選びます。それらと音声をiMovieで組み合わせ、テーマ機能、トランジション機能を利用してリスニング教材のムービーにします。</p> <p>英語の意味と発音、リズムをよく考えないとできない作業です。</p> <p>次に、Word を使ってきちんとした英語の文章を書く練習をします。 気をつけるのは次のようなことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文を書くのに適したフォントを使っているか ・ちゃんとパンクチュエーション (punctuation) の規則を守っているか ・スタイル機能を活用してちゃんとした文章に。 <p>最後にPowerPointを使ってマルチメディア英語教材を作ります。 効果的な教材の提示方法を考えよう。</p>						
到達目標	この授業では、iMovie を使って英語リスニング教材のムービーを作ることを通して音声と映像のデジタル処理の基礎を学び、同時に英語の総合的な学習にも役立てます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Mac のデスクトップ、ブラウザ、メールの設定 <ul style="list-style-type: none"> *ファイルの扱いと情報の概念の基礎 *メールのなりたちとネットワークの基礎 2. 英語リスニングのムービーを作る(1) <ul style="list-style-type: none"> *リスニング教材を選び、内容に合った背景写真を選ぶ 3. 英語リスニングのムービーを作る(2) <ul style="list-style-type: none"> *音声のデジタル・ファイル (mp3) を GarageBandを使って分割する *さまざまなデジタル・メディアについて 4. 英語リスニングのムービーを作る(3) <ul style="list-style-type: none"> *画像の扱い方 5. 英語リスニングのムービーを作る(4) <ul style="list-style-type: none"> *iMovie でムービーにつなぎあわせ、テーマ機能で歌詞を書き込む 6. 英語リスニングのムービーを作る(5) <ul style="list-style-type: none"> *iMovie でムービーにつなぎあわせ、テーマ機能で歌詞を書き込む 7. ムービーを「共有」できるフォーマットに変換、YouTubeに <ul style="list-style-type: none"> *著作権 (知的財産権) など情報倫理について説明します 8. Word で英語をきちんと書こう <ul style="list-style-type: none"> ・英語を書くときに使うフォント ・英語のパンクチュエーション (punctuation) 9. Word で英語をきちんと書こう <ul style="list-style-type: none"> ・Podcast の英語教材を書き取ってみよう 10. Word の文書に画像を入れよう <ul style="list-style-type: none"> ・Photoshop で画像をアレンジ♪ ・CG について 11. PowerPoint を使ってマルチメディア英語教材 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な単語、表現の提示 12. PowerPoint を使ってマルチメディア英語教材 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なテキスト表示 ・音声も入れてマルチメディア英語教材 13. 人工知能とロボット <ul style="list-style-type: none"> ・特にことばの処理に関連して 14. ウェブサイトとかんたんなプログラミング 15. 授業のまとめと復習 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	日常的にコンピュータを使用する。						
授業方法	実習と講義						

評価基準と 評価方法	小テスト、提出課題の評価および平常点。 提出課題が40点満点、小テスト30点満点、平常点は30点満点。詳細は教室で説明します。
教科書	
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語発音トレーニングA						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自信のもてる英語の発音を 音声学理論の裏付けをしながら習得する。						
授業の概要	指導者としてモデルになる英語の発音をシラバスに従って習得する。発音トレーニングAでは母音を基盤にしたトレーニングとr, th等の日本語話者が不得意とする音のトレーニングを行う。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者から直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。英語発音トレーニングBも続けて履修して英語の発音に自信を持って学生生活を続け、社会に出て下さい。一度習得した発音は忘れることはありません。						
到達目標	自信のもてる英語の発音を習得しよう。自信のもてる発音を自分のものにして英語が好きになろう。						
授業計画	<p>発音記号をwebに出すことが出来ませんので、発音記号を用いたsyllabusは最初の授業で配付します。</p> <p>前期のsyllabus</p> <ol style="list-style-type: none"> Orientation: <ul style="list-style-type: none"> ◆Introduction of vowels pp.59-71の説明 ◆ ハンドアウトのwords, phrasesとconversations等はpp.72-86 Introduction of vowels and consonants <ul style="list-style-type: none"> ◆呼吸法（腹式呼吸）、摩擦、発声器官 について ◆central vowels (early, bird) をp.67のfootnoteの図に口の形を加えて練習 pp.7, 16, 21の摩擦の紹介（参照：pp.25-30の図） ◆rの1方法を練習 ◆L.L.の機械のorientation Syllabus#2の復習強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆rの2つ目のコツを練習 ◆at the, mail the を用いてassimilation（同化 p.90）からthの発音を習得 このあたりでTapeの提出を検討しましょう。 Tapeのコメント返却、質疑応答、練習 <ul style="list-style-type: none"> ◆heard vs. hard, fur vs. far発音が違うと意味も違う。 ◆wor を含む単語の練習：word, work, worldの練習 ◆th, r, lの練習 Syllabus#4の復習と強化 Syllabus #1-5までのチェック、練習、テープ録音提出等 <ul style="list-style-type: none"> ◆heard, hard, fur, far等を用いて同時通訳ゲーム run, ran等を用いて同時通訳ゲーム（ranの時のrの舌先はsyllabus #2の1の方法又はsyllabus#3の2の方法？） ◆aspirationの練習開始 uを含む音の練習（pp.68-69） <ul style="list-style-type: none"> ◆ w + uのcombinationについて p.35 注意点-2 ◆th, r, lを含む音の練習 /ou/等の練習（pp.69-70） <ul style="list-style-type: none"> ◆woman, women, walk, work, woke, hart, hurt等を用いて同時通訳ゲーム Syllabus#7,8のチェック、練習、テープ録音提出 Linking, Elision and assimilation pp.87-94(今までに練習していますが、ここで理論を用いて整理しましょう。 Aspirationをここまでに出来るようにする。th, r, l と 全母音が出来ていること。 前期の復習で定期試験の準備 前期のまとめと定期試験の準備 前期の復習と定期試験（paperと録音による試験） 定期試験の整理（基本を理解していたかの確認が行われる大切な授業です） 						

授業外における学習（準備学習の内容）	復習が大切です。基礎から積み上げていくので授業外の復習は不可欠です。発音記号を書きながら、時には鏡で確かめながら発音練習をしてください。インターネット上の画像も参照可能です、
授業方法	シラバスに従って練習を積み重ね英語の発音を習得する。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者からのフィードバックを得る。フィードバックに基づいて担当者からの直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。
評価基準と評価方法	平常点になるメディア提出の回を重ねることで上達して定期試験の頃にやっと目標に到達することを鑑み、次の比率で評価する。 平常点20% 定期試験80% 欠席についてはマイナスする。
教科書	松井千枝 著 『英語音声学』（朝日出版社） 978-4-255-15193-9
参考書	http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語発音トレーニングA						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自信のもてる英語の発音を 音声学理論の裏付けをしながら習得する。						
授業の概要	指導者としてモデルになる英語の発音をシラバスに従って習得する。発音トレーニングAでは母音を基盤にしたトレーニングとr, th等の日本語話者が不得意とする音のトレーニングを行う。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者から直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。英語発音トレーニングBも続けて履修して英語の発音に自信を持って学生生活を続け、社会に出て下さい。一度習得した発音は忘れることはありません。						
到達目標	自信のもてる英語の発音を習得しよう。自信のもてる発音を自分のものにして英語が好きになろう。						
授業計画	<p>発音記号をwebに出すことが出来ませんので、発音記号を用いたsyllabusは最初の授業で配付します。</p> <p>前期のsyllabus</p> <ol style="list-style-type: none"> Orientation: <ul style="list-style-type: none"> ◆Introduction of vowels pp.59-71の説明 ◆ ハンドアウトのwords, phrasesとconversations等はpp.72-86 Introduction of vowels and consonants <ul style="list-style-type: none"> ◆呼吸法 (腹式呼吸), 摩擦, 発声器官 について ◆central vowels (early, bird) をp.67のfootnoteの図に口の形を加えて練習 pp.7, 16, 21の 摩擦の紹介 (参照: pp.25-30の図) ◆rの1方法を練習 ◆L.L.の機械のorientation Syllabus#2の復習強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆rの2つ目のコツを練習 ◆at the, mail the を用いてassimilation (同化 p.90) からthの発音を習得 このあたりでTapeの提出を検討しましょう。 Tapeのコメント返却、質疑応答、練習 <ul style="list-style-type: none"> ◆heard vs. hard, fur vs. far発音が違うと意味も違う。 ◆wor を含む単語の練習: word, work, worldの練習 ◆th, r, lの練習 Syllabus#4の復習と強化 Syllabus #1-5までのチェック、練習、テープ録音提出等 <ul style="list-style-type: none"> ◆heard, hard, fur, far等を用いて同時通訳ゲーム run, ran等を用いて同時通訳ゲーム (ran の時のrの舌先はsyllabus #2の1の方法又はsyllabus#3の2の方法?) ◆aspirationの練習開始 uを含む音の練習 (pp.68-69) <ul style="list-style-type: none"> ◆ w + uのcombinationについて p.35 注意点-2 ◆th, r, lを含む音の練習 /ou/等の練習 (pp.69-70) <ul style="list-style-type: none"> ◆woman, women, walk, work, woke, hart, hurt等を用いて同時通訳ゲーム Syllabus#7,8のチェック、練習、テープ録音提出 Linking, Elision and assimilation pp.87-94(今までに練習していますが、ここで理論を用いて整理しましょう。 Aspirationをここまでに出来るようにする。th, r, l と 全母音が出来ていること。 前期の復習で定期試験の準備 前期のまとめと定期試験の準備 前期の復習と定期試験 (paperと録音による試験) 定期試験の整理 (基本を理解していたかの確認が行われる大切な授業です) 						

授業外における学習（準備学習の内容）	復習が大切です。基礎から積み上げていくので授業外の復習は不可欠です。発音記号を書きながら、時には鏡で確かめながら発音練習をしてください。インターネット上の画像も参照可能です、
授業方法	シラバスに従って練習を積み重ね英語の発音を習得する。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者からのフィードバックを得る。フィードバックに基づいて担当者からの直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。
評価基準と評価方法	平常点になるメディア提出の回を重ねることで上達して定期試験の頃にやっと目標に到達することを鑑み、次の比率で評価する。 平常点20% 定期試験80% 欠席についてはマイナスする。
教科書	松井千枝 著 『英語音声学』（朝日出版社） 978-4-255-15193-9
参考書	http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語発音トレーニングB						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自信のもてる英語の発音を 音声学理論の裏付けをしながら習得する。						
授業の概要	指導者としてモデルになる英語の発音を音声学理論の裏付けをしながら習得する。 発音トレーニングBでは子音を基盤にしたトレーニングと母音の復習のトレーニングを行う。 英語の発音に自信を持って学生生活を続け、社会に出て下さい。一度習得した発音は忘れることはありません。						
到達目標	自信のもてる英語の発音を習得しよう。自信のもてる発音を自分のものにして英語が好きになろう。						
授業計画	<p>syllabusを調整しながらやります。発音トレーニングBから始める方もsyllabus #1で基本のコツを扱います。最初が大切です。基礎がないところに建物を建てられません。</p> <p>liaison (リエゾン)、elision (脱落)、assimilation (同化) という音の現象名をしばしば用います。pp. 87-92に説明があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 母音Vowelsの発音記号と実際の発音を確認しよう。 hard, heard, cut, cat等の母音の確認をpp. 5-6 II. 音韻論を使って行う。 p. 16の子音Consonants全体の把握とpp. 22-25の閉鎖音stops、無声閉鎖音/p, t, k/に起こるaspirationの確認 p. 25 閉鎖音の注意点 練習 : pp. 38-41 p. 100のストレス、 p. 110の内容語の導入 練習 : pp. 38-41の練習と/wu/の確認 pp. 34-35, rの確認 pp. 35-36 NHKの会話 Iより 摩擦音fricatives pp. 25-30 練習 : pp. 42-49 fricatives & 破擦音affricates p. 31 練習 : p. 50 NHKの会話より 半母音/w, r/ vs. 側音/l/ 練習 : pp. 56-57, pp. 54-55 鼻音nasals pp. 31-33 /g/が入る語と入らない語 : young younger, finger vs. singer p. 52 時間があればNHKの会話 II Stress, pitch and intonation pp. 130-140 (p. 130. 1-9, p. 131. 1-5) Syllabus#2 でストレスと内容語は導入した。 弱形(weak form) vs. 強形(strong form) pp. 119-122 Stress, pitch and intonation pp. 130-140 (p. 130. 1-9, p. 131. 1-5) syllables, stress, word stress and sentence stress pp. 95-122 syllables, stress, word stress and sentence stress pp. 95-122 Nasal plosion such as 'garden' and lateral plosion such as 'little' 'ear' vs. 'year, 'cars' vs. 'cards' の区別が出来ますか？ 定期試験準備 phoneme (音素)、母音の長さの確認を含む 後期の既習事項の検討 質疑応答と後期試験 (paperとテープ) 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	復習が大切です。基礎から積み上げていくので授業外の復習は不可欠です。発音記号を書きながら、時には鏡で確かめながら発音練習をしてください。						
授業方法	シラバスに従って練習を積み重ね英語の発音を習得する。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者からのフィードバックを得る。フィードバックに基づいて担当者からの直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。						

評価基準と 評価方法	平常点になるテープ提出の回を重ねることで上達して定期試験の頃にやっと目標に到達することを鑑み、次の比率で評価する。 平常点30% 定期試験70% 欠席についてはマイナス評価する。
教科書	松井千枝 著 『英語音声学』 (朝日出版社) 978-4-255-15193-9
参考書	http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英語発音トレーニングB						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自信のもてる英語の発音を 音声学理論の裏付けをしながら習得する。						
授業の概要	指導者としてモデルになる英語の発音を音声学理論の裏付けをしながら習得する。 発音トレーニングBでは子音を基盤にしたトレーニングと母音の復習のトレーニングを行う。 英語の発音に自信を持って学生生活を続け、社会に出て下さい。一度習得した発音は忘れることはありません。						
到達目標	自信のもてる英語の発音を習得しよう。自信のもてる発音を自分のものにして英語が好きになろう。						
授業計画	<p>syllabusを調整しながらやります。発音トレーニングBから始める方もsyllabus #1で基本のコツを扱います。最初が大切です。基礎がないところに建物を建てられません。</p> <p>liaison (リエゾン)、elision (脱落)、assimilation (同化) という音の現象名をしばしば用います。pp. 87-92に説明があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 母音Vowelsの発音記号と実際の発音を確認しよう。 hard, heard, cut, cat等の母音の確認をpp. 5-6 II. 音韻論を使って行う。 p. 16の子音Consonants全体の把握とpp. 22-25の閉鎖音stops、無声閉鎖音/p, t, k/に起こるaspirationの確認 p. 25 閉鎖音の注意点 練習 : pp. 38-41 p. 100のストレス、 p. 110の内容語の導入 練習 : pp. 38-41の練習と/wu/の確認 pp. 34-35, rの確認 pp. 35-36 NHKの会話 Iより 摩擦音fricatives pp. 25-30 練習 : pp. 42-49 fricatives & 破擦音affricates p. 31 練習 : p. 50 NHKの会話より 半母音/w, r/ vs. 側音/l/ 練習 : pp. 56-57, pp. 54-55 鼻音nasals pp. 31-33 /g/が入る語と入らない語 : young younger, finger vs. singer p. 52 時間があればNHKの会話 II Stress, pitch and intonation pp. 130-140 (p. 130. 1-9, p. 131. 1-5) Syllabus#2 でストレスと内容語は導入した。 弱形(weak form) vs. 強形(strong form) pp. 119-122 Stress, pitch and intonation pp. 130-140 (p. 130. 1-9, p. 131. 1-5) syllables, stress, word stress and sentence stress pp. 95-122 syllables, stress, word stress and sentence stress pp. 95-122 Nasal plosion such as 'garden' and lateral plosion such as 'little' 'ear' vs. 'year, 'cars' vs. 'cards' の区別が出来ますか？ 定期試験準備 phoneme (音素)、母音の長さの確認を含む 後期の既習事項の検討 質疑応答と後期試験 (paperとテープ) 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	復習が大切です。基礎から積み上げていくので授業外の復習は不可欠です。発音記号を書きながら、時には鏡で確かめながら発音練習をしてください。						
授業方法	シラバスに従って練習を積み重ね英語の発音を習得する。練習の後に録音したメディアを提出し、担当者からのフィードバックを得る。フィードバックに基づいて担当者からの直接のアドバイスを受けて発音を目標に向けて磨く。						

評価基準と 評価方法	平常点になるテープ提出の回を重ねることで上達して定期試験の頃にやっと目標に到達することを鑑み、次の比率で評価する。 平常点30% 定期試験70% 欠席についてはマイナス評価する。
教科書	松井千枝 著 『英語音声学』 (朝日出版社) 978-4-255-15193-9
参考書	http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英米文学概論A						
担当教員	白川 計子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文学とは何か、文学研究とは何か						
授業の概要	この授業では文学とは何か、文学研究とは何かを講義する。娯楽としての読書、教養としての読書から、深く人間や社会について考えるきっかけとしての読書への導入をおこなう。英米の小説や詩を紹介し、分析の実例を講義する。						
到達目標	実際に英語で読むことによって、文学を研究対象として注意深く読む力、客観的分析力を培う。また、課題として与えられた文学テキストに対し、読書感想文ではない、論理的な批評文を書けるようになることが求められる。						
授業計画	第1回：文学とは何か、文学批評とは何か 第2回：ジェイムス・ジョイス紹介 第3回：「アラビー」紹介 第4回：「アラビー」鑑賞と批評 第5回：「アラビー」批評の実践とフィードバック 第6回：シルビア・プラスとテッド・ヒューズ紹介 第7回：シルビア・プラスの生涯 第8回：シルビア・プラスの詩の鑑賞と批評 第9回：テッド・ヒューズの詩の鑑賞と批評 第10回：詩の批評の実践 第11回：文学と映像テキスト 第12回：レイモンド・カーバー短編小説鑑賞 第13回：映画『ショートカット』鑑賞 第14回：作家と社会 第15回：文学批評レポートの書き方指導						
授業外における学習（準備学習の内容）	与えられた作品を読み、批評文を書く。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（授業中の提出物）50% 最終レポート50%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	英米文学概論B						
担当教員	白川 計子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文化テキストとしての英米文学						
授業の概要	この授業では文学を芸術作品としてだけではなく、文化テキストとして読む方法を紹介する。すなわち、文学のある特定の時代の、特定の社会に生きた個人から発声された1つの現象として捉える姿勢を学ぶ。近代から現代の英米の文学作品を紹介し、作品への様々なアプローチについて講義する。文学が、われわれ自身、社会、世界のありようを問い直す力を潜在的にもっているものであることを伝えたい。						
到達目標	18世紀から21世紀にいたる社会背景と人間観の変容が文化表象としての文学テキストにいかにかに反映してきたかを確認し、現代の欧米の文学批評の基礎を学び、文学へのアプローチの多様性を理解する。						
授業計画	第1回：D. H. ロレンス紹介 第2回：ロレンス「菊の香り」鑑賞 第3回：ロレンス「菊の香り」鑑賞と批評 第4回：ロレンスの動物詩鑑賞 第5回：ロレンスの動物詩の鑑賞と批評 第6回：『チャタレイ夫人の恋人』紹介 第7回：『チャタレイ夫人の恋人』鑑賞と批評 第8回：ジェイン・オースティン紹介 第9回：「高慢と偏見」鑑賞 第10回：「高慢と偏見」批評 第11回：『ブリジッド・ジョーンズの日記』紹介 第12回：『ブリジッド・ジョーンズの日記』批評 第13回：時代と作家と作品について 第14回：ポストモダニズム 第15回：文学批評のレポートの書き方指導						
授業外における学習（準備学習の内容）	与えられた文学テキストを読み、批評文を書く						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（授業中の提出物）50%、最終レポート50%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	教室英語研究A						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	中高で学んだことを復習・検討して英語の基盤を確固たるものにするを目的とする。 更に英語を指導する上で必要な表現を習得する。						
授業の概要	<p>1. この授業は今まで基本を復習する機会がなかった学生に、その機会を与える。英語は好きだし、使いたいし、意欲はあるが、英語に自信を持っていない学生にも適している授業。教員志望者のみならず、英語が分かるようになりたいと意欲がある全学生向けの授業である。</p> <p>2. A, Bを続けて履修して、英語が使えるようになってほしい。 AもBも目的・概要の内容は同じだがAを基盤とし、Bの授業をすすめていく。</p> <p>3. 辞書は宝庫で、辞書があれば、かなり自分の表現が出来るようになる。授業では電子辞書を毎回持参のこと。</p> <p>4. 教科書を使って英語で英語が教えられるまでに決まった表現を繰り返し用いて習得する。 a. OxfordのEnglish for Primary TeachersのCDをshadowingして、表現を習得する。 b. その中に用いられている動詞の文型を辞書で確認し、教科書の表現を加えて拡大していく。shadowingして習得した表現を応用拡大したものを更に習得する。</p>						
到達目標	英語の基盤の習得、基盤に基づいた表現を指導者、英語を使う仕事において誇れる発音及び態度で用いることが到達目標である。						
授業計画	<p>扱う事項</p> <p>a. 動詞の特性／文型。教室英語研究ABで配布するカラーコードにある動詞の特性／文型をすべて扱います。 b. 冠詞 (communicationには大切な要素です) c. 時制</p> <p>Activitiesに用いるmethods</p> <p>a. Total Physical Response (TPR) b. Mini Dramatization(教師と児童や生徒との授業での対話表現)</p> <p>上記を教科書「英語教室英語活用事典」を材料に展開する。</p> <p>1. a. Orientation b. 定冠詞theについて 材料：絵本を使って冠詞の役割を確認</p> <p>2. a. 冠詞の検討 b. 文の構成と自動詞 vs. 他動詞 材料：English for Primary Teachers 2E/2F Textbook pp. 3-17</p> <p>3. a. 文の構成と自動詞 vs. 他動詞 English for Primary Teachers 2E/2F Textbook pp. 3-17 b. ピンク(文と文をto, ing等でつなぐ) 辞書での表現： aで確認した文をピンク(文と文をto, ing等でつなぐ) 使ってみよう。 Touch your nose. → I want you to touch your nose.</p> <p>4. 3で確認した文でTPRとMini Dramatizationの方法を用いてactivity 1に着手。 tapeに録音</p> <p>5. 2つの methodsによるactivity 1の検討とグレードアップ</p> <p>6. a. English for Primary Teachers 3A Textbook pp. 186-193, 35-37, 9-14, p. 36とpp. 326-329で花の名前 b. SVOとSVC(S=C, S=/C) SVOC, SVOM I want milk. I want to sleep. I want you to buy milk. You are happy. I want to make you happy. I put my pen on the desk. English for Primary Teachers3Aの表現に新しいものを加えて表現力の幅を上げよう。 name, callを使ってSVOCの文も確認。</p> <p>6. 既習の文型・表現を2つの methodsを用いてActivity 2に着手</p> <p>7. Activity 2の発展</p> <p>8. Activity 2の検討、録音</p>						

授業計画	<p>9. Activity 2の検討と更にグレードアップ</p> <p>10. 9A Green Caterpillar Activity 3に着手 Textbook p. 46, pp. 31-38, p. 118で始まるウォームアップ表現を加える。</p> <p>11. Activity 3の発展</p> <p>12. Activity 3の完成</p> <p>13. a. Activity 3の整理とデータベースの整理 b. データベースの整理で定期試験準備</p> <p>14. 既習事項の検討と定期試験（7月10日予定）</p> <p>15. Activity 3の続き定期試験の検討:ここで基本を理解していたかの確認作業をする。理解出来ていなかった事項はこの機会に理解して使える方向に持っていく。失敗から成長することに価値がある。</p>
授業外における学習（準備学習の内容）	syllabusから分かるように#1~#15まで積み重ねるので前回の内容を復習をして授業に臨むこと。
授業方法	講義と実践
評価基準と評価方法	平常点となるテープとペーパーの提出と発表へのフィードバック、強化で目標に到達することを鑑み、次の比率で評価方法とする。 平常点30% 定期試験70%
教科書	<p>英語教室英語活用事典 高梨庸雄、高橋正夫、カール・アダムズ、久埜百合 研究社</p> <p>ISBN-978-4-327-46149-2</p>
参考書	<p>English for Primary Teachers Mary Slattery & Jane Willis Oxford University Press ISBN-10:0-19-437562-5</p> <p>http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html</p> <p>quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。</p>

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	教室英語研究B						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	中高で学んだことを復習・検討して英語の基盤を確固たるものにするを目的とする。 その上で英語を指導する上で必要な表現を習得する。						
授業の概要	<p>1. この授業は今まで基本を復習する機会がなかった学生に、その機会を与える。英語は好きだし、使いたいし、意欲はあるが、英語に自信を持ってない学生にも適している授業。教員志望者のみならず、英語が分かるようになりたいと意欲がある全学生向けの授業である。</p> <p>2. A, Bを続けて履修して、英語が使えるようになってほしい。 AもBも目的・概要の内容は同じだがAを基盤とし、Bの授業をすすめていく。</p> <p>3. 辞書は宝庫で、辞書があれば、かなり自分の表現が出来るようになる。授業では電子辞書を毎回持参のこと。</p> <p>4. 教科書を使って英語で英語が教えられるまでに決まった表現を繰り返し用いて習得する。 a. OxfordのEnglish for Primary TeachersのCDをshadowingして、表現を習得する。 b. その中に用いられている動詞の文型を辞書で確認し、教科書の表現を加えて拡大していく。shadowingして習得した表現を応用拡大したものを更に習得する。</p>						
到達目標	英語の基盤の習得、基盤に基づいた表現を指導者、英語を使う仕事において誇れる発音及び態度で用いることが到達目標である。						
授業計画	<p>次の計画を教科書の「英語教室英語活用事典」を材料に展開していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 文の構成と自動詞(p.31)vs.他動詞(p.46, pp.191-193)の確認 English for Primary Teachers 2C/2E/2F/2H 前期にAを履修した学生は試験を返却 <ol style="list-style-type: none"> SVO vs. SV 動詞の遺伝子：他動詞オレンジSVO, ブルーSV00(give, show, get, buy, introduce等), SV00とto-group vs for-group, ピンク(文と文をto, ing等でつなぐ), sit, pointの遺伝子を辞書で確認してみよう。 <ol style="list-style-type: none"> 他動詞オレンジSVO, ブルーSV00, ピンク(文と文をto, ing p.186等でつなぐ) SV0のOが節(主部と動詞がある)の場合 <ol style="list-style-type: none"> 節, 従属節 p.55, pp.120-128(天候の表現に多い), p.147, p.183 SV0(疑問詞+不定詞) I know what to do. p.52, 55 時制を新聞記事を用いて確認 <ol style="list-style-type: none"> 従属節の強化 SV0(疑問詞+不定詞)の強化 <ol style="list-style-type: none"> 時制 NHKのEnglish Newsを用いて確認 関係節 <ol style="list-style-type: none"> 分詞(現在分詞/過去分詞) p.161 #9, have+物+過去分詞 p.76 #11(参:(have+物+人+動詞原形 p.55 Interaction)) 関係節、分詞(現在分詞/過去分詞)とhave+物+過去分詞 <ol style="list-style-type: none"> 自動詞の区別の確認(完全自動詞vs.不完全自動詞) 白の自動詞: We're running. 緑の自動詞: He looks(is) happy. He became(became) a doctor. He lives in Kobe. (SVM) SVCのCとSV0のO: He is a student. He likes music. <ol style="list-style-type: none"> 今までの復習整理 受動態と形容詞 This exercise is confusing. I am confused. (p.90, p.289 Student Response) ハイフォンの使い方 a five-dollar bill vs. five dollars 紫の文型の再確認: put, keep, name, call etc. 						

授業計画	<p>12. ブル—SV00 (to-groupの動詞とfor-groupの動詞) を再確認 English for Primary Teachers 2A Show me your book. -> Show it to me. Buy me this book. -> Buy it for me. と付加</p> <p>13. a. 紫の文型とSV00の強化とデータベースの整理 b. データベースの整理で定期試験準備</p> <p>14. 復習整理と定期試験 (1月15日予定)</p> <p>15. 定期試験の検討: ここで基本を理解していたかの確認作業をする。理解出来ていなかった事項はこの機会に理解して使える方向に持っていく。失敗から成長することに価値がある。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	syllabusから分かるように#1~#15まで積み重ねるので前回の内容を復習をして授業に臨むこと。
授業方法	講義と実践
評価基準と評価方法	平常点となるテープとペーパーの提出と発表へのフィードバック、強化で目標に到達することを鑑み、次の比率で評価方法とする。 平常点30% 定期試験70%
教科書	<p>英語教室英語活用事典 高梨庸雄、高橋正夫、カール・アダムズ、久埜百合 研究社</p> <p>ISBN-978-4-327-46149-2</p>
参考書	<p>English for Primary Teachers Mary Slattery & Jane Willis Oxford University Press ISBN-10:0-19-437562-5</p> <p>http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html</p> <p>quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。</p>

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	クリティカルシンキングA						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	■クリティカルシンキング入門■						
授業の概要	クリティカルシンキングとは、簡単に言えば論理的思考ということです。感情や雰囲気、表面的なごまかしに惑わされず、論理的に考えることは、これからの日常生活でもとても重要になってきます。詐欺や怪しげな勧誘に引っかからないためにも、クリティカルシンキングは有効でしょう。この授業では、簡単な英語のテキストを読み、英語の練習もしながら楽しく論理的思考の基礎を学んでいきます。						
到達目標	物事を論理的に考える能力を身につけ、同時に英語力を増進させること。						
授業計画	第1回 イン트로（授業説明・教科書紹介） 第2回 Unit 1 (1) Should cellular phone use be banned in public places? 第3回 Unit 1 (2) Should cellular phone use be banned in public places? 第4回 Unit 2 (1) Should smoking be prohibited on university campuses? 第5回 Unit 2 (2) Should smoking be prohibited on university campuses? 第6回 ここまでの復習 第7回 質疑応答・中間試験 第8回 Unit 3 (1) Should Japan introduce daylight saving time? 第9回 Unit 3 (2) Should Japan introduce daylight saving time? 第10回 Unit 4 (1) Should working women quit their jobs after childbirth? 第11回 Unit 4 (2) Should working women quit their jobs after childbirth? 第12回 Unit 5 (1) Should married women be allowed to use their maiden names? 第13回 Unit 5 (2) Should married women be allowed to use their maiden names? 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	必ず予習をしてきて下さい。予習をしないとCPポイントは取れません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	■試験（中間+期末）×50%、CPポイント（授業中に松田の質問に自発的に手を挙げて正答した回数に対する評価）×50% ■出席は取りません。ただしCPポイントが取れないと単位は絶望的です。						
教科書	茂木秀昭他著 Taking Sides: Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂) ISBN: 978-4-7647-3710-5						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	クリティカルシンキングB						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	■クリティカルシンキング入門■						
授業の概要	クリティカルシンキングとは、簡単に言えば論理的思考ということです。感情や雰囲気、表面的なごまかしに惑わされず、論理的に考えることは、これからの日常生活でもとても重要になってきます。詐欺や怪しげな勧誘に引っかからないためにも、クリティカルシンキングは有効でしょう。この授業では、簡単な英語のテキストを読み、英語の練習もしながら楽しく論理的思考の基礎を学んでいきます。						
到達目標	物事を論理的に考える能力を身につけ、同時に英語力を増進させること。						
授業計画	第1回 イン트로（授業説明・教科書紹介） 第2回 Unit 6 (1) Should all elementary schools introduced English into their curriculum? 第3回 Unit 6 (2) Should all elementary schools introduced English into their curriculum? 第4回 Unit 7 (1) Should English be eliminated from university entrance exams? 第5回 Unit 7 (2) Should English be eliminated from university entrance exams? 第6回 ここまでの復習 第7回 質疑応答・中間試験 第8回 Unit 8 (1) Should criminal law be applied to juvenile murderers? 第9回 Unit 8 (2) Should criminal law be applied to juvenile murderers? 第10回 Unit 9 (1) Were the atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki necessary to end the war? 第11回 Unit 9 (2) Were the atomic bombing of Hiroshima and Nagasaki necessary to end the war? 第12回 Unit 10 (1) Should commercial whaling be resumed? 第13回 Unit 10 (2) Should commercial whaling be resumed? 第14回 ここまでの復習 第15回 質疑応答・期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	必ず予習をしてきて下さい。予習をしないとCPポイントは取れません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	■試験（中間+期末）×50%、CPポイント（授業中に松田の質問に自発的に手を挙げて正答した回数に対する評価）×50% ■出席は取りません。ただしCPポイントが取れないと単位は絶望的です。						
教科書	茂木秀昭他著 Taking Sides: Critical Thinking for Speech, Discussion and Debate (金星堂) ISBN: 978-4-7647-3710-5						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	グローバルスタディゼミ／Seminar in Global Studies						
担当教員	柏本 吉章						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	ことばの意味と語用論						
授業の概要	<p>この授業では、ことばの意味を扱う分野の一つである語用論の考え方を、日常的な言語活動の観察を通して学びます。</p> <p>ことばは、辞書の中では説明されないような実際の場面に応じたさまざまな対人的意味機能を持っています。人から映画に誘われたとき、“I have to study for the exam.”という返答が、映画の誘いに対する「断り」の意味になるのはなぜでしょうか。授業では、日常のコミュニケーション場面に見られることばの対人的意味機能についての観察・分析の演習をします。</p>						
到達目標	語用論の基本的な考え方についての知識とことばの意味機能に対する観察・分析の能力を身につけること						
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 授業オリエンテーション：語用論の考え方 第3回 Greeting(あいさつ)A：あいさつの状況、あいさつのバラエティ 第3回 Greeting(あいさつ)B：あいさつのルール、あいさつの文化差 第4回 Communicative Competence(言語運用能力)A：ことばと場面 第5回 Communicative Competence(言語運用能力)B：外国語のあいさつ 第6回 What is Pragmatics?(語用論とは何か)A：言語学の分野 第7回 What is Pragmatics?(語用論とは何か)B：意味論と語用論 第8回 Speech Acts(発話行為)A：発話行為の考え方 第9回 Speech Acts(発話行為)B：発話行為の3つのレベル 第10回 A Speech Act, Apology(謝罪という発話行為)A：表現と状況の違い 第11回 A Speech Act, Apology(謝罪という発話行為)B：異文化間コミュニケーション 第12回 Conversational Implicature(会話の含意)A：会話の公理 第13回 Conversational Implicature(会話の含意)B：協調の原則 第14回 前期テーマのサブリメント 第15回 学期のまとめと期末試験</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 前期試験解説、文化・社会と語用論 第2回 トピックプレゼンテーション 第3回 Indirect Speech Acts(間接発話行為)A：ことばとは違う意図 第4回 Indirect Speech Acts(間接発話行為)B：理解のプロセス 第5回 Politeness(ポライトネス)(1)A：会話の公理の違反 第6回 Politeness(ポライトネス)(1)B：ポライトネスとフェイス 第7回 卒業研究プレゼンテーション 第8回 Politeness(ポライトネス)(2)A：ポライトネスの原理 第9回 Politeness(ポライトネス)(2)B：気配りの公理 第10回 Politeness in Making a Request(依頼の中のポライトネス)A：異文化におけるポライトネス 第11回 Politeness in Making a Request(依頼の中のポライトネス)B：言語文化とコミュニケーション 第12回 Cross-cultural Pragmatics(異文化間語用論)A：異文化コミュニケーションにおける語用論的視点 第13回 Cross-cultural Pragmatics(異文化間語用論)B：婉曲表現の理解 第14回 後期テーマのサブリメント 第15回 学期のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	(1) 教科書の指定された箇所をしっかりと読んでくること (2) 課題発表のための資料調査と発表準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点(授業での課題発表、討論参加など) 40%、期末試験 60%						

教科書	『プラグマティクス・ワークショップ:身のまわりの言葉を語用論的に見る』、田中典子著、春風社、ISBN4-86110-073-9
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	グローバルスタディゼミ/Seminar in Global Studies						
担当教員	川中 紀子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	3~4	単位数	4.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	<p>「比較文化」そして「異文化間コミュニケーション論」の視点から、映画や広告などの映像文化の他、身近なコミュニケーション行動にどのように文化が反映されているのか、考察することを目的とします。</p> <p>受講生が各自の関心のあるテーマを選び、そのトピックについて深く考察していきます。</p> <p>例えば、時代によって変化する女性像の考察」を一つのテーマとして、1930年代から現在まで、ディズニー・プリンセスがどのように変化していったのかを探ることも可能なトピックです。</p> <p>白雪姫、シンデレラ（シンデレラII）、オーロラ姫、ベル、アリエル、ジャスミン、そして『魔法にかけられて』のジゼルなど、個性豊かなプリンセスと、物語の構造の特色を分析することから時代とともに変化する女性像を読み解くことができるでしょう。</p> <p>英語コミュニケーション特論でとりあげた宮崎駿アニメの中の女性像・男性像についての分析も可能なテーマになります。</p> <p>就職活動や社会人になってからも必要な、「プレゼンテーション力・コミュニケーション力」を鍛えることが、この授業の目標の一つになります。各自の関心のあるテーマについて調べ、発表しているうちに、楽しみながら自然に、プレゼンテーション力・コミュニケーション力がつくように指導します。</p> <p>マインド・マップの作成法、文化人類学のデータ収集・整理法・フィールドワークの手法、そして言語・非言語両方のコミュニケーション理論を導入して指導します。</p> <p>パワー・ポイントを用いて、受講生が各自のトピックについて発表します。</p> <p>受講生の関心によっては、映画を見てディスカッションする時間も設けたいと思っています。</p> <p>できれば、川中紀子担当の英語コミュニケーション概論A・特論 A, B を受講し、基本的な知識を共有した上で、このゼミを履修することが望ましいです。講義で得た知識・問題意識をゼミで受講生が発展させ、卒論にまとめ上げる、というプロセスが理想的です。</p> <p>4年生で川中紀子担当の卒業研究を履修する予定の人は、ぜひ、このゼミと併せて受講してください。よりきめ細かな指導ができると思います。</p> <p>ディスカッション主体の授業で、受講生自身が発表する機会を多く設けますので、受身ではなく、主体的に参加する人を歓迎します。口頭・論述の両方を含む思考力・表現力を高めるために、発表・リサーチの方法論を段階を追って指導します。</p>						
到達目標	文化とコミュニケーションについて理解を深め、思考力・プレゼンテーション力を養うこと。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：自己概念とコミュニケーション 第3回：研究テーマの選定（例：「時代によって変化するディズニープリンセス」「宮崎アニメの中のヒロイン・ヒーロー像について」） 第4回：マインドマップの作成法 第5回：プレゼンテーションの技法 第6回：発表とフィードバック（演習①） 第7回：発表とフィードバック（演習②） 第8回：発表とフィードバック（演習③） 第9回：より活発なディスカッションを目指して（中間報告） 第10回：論文作法 第11回：発表とフィードバック（演習④） 第12回：発表とフィードバック（演習⑤） 第13回：発表とフィードバック（演習⑥） 第14回：前期の報告とレポート作成の指導 第15回：まとめと復習</p> <p>後期</p> <p>第16回 発表、レポート作成に向けて～オリエンテーション 第17回 レジュメの作成、フィールドワーク 第18回 第19回 第20回 第21回</p>						

授業計画	第22回 第23回 第24回 第25回 プレゼンテーション① 第26回 プレゼンテーション② 第27回 プレゼンテーション③ 第28回 プレゼンテーション④ 第29回 プレゼンテーション⑤ 第30回 まとめと復習
授業外における学習（準備学習の内容）	十分に準備をして、発表にのぞむこと。
授業方法	演習形式。受講生のプレゼンテーションとクラス全体でのディスカッションを中心とする。 受講生の関心に応じて、参考文献の紹介を紹介し、講義形式の授業もあわせて行う。
評価基準と評価方法	毎回の発表・出席を含む受講状況を考慮し、前期レポート(5割)・後期レポート(5割)の総合評価
教科書	『ザ・マインドマップ』トニー・ブザン著 ISBN-10 : 487876993
参考書	以下の参考書の購入は受講生に任せます。授業の内容を更に深めたい人は、以下の参考書を購入することが望ましいです。 『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで』[単行本]石井 敏（編集）、久米 昭元（編集）、有斐閣ブックス ISBN 4641183171 『異文化コミュニケーションキーワード』古田暁 著 （有斐閣） 『テキスト心理学』橋本憲尚ほか 著（ミネルヴァ書房）

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	グローバルスタディゼミ/Seminar in Global Studies						
担当教員	川中 紀子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	4.0
授業のテーマ	文化とコミュニケーション						
授業の概要	<p>「比較文化」そして「異文化間コミュニケーション論」の視点から、映画や広告などの映像文化の他、身近なコミュニケーション行動にどのように文化が反映されているのか、考察することを目的とします。</p> <p>受講生が各自の関心のあるテーマを選び、そのトピックについて深く考察していきます。</p> <p>例えば、時代によって変化する女性像の考察」を一つのテーマとして、1930年代から現在まで、ディズニー・プリンセスがどのように変化していったのかを探ることも可能なトピックです。</p> <p>白雪姫、シンデレラ（シンデレラII）、オーロラ姫、ベル、アリエル、ジャスミン、そして『魔法にかけられて』のジゼルなど、個性豊かなプリンセスと、物語の構造の特色を分析することから時代とともに変化する女性像を読み解くことができるでしょう。</p> <p>英語コミュニケーション特論でとりあげた宮崎駿アニメの中の女性像・男性像についての分析も可能なテーマになります。</p> <p>就職活動や社会人になってからも必要な、「プレゼンテーション力・コミュニケーション力」を鍛えることが、この授業の目標の一つになります。各自の関心のあるテーマについて調べ、発表しているうちに、楽しみながら自然に、プレゼンテーション力・コミュニケーション力がつくように指導します。</p> <p>マインド・マップの作成法、文化人類学のデータ収集・整理法・フィールドワークの手法、そして言語・非言語両方のコミュニケーション理論を導入して指導します。</p> <p>パワー・ポイントを用いて、受講生が各自のトピックについて発表します。</p> <p>受講生の関心によっては、映画を見てディスカッションする時間も設けたいと思っています。</p> <p>できれば、川中紀子担当の英語コミュニケーション概論A・特論 A, B を受講し、基本的な知識を共有した上で、このゼミを履修することが望ましいです。講義で得た知識・問題意識をゼミで受講生が発展させ、卒論にまとめ上げる、というプロセスが理想的です。</p> <p>4年生で川中紀子担当の卒業研究を履修する予定の人は、ぜひ、このゼミと併せて受講してください。よりきめ細かな指導ができると思います。</p> <p>ディスカッション主体の授業で、受講生自身が発表する機会を多く設けますので、受身ではなく、主体的に参加する人を歓迎します。口頭・論述の両方を含む思考力・表現力を高めるために、発表・リサーチの方法論を段階を追って指導します。</p>						
到達目標	文化とコミュニケーションについて理解を深め、思考力・プレゼンテーション力を養うこと。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：自己概念とコミュニケーション 第3回：研究テーマの選定（例：「時代によって変化するディズニープリンセス」「宮崎アニメの中のヒロイン・ヒーロー像について」） 第4回：マインドマップの作成法 第5回：プレゼンテーションの技法 第6回：発表とフィードバック（演習①） 第7回：発表とフィードバック（演習②） 第8回：発表とフィードバック（演習③） 第9回：より活発なディスカッションを目指して（中間報告） 第10回：論文作法 第11回：発表とフィードバック（演習④） 第12回：発表とフィードバック（演習⑤） 第13回：発表とフィードバック（演習⑥） 第14回：前期の報告とレポート作成の指導 第15回：まとめと復習</p> <p>後期</p> <p>第16回 発表、レポート作成に向けて～オリエンテーション 第17回 レジュメの作成、フィールドワーク 第18回 第19回 第20回 第21回</p>						

授業計画	第22回 第23回 第24回 第25回 プレゼンテーション① 第26回 プレゼンテーション② 第27回 プレゼンテーション③ 第28回 プレゼンテーション④ 第29回 プレゼンテーション⑤ 第30回 まとめと復習
授業外における学習（準備学習の内容）	十分に準備をして、発表にのぞむこと。
授業方法	演習形式。受講生のプレゼンテーションとクラス全体でのディスカッションを中心とする。 受講生の関心に応じて、参考文献の紹介を紹介し、講義形式の授業もあわせて行う。
評価基準と評価方法	毎回の発表・出席を含む受講状況を考慮し、前期レポート(5割)・後期レポート(5割)の総合評価
教科書	『ザ・マインドマップ』トニー・ブザン著 ISBN-10 : 487876993
参考書	以下の参考書の購入は受講生に任せます。授業の内容を更に深めたい人は、以下の参考書を購入することが望ましいです。 『異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで』[単行本]石井 敏（編集）、久米 昭元（編集）、有斐閣ブックス ISBN 4641183171 『異文化コミュニケーションキーワード』古田暁 著 （有斐閣） 『テキスト心理学』橋本憲尚ほか 著（ミネルヴァ書房）

科目区分	英語英米文学科専門教育科目																																						
科目名	国際キャリアゼミ／Seminar in International Business																																						
担当教員	A. E. Jackson																																						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	4.0																																
授業のテーマ	British Studies with the theme "London Life"																																						
授業の概要	This course aims to familiarize students with various aspects of life in Britain's capital London. Classwork will comprise a series of reading passages accompanied by comprehension questions, listening exercises, vocabulary work and discussion. Students will also view scenes from 2 films set in London as a basis for report writing.																																						
到達目標	To (a) acquire an understanding of modern British society, and (b) develop all four language skills.																																						
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1st semester</td> <td>2nd semester</td> </tr> <tr> <td>1 Introduction / Images of London</td> <td>1 Sports and Annual Events</td> </tr> <tr> <td>2 London People</td> <td>2 The London Year</td> </tr> <tr> <td>3 Japan in London</td> <td>3 London Style and Fashion</td> </tr> <tr> <td>4 Social Class</td> <td>4 London's Markets</td> </tr> <tr> <td>5 The Royal Family</td> <td>5 Crime and Punishment</td> </tr> <tr> <td>6 History</td> <td>6 Henry VIII</td> </tr> <tr> <td>7 Review Test 1 / London Film</td> <td>7 Review Test 3 / London Film</td> </tr> <tr> <td>8 London Film</td> <td>8 London Film</td> </tr> <tr> <td>9 London Film</td> <td>9 London Film</td> </tr> <tr> <td>10 Houses and Gardens</td> <td>10 The City</td> </tr> <tr> <td>11 Chelsea Flower Show</td> <td>11 Gambling</td> </tr> <tr> <td>12 Pub Life</td> <td>12 Student Life</td> </tr> <tr> <td>13 Pub Entertainment</td> <td>13 Student Accommodation</td> </tr> <tr> <td>14 London Sights</td> <td>14 London's Museums</td> </tr> <tr> <td>15 Course Summary / Review Test 2</td> <td>15 Course Summary / Review Test 4</td> </tr> </table>							1st semester	2nd semester	1 Introduction / Images of London	1 Sports and Annual Events	2 London People	2 The London Year	3 Japan in London	3 London Style and Fashion	4 Social Class	4 London's Markets	5 The Royal Family	5 Crime and Punishment	6 History	6 Henry VIII	7 Review Test 1 / London Film	7 Review Test 3 / London Film	8 London Film	8 London Film	9 London Film	9 London Film	10 Houses and Gardens	10 The City	11 Chelsea Flower Show	11 Gambling	12 Pub Life	12 Student Life	13 Pub Entertainment	13 Student Accommodation	14 London Sights	14 London's Museums	15 Course Summary / Review Test 2	15 Course Summary / Review Test 4
1st semester	2nd semester																																						
1 Introduction / Images of London	1 Sports and Annual Events																																						
2 London People	2 The London Year																																						
3 Japan in London	3 London Style and Fashion																																						
4 Social Class	4 London's Markets																																						
5 The Royal Family	5 Crime and Punishment																																						
6 History	6 Henry VIII																																						
7 Review Test 1 / London Film	7 Review Test 3 / London Film																																						
8 London Film	8 London Film																																						
9 London Film	9 London Film																																						
10 Houses and Gardens	10 The City																																						
11 Chelsea Flower Show	11 Gambling																																						
12 Pub Life	12 Student Life																																						
13 Pub Entertainment	13 Student Accommodation																																						
14 London Sights	14 London's Museums																																						
15 Course Summary / Review Test 2	15 Course Summary / Review Test 4																																						
授業外における学習（準備学習の内容）	Read and understand textbook articles before class.																																						
授業方法	Seminar																																						
評価基準と評価方法	Final grades will be based on 4 tests (80%) and film reports (20%).																																						
教科書	Prints																																						
参考書																																							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリアゼミ／Seminar in International Business						
担当教員	P. J. Mallett						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	Love and Marriage in British Novels and Films						
授業の概要	This course will examine attitudes towards love and marriage and the social conventions of the times over a period of 200 years in Britain as portrayed in British novels and films.						
到達目標	You will learn about British culture and society through an examination of love and marriage. You will reflect on traditions and customs in Japan and make comparisons.						
授業計画	<p>1st SEMESTER:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Introduction 2) Background to Jane Austen 3) Late 18th Century. Marriage and Property - Jane Austen: 'Pride and Prejudice' 4) Late 18th Century. Marriage and Property - Jane Austen: 'Pride and Prejudice' 5) Late 18th Century. Marriage and Property - Jane Austen: 'Pride and Prejudice' 6) Late 18th Century. Marriage and Property - Jane Austen: 'Pride and Prejudice' 7) The Independent Woman - Jane Austen: 'Emma' 8) The Independent Woman - Jane Austen: 'Emma' 9) The Independent Woman - Jane Austen: 'Emma' 10) Background to the Brontes 11) 19th Century and Romanticism. Passion - Emily Bronte: 'Wuthering Heights' 12) 19th Century and Romanticism. Passion - Emily Bronte: 'Wuthering Heights' 13) 19th Century and Romanticism. Passion - Emily Bronte: 'Wuthering Heights' 14) Revision 15) Review and Test <p>2nd SEMESTER:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 19th Century and Romanticism. Passion - Charlotte Bronte - 'Jane Eyre' 2) 19th Century and Romanticism. Passion - Charlotte Bronte - 'Jane Eyre' 3) 19th Century and Romanticism. Passion - Charlotte Bronte - 'Jane Eyre' 4) A Pure Woman? - Thomas Hardy: 'Tess of the d' Urbevilles' 5) A Pure Woman? - Thomas Hardy: 'Tess of the d' Urbevilles' 6) A Pure Woman? - Thomas Hardy: 'Tess of the d' Urbevilles' 7) A Pure Woman? - Thomas Hardy: 'Tess of the d' Urbevilles' 8) Love Outside Marriage - David Lean' s 'Brief Encounter' (1945) 9) Love Outside Marriage - David Lean' s 'Brief Encounter' (1945) 10) Same Sex Love - Stephen Frear' s 'My Beautiful Laundrette' (1975) 11) Same Sex Love - Stephen Frear' s 'My Beautiful Laundrette' (1975) 12) Love Across Cultures - Ken Loach' s 'Ae Fond Kiss' (2004) 13) Love Across Cultures - Ken Loach' s 'Ae Fond Kiss' (2004) 14) Revision 15) Review and Test 						
授業外における学習（準備学習の内容）	You will sometimes have to read at home in preparation for the class.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Test and Written report Poor attendance will affect your grade and failure to attend the required number of classes may result in failure.						
教科書	Prints. You must buy a clear file in which to keep them.						

参考書	Please bring a dictionary to class.
-----	-------------------------------------

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリアゼミ／Seminar in International Business						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	American Studies						
授業の概要	This course will explore many aspects of life in the United States while developing students' English skills. Topics covered will include geography, politics, art, leisure, traditions, Native Americans, money and history. Topics of current interest may be added.						
到達目標	To familiarize students with all aspects of America.						
授業計画	<p>First Semester</p> <p>Weekly Class Content</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Course Introduction / Coast to Coast 2 Can You Talk American / The Melting Pot 3 The Melting Pot / Government and Politics 4 Contrasting Lifestyles / In God We Trust 5 In God We Trust / The Media 6 The Struggle for Equality / Native Americans 7 Native Americans / Coming to the New World 8 Coming to the New World / Mid-Term Test 9 A Nation Divided / Go West! 10 Go West! / A World Power 11 Dollars and Cents / Going to Work 12 Going to Work / Family Life 13 Home, Sweet Home / Eating American Style 14 Eating American Style / Course Conclusion 15 Review and Final Exam <p>Second Semester</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Across the States / City Centers 2 City Centers / The Northeast 3 Midwest / The West 4 The West / The South 5 The Southwest / The Golden State 6 The Golden State / The Northwest 7 In the Pacific / In the Caribbean 8 Going to School / Across the US Quiz 9 Vacations / Free Time 10 Free Time / Science 11 Stage and Screen / Writing 12 Writing / Art and Architecture 13 Rock and Roll / High Tech 14 High Tech / Course Conclusion 15 Review and Final Exam <p>Note: Subject covered in the latter half of the second semester may vary according to the wishes of the students.</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	None						
授業方法	Lecture						

評価基準と 評価方法	Examinations will be held in the middle and at the end of each semester for 70% of the grade. The remaining 30% will be based on participation in class and homework.
教科書	Martha Bordman: In the USA. Macmillan, 1998. (ISBN978-4-89585-258-6)
参考書	None

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリアゼミ／Seminar in International Business						
担当教員	C. L. Starling						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜1	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	Comparative culture						
授業の概要	This is not a lecture course but a seminar course, which means that in many classes the "teacher" will be more accurately termed an "activity leader," guiding students as they prepare or engage in group or individual projects. The course will first deal, more or less chronologically, with elements important in the birth and development of pre-modern cultures (including nature, myth and major religions). There will then be brief study of the contributions and effects of modernism and postmodernism. The reaffirmation of indigenous cultures following decolonization will be treated at this point. Later classes will consider the concept of "norm" and examine "culture surprise" and "culture shock," seen as the encounter with unfamiliar norms. There will be some topical classes also, for example dealing with Halloween and Thanksgiving.						
到達目標	1) To develop students' understanding of the processes that caused early cultures to evolve differently and to instruct students in specific examples of this. 2) To develop students' awareness of the interaction among different cultural types and trends, notably the encounter of primitive culture with modernism and the recent reevaluation of the former by postmodernism 3) To develop students' awareness of culture as a dynamic phenomenon involving clashes of norms.						
授業計画	<p>Week and theme:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Preview of course; class policy; world geography 2 How nature makes culture (ice-breaking exercise): introduction 3 How nature makes culture: student group work 4 How nature makes culture: student group work 5 Comparative essay 6 How imagination makes culture: myths and legends 7 Reading of legends 8 Reading of legends 9 Writing of skits 10 Writing of skits 11 Rehearsal of skits 12 Performance of skits 13 Religion 14 To be decided 15 Test 16 Things of primitive cultures 17 Origins of modernism 18 Primitive cultures contesting modernism 19 Identity: independence days 20 Halloween 21 Flags and their meanings 22 Thanksgiving; unthanksgiving 23 Norms: introduction 24 Norms: further study 25 Norms: further study 26 Preparing and writing an individual essay 27 Preparing and writing an individual essay 28 Preparing and writing an individual essay 29 Preparing and writing an individual essay 30 Guidance for further study, test, and report deadline 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Before the course, students should make themselves familiar with world geography in order to understand and references to countries in class activities. Also, in weeks 26-29, students will be required to research one place and to write about its culture.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Students will be graded according to the amount and quality of their class work, particularly four class projects. Class work is here defined as not only tangible elements such as essays and answer papers but also as intangibles such as participation in conversations, discussions, and other activities. Full details of class grading will be given in the first class.						

教科書	None. Prints will be supplied.
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論A (国際秘書概論)						
担当教員	嶽 麻美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として必要な知識と実務能力の習得 (基礎編)。						
授業の概要	国際化社会、情報化社会の中で変化するビジネス環境、企業組織において、国際秘書として効果的な役割を果たすために必要な職能、資質、知識、技能などについて学習し、必要な専門的知識と実務能力の習得を目指す。国際秘書の職務に関連する分野は極めて広範囲にわたるが、国際秘書概論Aでは、国際秘書の現状、地位、職能、資質、対人関係に関してはコミュニケーション能力、マナー、ホスピタリティ等についてみていく。						
到達目標	国際秘書としての業務の基本的な内容を知り、それに必要な知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：国際秘書について 2. 日本企業の国際化：国際秘書の現状 3. 国際企業の組織：国際秘書の役割 (1) 4. 秘書の専門分化：国際秘書の役割 (2) 5. 国際企業で求められる知識と技能：国際秘書の職能 6. 国際企業で求められる人材：国際秘書の資質 7. 国際秘書の職業観とキャリア 8. 国際秘書に必要な社会心理学についての知識 9. 国際秘書の言語コミュニケーション能力 10. 国際秘書の非言語コミュニケーション能力 11. 国際秘書のマナーと接遇 12. 国際秘書のプロトコル 13. 国際秘書のホスピタリティ 14. まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の内容を理解し、ほぼ毎回出されるタスクを提出する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験 (60%)、平常点 (40%) の総合評価						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に提示します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論A (国際秘書概論)						
担当教員	嶽 麻美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として必要な知識と実務能力の習得 (基礎編)。						
授業の概要	国際化社会、情報化社会の中で変化するビジネス環境、企業組織において、国際秘書として効果的な役割を果たすために必要な職能、資質、知識、技能などについて学習し、必要な専門的知識と実務能力の習得を目指す。国際秘書の職務に関連する分野は極めて広範囲にわたるが、国際秘書概論Aでは、国際秘書の現状、地位、職能、資質、対人関係に関してはコミュニケーション能力、マナー、ホスピタリティ等についてみていく。						
到達目標	国際秘書としての業務の基本的な内容を知り、それに必要な知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：国際秘書について 2. 日本企業の国際化：国際秘書の現状 3. 国際企業の組織：国際秘書の役割 (1) 4. 秘書の専門分化：国際秘書の役割 (2) 5. 国際企業で求められる知識と技能：国際秘書の職能 6. 国際企業で求められる人材：国際秘書の資質 7. 国際秘書の職業観とキャリア 8. 国際秘書に必要な社会心理学についての知識 9. 国際秘書の言語コミュニケーション能力 10. 国際秘書の非言語コミュニケーション能力 11. 国際秘書のマナーと接遇 12. 国際秘書のプロトコル 13. 国際秘書のホスピタリティ 14. まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の内容を理解し、ほぼ毎回出されるタスクを提出する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験 (60%)、平常点 (40%) の総合評価						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に提示します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論A (国際ビジネスコミュニケーション)						
担当教員	平井 拓己						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネスにおける英語でのコミュニケーション						
授業の概要	本講義では、国際企業において最も必要とされるコミュニケーション能力について、多分野にわたる関連理論を理解した上で、言語および非言語による効果的な表現方法、合意形成、交渉など、ビジネス組織内および組織間における具体的な応用も含めて、基礎的な知識の習得と実務能力の養成を目指す。前期は、主としてコミュニケーションの基礎理論における様々な側面について、英語に関する具体例を挙げて理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動で用いられる用語を理解する。 ・英語圏をはじめ異文化における企業とのコミュニケーションについて理解する。 ・連絡、交渉などに用いる英語表現を習得する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：企業活動と異文化コミュニケーション 2 ビジネスコミュニケーションの基礎(1) 3 ビジネスコミュニケーションの基礎(2) 4 ビジネスコミュニケーションの基礎(3) 5 企業の情報発信(1) 6 企業の情報発信(2) 7 企業の情報発信(3) 8 米国の企業とグローバル化(1) 9 米国の企業とグローバル化(2) 10 国際貿易とコミュニケーション(1) 11 国際貿易とコミュニケーション(2) 12 会議と交渉の英語(1) 13 会議と交渉の英語(2) 14 まとめ 15 定期試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前：英字新聞や企業のIRレポートなどを通じて、企業で用いられる英語に触れる機会を増やす。</p> <p>授業後：学んだ内容を復習し、機会を捉えて実践する。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(毎回提出物があります) 40% 中間レポート及び期末試験 60%						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	亀田尚己『国際ビジネスコミュニケーション再考』文真堂、2009年						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論B (国際秘書概論)						
担当教員	嶽 麻美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際社会、情報社会のなかで国際秘書として必要な知識と実務能力の習得 (応用編)						
授業の概要	国際秘書概論Aでは国際秘書の職能、資質についてみたが、国際秘書概論Bでは、国際秘書の知識、技能についてみていく。国際秘書に求められるのは、国際経営、金融、国際関係に関する専門的知識、商取引に関する法制度についての専門的知識、情報収集能力を含めた情報一般に関する専門的知識などとそれぞれの分野における高い実務能力である。授業では、これらのトピックについてできるかぎり具体例を用いて解説する。						
到達目標	国際秘書概論Aで学習した、国際秘書としての業務の基本的な内容をもとに、より専門的な知識、技能についての理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：国際秘書について 2. 秘書の国際化と専門分化 3. 国際秘書に必要な経済、金融についての知識 4. 国際秘書に必要な商取引、貿易取引についての知識 5. 国際秘書に必要な法制度、規制についての知識 6. 国際秘書に必要な事務管理能力 7. 国際秘書と異文化理解・プレゼンテーション能力 8. 国際秘書とマーケティング 9. 国際秘書と情報社会 10. 国際秘書のコンプライアンスへの対応 11. 国際企業のリスク管理への対応 12. 国際秘書の外部メディアへの対応 13. 国際秘書の情報収集能力と情報倫理への対応 14. 国際秘書とビジネス社会・まとめ 15. 質疑応答・期末試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の内容を理解し、ほぼ毎回出されるタスクを提出する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験 (60%)、平常点 (40%) の総合評価						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に提示します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論B (国際秘書概論)						
担当教員	嶽 麻美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際社会、情報社会のなかで国際秘書として必要な知識と実務能力の習得 (応用編)						
授業の概要	国際秘書概論Aでは国際秘書の職能、資質についてみたが、国際秘書概論Bでは、国際秘書の知識、技能についてみていく。国際秘書に求められるのは、国際経営、金融、国際関係に関する専門的知識、商取引に関する法制度についての専門的知識、情報収集能力を含めた情報一般に関する専門的知識などとそれぞれの分野における高い実務能力である。授業では、これらのトピックについてできるかぎり具体例を用いて解説する。						
到達目標	国際秘書概論Aで学習した、国際秘書としての業務の基本的な内容をもとに、より専門的な知識、技能についての理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：国際秘書について 2. 秘書の国際化と専門分化 3. 国際秘書に必要な経済、金融についての知識 4. 国際秘書に必要な商取引、貿易取引についての知識 5. 国際秘書に必要な法制度、規制についての知識 6. 国際秘書に必要な事務管理能力 7. 国際秘書と異文化理解・プレゼンテーション能力 8. 国際秘書とマーケティング 9. 国際秘書と情報社会 10. 国際秘書のコンプライアンスへの対応 11. 国際企業のリスク管理への対応 12. 国際秘書の外部メディアへの対応 13. 国際秘書の情報収集能力と情報倫理への対応 14. 国際秘書とビジネス社会・まとめ 15. 質疑応答・期末試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の内容を理解し、ほぼ毎回出されるタスクを提出する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験 (60%)、平常点 (40%) の総合評価						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に提示します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際キャリア特論B (国際ビジネスコミュニケーション)						
担当教員	平井 拓己						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネスにおける英語でのコミュニケーション						
授業の概要	本講義では、国際ビジネスコミュニケーションAで学んだ基礎知識の実務への応用をみていく。対人コミュニケーションから始めて、集団内でのコミュニケーション、なかでも企業内のコミュニケーションとともに、対象を拡げ市場におけるコミュニケーションを扱う。また、ビジネスコミュニケーションにおける文書実務も扱う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内外で用いる英語表現を習得する。 ・英語のプレゼンテーションについて理解する。 ・ビジネス英語の文章表現を習得する。 ・異文化コミュニケーションで生じる摩擦と対応について理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：コミュニケーション 2 社内の対人コミュニケーション(1) 3 社内の対人コミュニケーション(2) 4 プレゼンテーション(1) 5 プレゼンテーション(2) 6 プレゼンテーション(3) 7 文書によるコミュニケーション(1) 8 文書によるコミュニケーション(2) 9 文書によるコミュニケーション(3) 10 文書によるコミュニケーション(4) 11 異文化摩擦とその解決(1) 12 異文化摩擦とその解決(2) 13 異文化摩擦とその解決(3) 14 まとめ 15 定期試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前：英字新聞や企業のIRレポートなどを通じて、企業で用いられる英語に触れる機会を増やす。</p> <p>授業後：学んだ内容を復習し、機会を捉えて実践する。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(毎回提出物があります) 40% 中間レポート及び期末試験 60%						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	亀田尚己『国際ビジネスコミュニケーション再考』文真堂、2009年						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際企業経営論A						
担当教員	平井 拓己						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本企業のグローバル化について学ぶ						
授業の概要	本講義では、企業の国際経営についての基礎を学び、全体像を理解することを目標とする。特に、日本とりわけ我々に身近な関西地域の企業を主な題材として、グローバル化の進む世界経済の中で行われる企業活動の実態から国際経営について考える。前期には、企業活動に関する基礎知識および日本企業のグローバル化についてその現状と歴史を踏まえつつ、海外生産と販売・マーケティングを中心に解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営についての基礎を理解する。 ・日本企業におけるグローバル化の歴史を理解する。 ・生産と販売活動のグローバル化について企業研究ができるようになる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：グローバル化とは 2 国際経営の基礎(1) 3 国際経営の基礎(2) 4 日本企業のグローバル化：事例 5 日本企業のグローバル化：歴史 6 グローバル化の進展と日本企業の対応(1) 7 グローバル化の進展と日本企業の対応(2) 8 グローバル企業の経営戦略(1) 9 グローバル企業の経営戦略(2) 10 グローバル企業の生産(1) 11 グローバル企業の生産(2) 12 グローバル企業のマーケティング(1) 13 グローバル企業のマーケティング(2) 14 まとめ 15 定期試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前：経済紙などを通じて、興味のある企業や業種の動向に関して情報を収集する。</p> <p>授業後：学んだ内容を復習し、現実の企業の動きに当てはめて考える。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(毎回提出物があります) 40% 中間レポート及び期末試験 60%						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	吉原英樹『国際経営 第3版』有斐閣、2011年 吉原英樹『国際経営論への招待』有斐閣、2002年						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際企業経営論B						
担当教員	平井 拓己						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	企業活動のグローバル化への理解を深める						
授業の概要	本講義では、企業の国際経営についての現状と課題をさらに深く理解することを目標とする。主なトピックには、研究開発のグローバル化、資金調達、人材と組織の国際化、日本企業の異文化経営などが含まれる。可能な限り、我々が普段眼にすることの多い身近な企業を題材として取り上げて解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の進展と企業経営への影響を理解する。 ・企業の様々な国際的活動について理解する。 ・日本企業の異文化経営における現状と課題を理解する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・復習：グローバル化と国際ビジネス 2 世界経済のグローバル化と企業活動(1) 3 世界経済のグローバル化と企業活動(2) 4 世界経済のグローバル化と企業活動(3) 5 国際研究開発(1) 6 国際研究開発(2) 7 国際研究開発(3) 8 国際研究開発(4) 9 企業の社会的責任(1) 10 企業の社会的責任(2) 11 人事と組織のグローバル化(1) 12 人事と組織のグローバル化(2) 13 人事と組織のグローバル化(3) 14 まとめ 15 定期試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前：経済紙などを通じて、興味のある企業や業種の動向に関して情報を収集する。</p> <p>授業後：学んだ内容を復習し、現実の企業の動きに当てはめて考える。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(毎回提出物があります) 40% 中間レポート及び期末試験 60%						
教科書	なし(資料を配付します)						
参考書	吉原英樹『国際経営 第3版』有斐閣、2011年 吉原英樹『国際経営論への招待』有斐閣、2002年						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネスマネジメントA						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際的な経営活動 ーグローバル企業研究ー						
授業の概要	世界経済と国際経営について学ぶ。(基礎編) ビジネスゲーム、会社設立をシュミレーションで体験する。 日本企業および外国企業の経営環境をグローバルな視点で考察する。 事例研究を実施する。						
到達目標	グローバル企業で必要とされる基礎的な知識を得る。 卒業までの「学び」の計画を立てる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル経営とは 2. 経済学と経営学 3. 現在の世界経済を知る 4. 国際的な経営戦略① 5. 国際的な経営戦略② 6. 業界と企業研究 7. グローバル経営の組織 8. 本社と海外子会社 9. 多国籍企業の集権と分権 10. トランスナショナル経営論 11. ケース・スタディ (ネスレ) 12. 会社設立 (シュミレーション) 13. 発表 14. まとめとふり返し 15. 質疑応答と試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：世界のビジネス情報に関心を持つ。教科書を読んでおく。社会に関心を持つ。 授業後学習：学んだ内容を復習する。専門用語を理解し知識を蓄積する。						
授業方法	講義と演習 適宜、グループでのビジネスゲームや討論を実施する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50%、提出物および発表50%の総合評価						
教科書	マネジメント・テキスト・グローバル経営入門、浅川和宏、日本経済新聞出版社、 ISBN 978-4-532-13260-6						
参考書	現代世界経済をとらえるVer. 5、石田修他編、東洋経済新報社、 ISBN 978-4-492-44366-8						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際ビジネスマネジメントB						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際的な経営活動 ーグローバル企業研究ー						
授業の概要	世界経済と国際経営について学ぶ。(応用編) 日本企業および外国企業の経営環境をグローバルな視点で考察する。事例研究で具体例を研究する。 グループ発表をする。						
到達目標	グローバル企業で必要とされる知識を得て応用する。 卒業までの「学び」の計画を立てる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル・イノベーション 2. ナレッジ・マネジメント 3. グローバルR&Dマネジメント 4. 海外ラボの発展段階とグローバル戦略提携 5. グローバル企業の分析・研究 6. グローバル戦略の形成過程 7. 国際化と人的資源 8. 人的資源マネジメント 9. リージョナル・マネジメント 10. 多国籍企業と地域本社 11. グローバル経営と異文化 12. グローバル経営の課題 13. 発表 14. まとめとふり返し 15. 質疑応答と試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：世界ビジネス情報に関心を持つ。教科書を読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習する。専門用語を理解し、知識を蓄積する。						
授業方法	講義と演習 グループで研究をし発表する。						
評価基準と評価方法	期末試験50%、提出物および発表50%の総合評価						
教科書	マネジメント・テキストグローバル経営入門、浅川和宏、日本経済新聞出版社、ISBN 978-4-532-13260-6						
参考書	現代世界経済をとらえるVer. 5、石田修他編、東洋経済新報社、ISBN 978-4-492-44366-8						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際マナー入門						
担当教員	安藤 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際化社会において、海外の人々と円滑な人間関係を構築するために必要な知識と能力を構築します						
授業の概要	Businessの国際化に伴い、日常のあらゆる場面で海外の人々に接する機会が多くなりました。一言に海外といっても、欧米のみならず、アジア・アフリカ・中東・ラテン系諸国等、さまざまです。国が違えば習慣などもおのずから異なり、それぞれにふさわしい対応が求められます。このコースでは、マナーとは何か、という基本的な考え方から始まり、社会人になる前に最低限身につけておくべき事柄や、海外の国々の文化、価値観の違いなどを学び、状況に応じた適切なコミュニケーションを取るために必要な知識・能力を養って、日本をはじめ、海外のあらゆる人々と良い人間関係が築ける人材の育成を目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初対面の人々に、適切な挨拶ができ、よいコミュニケーションがとれる 2. 正しいテーブルマナーと、料理・ワインについての知識を身につける 3. パーティーなどの「社交」について、正しい知識を身につける 4. 国や宗教などが違って、正しい対応ができる 						
授業計画	第1回. Introduction: Mannerとはなにか 第2回. 紹介・挨拶・名刺 第3回. コミュニケーションのマナー 第4回. レディーファースト 第5回. レストランのマナー 第6回. フランス料理の基礎知識 第7回. テーブルマナー 1 第8回. ワインとマナー 第9回. ホームパーティーへの招待 第10回. 贈り物 第11回. パーティーとマナー 第12回. 国際儀礼 第13回. 宗教とマナー (イスラム教) 第14回. 宗教とマナー (ユダヤ教、他) 国 第15回. 国別対応 (アジア諸国、ヨーロッパ諸国、他)						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業時にそのつど、クラス内にて指示します。						
授業方法	講義形式にて行います						
評価基準と評価方法	試験85%、平常点(毎授業時、A5版レポート提出)15%、にて評価						
教科書	教科書に関しては、初回授業時に、クラス内にて指示します						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	国際マナー入門						
担当教員	安藤 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際化社会において、海外の人々と円滑な人間関係を構築するために必要な知識と能力を構築します						
授業の概要	Businessの国際化に伴い、日常のあらゆる場面で海外の人々に接する機会が多くなりました。一言に海外といっても、欧米のみならず、アジア・アフリカ・中東・ラテン系諸国等、さまざまです。国が違えば習慣などもおのずから異なり、それぞれにふさわしい対応が求められます。このコースでは、マナーとは何か、という基本的な考え方から始まり、社会人になる前に最低限身につけておくべき事柄や、海外の国々の文化、価値観の違いなどを学び、状況に応じた適切なコミュニケーションを取るために必要な知識・能力を養って、日本をはじめ、海外のあらゆる人々と良い人間関係が築ける人材の育成を目指します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初対面の人々に、適切な挨拶ができ、よいコミュニケーションがとれる 2. 正しいテーブルマナーと、料理・ワインについての知識を身につける 3. パーティーなどの「社交」について、正しい知識を身につける 4. 国や宗教などが違って、正しい対応ができる 						
授業計画	第1回. Introduction: Mannerとはなにか 第2回. 紹介・挨拶・名刺 第3回. コミュニケーションのマナー 第4回. レディーファースト 第5回. レストランのマナー 第6回. フランス料理の基礎知識 第7回. テーブルマナー 1 第8回. ワインとマナー 第9回. ホームパーティーへの招待 第10回. 贈り物 第11回. パーティーとマナー 第12回. 国際儀礼 第13回. 宗教とマナー (イスラム教) 第14回. 宗教とマナー (ユダヤ教、他) 国 第15回. 国別対応 (アジア諸国、ヨーロッパ諸国、他)						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業時にそのつど、クラス内にて指示します。						
授業方法	講義形式にて行います						
評価基準と評価方法	試験85%、平常点(毎授業時、A5版レポート提出)15%、にて評価						
教科書	教科書に関しては、初回授業時に、クラス内にて指示します						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	コンピューティングA/Computing A						
担当教員	P. Spaelti						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットがわかる。ウェブデザインの基本。						
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってインターネット上の情報にアクセスする方法を学びます。このために、まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム(OS)そしてコンピュータ・ネットワークについて理解を深めることにします。それからCGなどのデジタルメディアを使ったウェブページの作成法、スタイルシートを使った情報の効果的な表示法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れます。授業では基本的概念の理解と実践の両方に重きを置く予定です。						
到達目標	テキストエディタ、グラフィックス・音声・動画ファイルなどを扱うさまざまなソフトウェアに使い慣れる。データのマークアップ、HTML、CSS、そして初歩のウェブプログラミングをマスターする。						
授業計画	第1回： コンピューターの基礎 第2回： ファイルエディターとファイルの種類 第3回： インターネットはなんですか？ 第4回： ブラウザーの種類 第5回： マークアップ言語：HTML/XHTML 第6回： ウェブサイトの計画 第7回： スタイルシート CSS 第8回： イメージの種類 第9回： 画像処理ソフトでイメージの変種 第10回： ユーザインターフェース 第11回： スクリプト 第12回： マルチメディア 第13回： プロジェクト作成 第14回： プロジェクト作成 第15回： プロジェクト作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	クイズで授業で扱った理論的概念のチェックをします。また、授業で扱ったスキルを使って、プロジェクトを完成させる必要があります。授業参加とクイズは評価の30%、プロジェクトは70%です。						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	コンピューティングB/Computing B						
担当教員	P. Spaelti						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使ったデータ分析。						
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってデータを収集し、組み立て、分析する方法を学びます。まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム(OS)、ハードウェアとソフトウェアの違いなどについて理解を深めます。それからデータ入力、いろいろなフォーマットでの保存法や暗号化法、表計算ソフトやデータベースを使ったデータ分析法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れることにします。						
到達目標	データ入力と分析のためにさまざまなツールをマスターすること。XMLなどによるデータのマークアップをマスターすること。						
授業計画	第1回： データベースはなんですか？ 第2回： 表計算ソフトを使う 第3回： データの種類 第4回： グラフを作る 第5回： データ分析法 第6回： データ構造 第7回： マークアップ言語：XML 第8回： データベース言語：MySQL 第9回： データベースの作成 第10回： データベースからデータを取り出す 第11回： セキュリティとプライバシーの問題 第12回： ウェブの接続 第13回： プロジェクト作成 第14回： プロジェクト作成 第15回： プロジェクト作成						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	クイズで授業で扱った理論的概念のチェックをします。また、授業で扱ったスキルを使って、プロジェクトを完成させる必要があります。授業参加とクイズは評価の30%、プロジェクトは70%です。						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	情報処理資格養成講座A						
担当教員	松井 理直						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	就職に役立つビジネス・ソフトの基本操作を身につけると共に、情報処理関係の資格取得の準備を行います。						
授業の概要	概要情報/コンピュータ関係の資格は数百種類あると言われています。その中から、就職やキャリアアップに有用と思われる資格について説明を行います。特に、オフィスソフトとして一般的なマイクロソフト社のWordとExcelの操作を身につけることが目標です。これらはいずれも実社会での要求度の高いソフトウェアであり、レポート作成にも、また就職後の事務作業においても必要とされる能力です。ただし、本講義の受講のみで情報処理資格が取得できるものではないことに十分注意してください。						
到達目標	Word の操作について、一通りのことを身につけること。また、Excel の初歩についても理解しておくこと。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 Wordの機能とリボンの考え方 第3回 「見栄え」中心のレイアウトから「機能」中心のレイアウトへ。 第4回 フォント関係の操作 第5回 文章の構造関係の操作 第6回 図表の操作 第7回 簡単なマクロ関係の操作 第8回 Word のレイアウトの考え方 第9回 ビジネス文書の作成 第10回 Word と Excel の連携 第11回 Excel の基本操作 第12回 相対アドレスと絶対アドレスの考え方 第13回 関数の基本操作 第14回 授業のまとめと到達度確認テスト 第15回 到達度確認テストの解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容について復習しておいてください。 授業後学習：授業の内容を整理しておくと共に、出された課題が終わらなかった場合には、その作業をしてください。						
授業方法	授業で行う操作の講義を行ったあと、各人で実習を行う形式です。						
評価基準と評価方法	授業中の課題 70%、到達度確認テスト 30% 授業中の私語および無断退席は厳重な処罰の対象とし、これらのいずれかについて注意を受けた場合、注意1回につき30点の減点を行います。授業中の私語は、例え授業内容に関するものであっても一切認めません。分からないことがあれば、必ず教員に質問するようにしてください。						
教科書	プリントとデジタルデータを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	情報処理資格養成講座B						
担当教員	松井 理直						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	就職に役立つビジネス・ソフトの基本操作を身につけると共に、情報処理関係の資格取得の準備を行います。						
授業の概要	ビジネスソフトの中で最もよく使用されているデータ処理ソフト・表計算ソフトであるExcelの操作を身につけることが目標です。Excel は実社会で最も要求度の高いソフトウェアであり、このソフトを扱う能力は就職後の事務作業において必要とされるものです。ただし、本講義の受講のみで情報処理資格が取得できるわけではないことに十分注意してください。						
到達目標	Excel の操作方法に習熟する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文字列を扱う関数 (1) 第3回 文字列を扱う関数 (2) 第4回 データのソート 第5回 条件文を使った情報処理 第6回 複雑な条件分岐 第7回 グラフを使いこなす 第8回 グラフデータの変更 第9回 条件付き書式について 第10回 統計計算について 第11回 ピボットテーブルを使いこなす 第12回 ピボットテーブルの演習(2) 第13回 ピボットテーブルの演習(3) 第14回 授業のまとめと到達度確認テスト 第15回 到達度確認テストの解説						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：前回までの授業内容をきちんと復習しておくこと。 授業後学習：授業で学んだことを自分なりに整理すると共に、課題が終わらなかった場合には、次回までに仕上げておくこと。						
授業方法	講義と演習の両形式						
評価基準と評価方法	授業中の課題 70%、到達度確認テスト 30% 授業中の私語および無断退席は厳重な処罰の対象とし、これらのいずれかについて注意を受けた場合、注意1回につき30点の減点を行います。授業中の私語は、例え授業内容に関するものであっても一切認めません。分からないことがあれば、必ず教員に質問するようにしてください。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	情報と倫理A/Computer and Ethics A						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	情報社会を生き抜くために						
授業の概要	<p>インターネットが充実した情報社会で情報を選別し、人に迷惑をかけず、迷惑行為や犯罪から身を守りながらコンピュータやメディアを積極的に使って知的生活に役立てる方法を考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子メールとネット上のエチケット 電子メールはインターネットに関わっていく基本です。ネット上のエチケット、「ネチケット」(netiquette)についての文献を日英語で読み、電子メールのちゃんとした書き方、扱い方、そして電子メールを中心としたネット上のエチケットについて学びます。 ・スパム・メールについて インターネットを使った迷惑行為「スパム・メール」(迷惑メール)についての資料を読み、その手口、対策について考えます。 ・フィッシング (phishing) について スパムと似たものですが、もっと悪質な犯罪行為フィッシングについて、資料を読み、それから身を守る方法について考えます。 						
到達目標	インターネットが充実した情報社会で情報を選別し、人に迷惑をかけず、迷惑行為や犯罪から身を守りながらコンピュータやメディアを積極的に使って知的生活に役立てる						
授業計画	<p>第1週：この授業についての全体的な紹介と注意事項</p> <p>第2週：電子メールとネット上のエチケット ・なぜ「ネチケット」?</p> <p>第3週：電子メールとネット上のエチケット ・メールの仕組みとネチケット</p> <p>第4週：電子メールとネット上のエチケット ・メールのスタイルとネチケット</p> <p>第5週：電子メールとネット上のエチケット ・添付ファイル etc.</p> <p>第6週：日本語のメールに関する問題(1)</p> <p>第7週：日本語のメールに関する問題(2)</p> <p>第8週：ソーシャル・ネットワーキング・サイト(SNS) ・SNSの功罪・子供への影響(1)</p> <p>第9週：スパム・メールについて(1)</p> <p>第10週：スパム・メールについて(2)</p> <p>第11週：スパム・メールについて(3)</p> <p>第12週：インターネットの犯罪・迷惑行為 ・Phishingについて(1)</p> <p>第13週：インターネットの犯罪・迷惑行為 ・Phishingについて(1)</p> <p>第14週：授業のまとめと復習テスト</p> <p>第15週：復習テストの返却とレビュー</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的にコンピュータ、インターネットを使用する。						

授業方法	テキスト（プリント）を読みながら講義とディスカッション。
評価基準と評価方法	授業ごとにクイズ（小テスト）をします。小テストと期末テストを合わせて評価します。
教科書	プリントを使用します。
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	情報と倫理B/Computer and Ethics B						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・情報社会を積極的に生きよう						
授業の概要	<p>インターネット上で提供されている、知的生活に役立つサービスや情報などを紹介し、その活用方法や問題点などについて見ていきます。</p> <p>特に前半では Google に注目し、その歴史、ここが提供しているサービスの内容、企業としてこの会社がどうやってなりたっているのか、などを調べます。</p> <p>次にブログ、ツイッター、ポッドキャストなどインターネット上のメディアについて見ていきます。</p> <p>更に、アメリカ最大のSNS MySpace の実態とその子どもへの影響などについて考えます。</p>						
到達目標	インターネットが充実した情報社会で情報を選別し、人に迷惑をかけず、迷惑行為や犯罪から身を守りながらコンピュータやメディアを積極的に使って知的生活に役立てる						
授業計画	<p>Week 1: 授業の内容、方法、評価方法など</p> <p>Week 2: Google: その歴史、サーチ・エンジンの特徴</p> <p>Week 3: Google: さまざまなサービス、企業としての Google</p> <p>Week 4: Google: Cloud computing</p> <p>Week 5: Google vs. Yahoo!</p> <p>Week 6: ブログについて (1)</p> <p>Week 7: ブログについて (2)</p> <p>Week 8: Twitter</p> <p>Week 9: Podcasting (1)</p> <p>Week 10: Podcasting (2)</p> <p>Week 11: SNS: MySpace (1)</p> <p>Week 12: SNS: MySpace (2)</p> <p>Week 13: SNS MySpace (3)</p> <p>Week 14: 復習と復習テスト</p> <p>Week 15: テスト返却と講評</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的にコンピュータ、インターネットを使用する。						
授業方法	授業ごとにクイズ(小テスト)をします。小テストと期末テストを合わせて評価します。						
評価基準と評価方法	授業ごとにクイズ(小テスト)をします。小テストと期末テストを合わせて評価します。						

教科書	プリントを使います。
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	人工知能A						
担当教員	郡司 隆男						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の知能とは何か、コンピュータとの違いは何かについて考えます						
授業の概要	映画『AI』の主人公のような、人間と区別のつかない人工知能はまだ存在しませんが、最近、コンピュータはますます賢くなってきているように思えます。でも、まだまだ人間とは大きく違うようにも思われます。この授業では、コンピュータが「知的」であるとはどういうことを考えます。その一方で、本当に「知的」なわけではないものの、見かけだけでも「賢く」見せるための基本的なテクニックがあることを知り、それにはどのようなものがあるかを理解するとともに、その限界についても考えます。						
到達目標	コンピュータの知的な振る舞いに関してその実体と限界を理解し、コンピュータのよりよい使い方が考えられるようになることを目的とします。						
授業計画	第1回 概要の説明：映画『A. I.』を見る：人工知能のウソとホント(1) 第2回 映画『A. I.』を見る：人工知能のウソとホント(2) 第3回 人工知能とは何か 第4回 AIにおける知識 (1)：ELIZA 第5回 AIにおける知識 (2)：Dennett の病めるロボット、探索：ハノイの塔 第6回 機械学習：『マッチ箱の脳』から「考えない知能」 第7回 集団行動のシミュレーション：同上から「群の知能」Boid 第8回 エキスパートシステム：同上から「私たちの考え方をまねた AI」 第9回 自然言語理解 (1)：機械翻訳 第10回 自然言語理解 (2)：茶釜のインストール 第11回 自然言語理解 (3)：形態素解析 第12回 自然言語理解 (4)：構文解析 第13回 自然言語理解 (5)：談話理解 第14回 自然言語理解 (6)：機械翻訳結果のまとめ 第15回 前期のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に特に予習は必要としません。 授業後、授業でやったことを踏まえて学期中に数回課題があるので、その際に自分の理解の不十分なところがあったら自分で調べるなどして補っておくこと。						
授業方法	まず、映画『AI』などでとりあげられた、コンピュータ、人工知能、ロボットなどをよく観察し、コンピュータにもできることは何かを考え、推論、探索、学習、言語理解、ゲーム、ロボットなど、人工知能の技法がさまざまな応用領域にどのように適用されるかを見ていきます。						
評価基準と評価方法	授業中に何度か課題を出します。これらをすべて提出することが義務となります。 授業中の課題に平常点を加味して成績をつけます。 前半で出席率が極端に悪い人は、単位を必要としないものと判断することもあるので、無間に欠席しないように注意して下さい。						
教科書	なし。必要な教材は授業中に指示します。						
参考書	『マッチ箱の脳』（森川幸人、新紀元社） Janet Finlay & Alan Dix, An Introduction to Artificial Intelligence, UCL Press, 1996 (J. フィンレー, A. ディックス 著, 『人工知能入門』新田克己・片上大輔 訳 (サイエンス社))						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	人工知能B						
担当教員	郡司 隆男						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の知能とは何か、コンピュータとの違いは何かについて考えます						
授業の概要	映画『Bicentennial Man』に見るような、人間と区別のつかない人工知能はまだ存在しませんが、最近、コンピュータはますます賢くなっているように見えます。でも、まだまだ人間とは大きく違うようにも思われます。後期は、前期の理論を踏まえて、簡単なプログラムで一見知的なふるまいを実現する「人工無脳」プログラムを実際に動かしてみ、人間と機械の差をあらためて実感することにしたと思います。また、人工知能の哲学的・社会的側面についても考えます。						
到達目標	コンピュータが「知的」であるとはどういうことかを考え、見かけだけでも「賢く」見せるための基本的なテクニックにはどのようなものがあるかを理解するとともに、その限界についてもわきまえることができることを目的とします。						
授業計画	第1回 概要; 映画『Bicentennial Man』を見る: ロボットにできること、できないこと (1) 第2回 映画『Bicentennial Man』を見る: ロボットにできること、できないこと (2) 第3回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (1) 第4回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (2) 第5回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (3) 第6回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (4) 第7回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (5) 第8回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (6) 第9回 『恋するプログラム』より「人工無脳」を動かしてみる (7) 第10回 哲学的・社会的問題: 中国語の部屋 (1) 第11回 哲学的・社会的問題: 中国語の部屋 (2) 第12回 コンピュータビジョン (1): Escher の世界、裸眼立体写真 第13回 心のモデル、心の理論 第14回 ロボット: ASIMO, AIBO(実物) 第15回 コネクショニズム、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前に特に予習は必要としません。授業後、授業でやったことを踏まえて学期中に数回課題があるので、その際に自分の理解の不十分なところがあったら自分で調べるなどして補っておくこと。						
授業方法	まず、映画『Bicentennial Man』などでとりあげられた、コンピュータ、人工知能、ロボットなどをよく観察して、コンピュータにもできることは何かを考えます。そして、推論、探索、学習、言語理解、ゲーム、ロボットなど、人工知能の技法がさまざまな応用領域にどのように適用されるかを見ていくとともに、実際に「人工無脳プログラム」にさわってみてその動きを理解していきます。						
評価基準と評価方法	授業中に何度か課題を出します。これらをすべて提出することが義務となります。授業中の課題に平常点を加味して成績をつけます。前半で出席率が極端に悪い人は、単位を必要としないものと判断することもあるので、無間に欠席しないように注意して下さい。						
教科書	なし。必要な教材は授業中に指示します。						
参考書	秋山智俊 著『恋するプログラム Ruby でつくる人工無脳』(毎日コミュニケーションズ), 2005. その他、授業時間中に指示する。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	早期英語教育研究A						
担当教員	吉井 康博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	児童の英語教育研究						
授業の概要	この授業では、早期英語教育の理解に必要な認知心理学の基礎知識とSLA(第二言語習得)理論を学習します。言語を学習するには次のような要因が関与します。つまり個人の言語学習に向かう動機と態度、inputとoutput、相互交流、さらに意識と注意、そして気づきなどです。これらの要因がどのような形で相互に関連しL2(第二言語)学習を促進するかを理論の実例から学習します。また、授業の展開に必要な英語表現や基礎文法を口頭練習により学びます。						
到達目標	児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身に着けます。						
授業計画	English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ 1. Introduction 2. EPT 1.1 First Language -- second language CE 1-1 SCE1-1 3. RQ (CE1-1) EPT 1.2 Starting your lessons in English CE 1-2 SCE1-2 4. RQ (CE1-2) EPT 1.3 Organizing your classroom CE 1-3 SCE1-3 5. RQ (CE1-3) EPT 1.4 Ending your lessons CE 1-4 SCE1-4 6. RQ (CE1-4) EPT 1.5 Young learners CE 1-5 SCE1-5 7. RQ(CE1-5) EPT 2.1 Giving instructions in English CE 1-6 SCE1-6 8. RQ(CE1-6) EPT 2.2. Listening and identifying CE 1-7 SCE1-7 9. RQ(CE1-7) EPT 2.3 Listening and doing - TPR CE 1-8 SCE1-8 10. RQ(CE1-8) EPT 2.4 Listening and performing - miming CE 1-9 SCE1-9 11. RQ(CE1-9) EPT 2.5 Listening and responding games CE 1-10 SCE1-10 12. RQ(CE1-10) EPT 3.1 Listen and color CE 1-11 SCE1-11 13. RQ(CE1-11) EPT 3.2 Listen and draw CE 1-12 SCE1-12 14. RQ(CE1-12) EPT 3.3 Listen and make CE 1-13 SCE1-13 15. Final Quiz						
授業外における学習(準備学習の内容)	(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。 (2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	Review Quiz: 40%; Participation:10%; Final Quiz:50%						
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-3						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目																																																			
科目名	早期英語教育研究B																																																			
担当教員	吉井 康博																																																			
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	児童の英語教育研究																																																			
授業の概要	<p>早期英語教育Aで学習した理論的知識に基づき、実用的な授業展開方法に関する理解を深め、効果的な指導方法について何が必要なかを考察していきます。また、授業案を練ることを課題とし、その課題を実践する模擬授業を行ってまいります。</p> <p>Aと同様、英語の形と表現法を学ぶ過程で、児童に投げかける疑問文を作ることや、様々な表現を組み合わせせて簡単な物語を創作する練習も行います。</p>																																																			
到達目標	児童に英語を教える指導原理の習得と授業を行う際に要求される英語力を身に着けること、また授業が実際に行えるようにすること。																																																			
授業計画	<p>English for Primary Teachers: EPT / Classroom English: CE / Sentence-Creating Exercises: SCE / Review Quiz: RQ</p> <table border="0"> <tr> <td>1. EPT 4.1 Using classroom phrases</td> <td>CE 1-1</td> <td>SCE1-1</td> </tr> <tr> <td>2. RQ (CE1-1) EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs</td> <td>CE 1-2</td> <td>SCE1-2</td> </tr> <tr> <td>3. RQ (CE1-2) EPT 4.3 Practicing new vocabulary</td> <td>CE 1-3</td> <td>SCE1-3</td> </tr> <tr> <td>4. RQ (CE1-3) EPT 4.4 Playing vocabulary games</td> <td>CE 1-4</td> <td>SCE1-4</td> </tr> <tr> <td>5. RQ (CE1-4) EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds</td> <td>CE 1-5</td> <td>SCE1-5</td> </tr> <tr> <td>6. RQ (CE1-5) EPT 5.1 Cognitive development</td> <td>CE 1-6</td> <td>SCE1-6</td> </tr> <tr> <td>7. RQ (CE1-6) EPT 5.2 Starting to speak freely</td> <td>CE 1-7</td> <td>SCE1-7</td> </tr> <tr> <td>8. RQ (CE1-7) EPT 5.3 Speaking games</td> <td>CE 1-8</td> <td>SCE1-8</td> </tr> <tr> <td>9. RQ (CE1-8) EPT 5.4 Children speaking in groups</td> <td>CE 1-9</td> <td>SCE1-9</td> </tr> <tr> <td>10. RQ (CE1-9) EPT 6.1 Beginning reading</td> <td>CE 1-10</td> <td>SCE1-10</td> </tr> <tr> <td>11. RQ (CE1-10) EPT 6.2 Speaking to reading</td> <td>CE 1-11</td> <td>SCE1-11</td> </tr> <tr> <td>12. RQ (CE1-11) EPT 6.3 Helping children recognize phrases</td> <td>CE 1-12</td> <td>SCE1-12</td> </tr> <tr> <td>13. RQ (CE1-12) EPT 6.4 Reading independently</td> <td>CE 1-13</td> <td>SCE1-13</td> </tr> <tr> <td>14. Presentation</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. Final Quiz</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							1. EPT 4.1 Using classroom phrases	CE 1-1	SCE1-1	2. RQ (CE1-1) EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs	CE 1-2	SCE1-2	3. RQ (CE1-2) EPT 4.3 Practicing new vocabulary	CE 1-3	SCE1-3	4. RQ (CE1-3) EPT 4.4 Playing vocabulary games	CE 1-4	SCE1-4	5. RQ (CE1-4) EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds	CE 1-5	SCE1-5	6. RQ (CE1-5) EPT 5.1 Cognitive development	CE 1-6	SCE1-6	7. RQ (CE1-6) EPT 5.2 Starting to speak freely	CE 1-7	SCE1-7	8. RQ (CE1-7) EPT 5.3 Speaking games	CE 1-8	SCE1-8	9. RQ (CE1-8) EPT 5.4 Children speaking in groups	CE 1-9	SCE1-9	10. RQ (CE1-9) EPT 6.1 Beginning reading	CE 1-10	SCE1-10	11. RQ (CE1-10) EPT 6.2 Speaking to reading	CE 1-11	SCE1-11	12. RQ (CE1-11) EPT 6.3 Helping children recognize phrases	CE 1-12	SCE1-12	13. RQ (CE1-12) EPT 6.4 Reading independently	CE 1-13	SCE1-13	14. Presentation			15. Final Quiz		
1. EPT 4.1 Using classroom phrases	CE 1-1	SCE1-1																																																		
2. RQ (CE1-1) EPT 4.2 Saying rhymes and singing songs	CE 1-2	SCE1-2																																																		
3. RQ (CE1-2) EPT 4.3 Practicing new vocabulary	CE 1-3	SCE1-3																																																		
4. RQ (CE1-3) EPT 4.4 Playing vocabulary games	CE 1-4	SCE1-4																																																		
5. RQ (CE1-4) EPT 4.5 Practicing pronunciation of new sounds	CE 1-5	SCE1-5																																																		
6. RQ (CE1-5) EPT 5.1 Cognitive development	CE 1-6	SCE1-6																																																		
7. RQ (CE1-6) EPT 5.2 Starting to speak freely	CE 1-7	SCE1-7																																																		
8. RQ (CE1-7) EPT 5.3 Speaking games	CE 1-8	SCE1-8																																																		
9. RQ (CE1-8) EPT 5.4 Children speaking in groups	CE 1-9	SCE1-9																																																		
10. RQ (CE1-9) EPT 6.1 Beginning reading	CE 1-10	SCE1-10																																																		
11. RQ (CE1-10) EPT 6.2 Speaking to reading	CE 1-11	SCE1-11																																																		
12. RQ (CE1-11) EPT 6.3 Helping children recognize phrases	CE 1-12	SCE1-12																																																		
13. RQ (CE1-12) EPT 6.4 Reading independently	CE 1-13	SCE1-13																																																		
14. Presentation																																																				
15. Final Quiz																																																				
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>(1) 毎回の授業で行うClassroom English(教室英語表現)は、Review Quiz(復習テスト)を行うので必ず口頭でも筆記でも対応できるよう準備が必要です。</p> <p>(2) 教科書(English for Primary Teachers)は予習して、しっかり意味を理解しておく必要があります。</p>																																																			
授業方法	講義と演習																																																			
評価基準と評価方法	Review Quiz: 30%; Presentaion:20%; Final Quiz:50%																																																			
教科書	English for Primary Teachers Mary Slattery&Jane Willis Oxford Univ. Press ISBN 978-0-19-437563-4																																																			
参考書																																																				

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	早期英語教育特論A						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	早期英語の音声表現法と、アルファベットと音声の関係を扱うフォニックスの基本。 早期・中学・高校英語教師を目指す学生、物語りの読み語りを英語でやってみたい学生向きである。						
授業の概要	早期英語教育の音声表現法とフォニックスの基本を習得する実践的科目である。アルファベットと音声の関係を扱うフォニックスを中学校より導入される国際音声記号(IPA)を用いて学ぶ。この方法で単語の発音から物語の読み語りまでを学ぶ。当該科目Aではcatの母音の場合のようにアルファベットの音読みになる母音のアルファベット、語尾に発音しない'e'がついてアルファベットの名称読みになる母音のアルファベットを中心に学ぶ。 発音トレーニングA Bを履修した後か、同時に履修するのも効果的である。 日本語教授法と共通点が多く将来の可能性に幅が出来る履修生達は日本語教授法の履修も薦めている。						
到達目標	早期英語の音声表現法と、アルファベットと音声の関係を扱うフォニックスの基本の習得が目標である。理論に基づいた実践で、英語教育に携わるに耐えうるレベルの習得を目標とする。 Aでは教科書の24ページあたりまでと64ページ、th, rの発音のコツを学ぶ。2つの短い作品も読み語りする力をつけるのも目標である。						
授業計画	1. short vowels long vowels (AE pp. 14-18) (AE pp. 20-21) a mat mate e pet Pete i Tim time o not note u cup cute Story: The Little Family 2. Short Vowels vs. Long Vowels Story: The Little Family 3. Polite Vowels 最初のスペリングの名前で発音されるもの (AE pp. 26-30) Story: The Little Family 4. 3の続きとstory 5. Murmuring Vowels (AE pp. 50-54) 6. 5の続きとStory 7. Vowel Digraphs (AE pp. 38-42) Story 8. Storyの発表I(時間があればVideo撮影) 9. Storyの発表 課題: video 撮影をした場合は自己評価 10. Storyの読みを前進するための工夫 Story 発表II 11. 既習のものの復習 12. 既習のものの復習 前期試験の準備I 13. 既習のものの復習 前期試験の準備II 14. 前期の復習と定期試験 (paperと録音による) 15. 定期試験の検討と整理						
授業外における学習(準備学習の内容)	履修上の注意にあるように、フォニックスの基本の確認テストや絵本の読み語りの発表が平常点として評価されるので、必ず復習をして授業に望むこと。						

授業方法	講義と実践
評価基準と評価方法	1. 平常点30%：日々のパフォーマンス、絵本の読み語り等を録音したテープ提出、ビデオ撮影（時間が許せば）、フォニックスの確認テスト（欠席が評価に影響します） 2. 定期試験70%
教科書	教科書とハンドアウトを使用する。 松香洋子・宮清子 著 『Active Phonics』（松香フォニックス研究所・正進社）
参考書	松井千枝 著 『英語音声学』（朝日出版社） 978-4-255-15193-9 http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	早期英語教育特論B						
担当教員	櫻井 敏子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	早期英語音声表現法の基本の全般と絵本の読み語り						
授業の概要	<p>早期英語教育の音声表現法とフォニックスの基本を習得する実践的科目である。アルファベットと音声の関係を扱うフォニックスを中学より導入される国際音声記号(IPA)を用いて学ぶ。</p> <p>当該科目Bではai, oa, oo, au等母音のアルファベットが連続する場合とer, ar等のように母音のアルファベットとrが連続する場合の規則、母音のアルファベットとwが持つ特有の規則、子音のアルファベットと音声の関係を中心に学ぶ。</p> <p>日本語教授法と共通点が多く将来の可能性に幅が出来ることと履修生達は日本語教授法の履修も薦めている。</p>						
到達目標	早期英語音声表現法の基本全般と、基本を応用した物語の読み語りを英語教育に携われるレベルまで習得することを目標とする。						
授業計画	<p>ダイヤ印の項目を念頭に置きながらシラバスに従って習得します。</p> <p>◇Assimilation (同化現象) : "did you, comfortable, on the desk" 等で起こります。 ◇Liaison: This is an apple. では単語間の音を続けて発音します。最後はnappleとなります。 ◇Aspiration pen, cake, teaのp, t, kではロウソクの炎が消える程の息が出ます。 ◇Alveolars: garden, little, のden, tleでは一度も舌先を歯茎から離さずに、グッと舌先に力を入れて発音します。 ◇Woman, Woods等 / w/ + /u/のコンビネーションはwが一番小さく丸く、uは少し開けて発音します。日本語のウーとは逆の開け方です。</p> <ol style="list-style-type: none"> short vowels, long vowels等の基本の強化をしてレベルアップをめざす。 上記の◇のついてるところを集中特訓I 絵やカードの提示方法研究 Questions and answersによる英語活動の練習 short vowels, long vowels等の基本の強化と上記の◇のついてるところを集中特訓II Questions and answersによる英語活動の練習 基本の強化と◇の集中特訓III Questions and answersによる英語活動; 学習者とのEye contact、指名の仕方、発表者の発言を使って更にcommunicationを続ける練習 母音と子音 (AE p. 10), Game Time (AE p. 12) 上記の◇のついてるところを集中特訓 Blue Fish又は他の物語 Consonant Digraphs (AE pp. 31-36) 上記の◇のついてるところを集中特訓 Blue Fish又は他の物語 Questions and answersによる英語活動 Consonant Digraphsと◇の集中特訓 Blue Fish又は他の物語をQuestions and answersも用いてリハーサル 声による表現、Eye contactの検討 Consonant Digraphsと◇の集中特訓 Blue Fishの発表と可能ならVideo撮影 Consonant Blends (AE pp. 43-48) Blue Fish又は他の物語の整理I (ストレスを受ける品詞) Consonant Blends Blue Fish又は他の物語の整理II (ストレスを受ける品詞) Endings (AE pp. 55-61) Endings (AE pp. 55-61) 他の物語への応用 ◇の集中特訓 Presentationの工夫 絵や本の提示方法、声の表現、Eye contact, 間のとりかた Questions and answersの英語活動も含む 						

授業計画	<p>現場に立つ準備をしています。</p> <p>12. 後期の総合復習により現場に立つ準備と定期試験の準備I</p> <p>13. 後期の総合復習により現場に立つ準備と定期試験の準備II</p> <p>14. 発声準備、既習項目の質疑応答と定期試験(Paperと録音)</p> <p>15. 定期試験の検討と整理 (既習事項の確認をする早期英語教育の基本固めになる時間です。)</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	基本を確立して教育現場に参加することが可能になるよう復習を必ずして授業に臨むこと
授業方法	講義と実践
評価基準と評価方法	<p>1. 平常点50% : 日々のパフォーマンス、絵本の読み語り等を録音したテープ提出、ビデオ撮影 (時間が許せば)、フォニックスの確認テスト (欠席が評価に影響します)</p> <p>2. 定期試験50%</p>
教科書	<p>教科書とハンドアウトを使用する。</p> <p>松香洋子・宮清子 著 『Active Phonics』 (松香フォニックス研究所・正進社)</p>
参考書	<p>松井千枝 著 『英語音声学』 (朝日出版社) 978-4-255-15193-9</p> <p>http://ksw.shoin.ac.jp/~sakurai/phone/frame.html quickTimeがコンピュータにインストールされていない場合は使用のコンピュータの条件にあった quickTimeを無料のサイトからダウンロードしてインストールします。</p>

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	P. J. Mallett						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	Graduation Thesis						
授業の概要	This course is designed to help you write a graduation thesis in English on any aspect of culture or literature, especially one related to Britain. Several weeks will be spent improving writing ability and discussing the study skills necessary for writing a thesis: how to choose the topic; how to use reference books; how to make quotations and give footnotes; academic writing style etc.						
到達目標	You will complete a graduation thesis in English on a subject of your choice.						
授業計画	<p>FIRST SEMESTER</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Introduction 2) Using reference books 3) Library orientation (date to be confirmed) 4) Developing Academic Writing Skills 5) Developing Academic Writing Skills 6) Choosing a topic 7) Developing Academic Writing Skills 8) Individual interviews 9) Choose topic by this date 10) Making an outline 11) Developing Academic Writing Skills 12) Make outline of thesis by this date 13) Developing Academic Writing Skills 14) Developing Academic Writing Skills 15) Preparation for writing introduction and first chapter of thesis <p>SECOND SEMESTER</p> <p>In this semester we will meet on an individual basis to discuss your thesis as you write it.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Meeting to check progress of first chapter of your thesis 2) Individual tuition on thesis 3) Individual tuition on thesis 4) Individual tuition on thesis 5) Individual tuition on thesis 6) Individual tuition on thesis 7) Individual tuition on thesis 8) Individual tuition on thesis 9) Individual tuition on thesis 10) Individual tuition on thesis 11) Individual tuition on thesis 12) Conclusion, footnotes and bibliography 13) Revision 14) Corrections 15) Final revisions 						
授業外における学習(準備学習の内容)	Please come to the first lesson ready to explain the topics you are interested in and why you wish to take this class. In the first semester you will develop writing skills and bring exercises to class to be marked. In the second semester you must write about 4 pages every 2 weeks to be corrected.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Your grade will be based entirely on your completed thesis. There will be a short oral examination on your thesis at the end of January.						
教科書	'Developing Academic Writing Skills' by Robyn Najjar and Lesley Riley (Macmillan Languagehouse) ISBN 4-8985-517-1						

参考書	You will need an English/English Dictionary (e. g. the Oxford Advanced Learner' s Dictionary) besides a Japanese/English dictionary.
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	P. Spaelti						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	Completion of a thesis in English, with a focus on language or a cultural topic						
授業の概要	This course will focus on the skills necessary to write a thesis. These skills include how to write a longer text, how to structure a thesis, and how to research and use supporting material. Other skills will include how to use computer and software tools effectively.						
到達目標	A primary goal is to learn how to state a logical argument, or relevant viewpoint, and how to support this with evidence.						
授業計画	第1回 Introduction and orientation meeting 第2回 Group or individual meetings 第3回 Group or individual meetings 第4回 Group or individual meetings 第5回 Group or individual meetings 第6回 Group or individual meetings 第7回 Group or individual meetings 第8回 Group or individual meetings 第9回 Group or individual meetings 第10回 Group or individual meetings 第11回 Group or individual meetings 第12回 Group or individual meetings 第13回 Group or individual meetings 第14回 Group or individual meetings 第15回 Group or individual meetings 第16回 Group or individual meetings 第17回 Group or individual meetings 第18回 Group or individual meetings 第19回 Group or individual meetings 第20回 Group or individual meetings 第21回 Group or individual meetings 第22回 Group or individual meetings 第23回 Group or individual meetings 第24回 Group or individual meetings 第25回 Group or individual meetings 第26回 Group or individual meetings 第27回 Group or individual meetings 第28回 Group or individual meetings 第29回 Group or individual meetings 第30回 Group or individual meetings						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students are expected to work independently on their project or thesis as required, and to prepare materials for use in group meetings.						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	Successful completion of a thesis						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	C. L. Starling						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	Comparative culture						
授業の概要	Students will be given instruction in writing skills, thesis conventions and study skills; they will also receive guidance in how to choose a topic, how to use reference books, how to quote from reference material, and how to write in an appropriate academic writing style. Thereafter, students will meet individually with the teacher for guidance in writing a thesis of about 25 pages. The thesis will involve comparing cultures or aspects thereof or, with special approval from the teacher, study of one aspect or element of a given culture.						
到達目標	Objectives of this course are 1) to deepen knowledge of cultural comparison; 2) to learn basic conventions of Western research and academic expression; 3) to improve English writing skills						
授業計画	<p>As this is a subject in which the student does research and the teacher acts as a guide, there will be some weeks without any specific content. The program will normally have the following week-by-week plan:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 General writing exercises 2 Background of thesis writing 3 Important points in thesis writing 4 Getting information 5 Bad ways of using information: <ol style="list-style-type: none"> (a) translation software (b) plagiarism (c) patchwork quilting Good ways of using information: <ol style="list-style-type: none"> (a) quotations (b) paraphrases and summaries 6 Making a year's plan of action 7-15 Submission of work in progress, checking by the teacher with advice, when necessary, on the continuation of the thesis. 16-17 Presentation of the first chapter of the thesis. 18-21 Further guidance on each student's thesis. 22 Perusal and evaluation of first 15 pages of each student's thesis. 23-26 Further guidance on each student's thesis. 27 Target week for completion. 28 Guidance on final revisions and submission. 29 Guidance on final revisions and submission. 30 Final overview before submission. 						
授業外における学習(準備学習の内容)	None						
授業方法	Seminar						
評価基準と評価方法	<p>The grade will depend on the following criteria:</p> <ul style="list-style-type: none"> · coherence and density of argumentation and/or explanation · approximate word count (most students write about 3,000 words) · presentation (clear guidelines for this are given in class) · quality of English (the teacher will assist in this to some extent) · degree to which the student has followed teacher guidance in cases where such guidance was required <p>Note that plagiarism (copying others' writing without acknowledgment) will be heavily penalized.</p> <p>There will normally be a short oral examination on the thesis subject after submission, if the thesis is accepted.</p>						

教科書	None. Prints will be supplied in Classes 1-6, and if necessary thereafter.
参考書	None

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	川中 紀子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の執筆						
授業の概要	<p>卒業論文の執筆 「異文化間コミュニケーション」「比較文化」「メディアと文化」に関連した分野について卒業論文を書く学生対象のクラスです。卒論のテーマにつながる興味・関心の方向は3年生の終わりまでに、既にある程度絞られていることが期待されます。この卒業研究の授業は、英語コミュニケーションゼミ・グローバルスタディゼミ（川中担紀子当）と方法論の点で密接に関連しているので、ゼミを履修した上で卒論の授業に出席してもらうと、よりキメ細かな指導ができると思います。</p> <p>暫定的な要旨の決定まで全員に共通の指導をし、その後は必要に応じて個別指導を加えます。卒研の予備登録で川中紀子担当の卒論に決定した人は、必ず、第1回の授業に出席してください。最初のオリエンテーションで重要な説明をしていきます。</p>						
到達目標	<p>各自の選んだトピックについて深い思考力とプレゼンテーション力を身につけること。</p> <p>また、ディスカッション、質疑応答を通じて、コミュニケーション力を向上させることを目標とします。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：トピックの候補について発表 第3回：論文作成のプロセスと計画 第4回：予備調査（図書館） 第5回：予備調査の成果についての発表 第6回：暫定的な要旨の決定 第7回：目次、レジュメの作成 第8回：論旨の発表 第9回：データ収集の方法 第10回：フィールドワークのガイダンス 第11回：中間発表 第12回：英文の論文作法 第13回：英文で一章を書き上げる課題 第14回：課題の提出 第15回：前期の成果のまとめ 第16回：7～9月の調査結果の発表と講評 第17回：参考文献の引用方法 第18回：概要・章立ての最終検討 第19回：フィールド・ワークの発表 第20回：中間発表① 第21回：中間発表② 第22回：中間発表③ 第23回：個別指導① 第24回：個別指導② 第25回：個別指導③ 第26回：卒業論文 第一版 提出 第27回：卒業論文 第一版 講評 第28回：卒業論文 第二版 提出 第29回：卒業論文 第二版 講評と最終チェック 第30回：卒業論文 最終版提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>インタビュー、フィールドワークなどを通じてデータを集めることが必要です。</p> <p>また、多くの文献を講読することが必要です。</p>						
授業方法	演習と個別指導による						
評価基準と評価方法	発表(3割)・論文(7割)の総合評価						

教科書	『卒論を書こうーテーマ探しからスタイルまで』 棚木伸明 (三修社)
参考書	各自の必要に応じて、以下の参考書を購入し論文執筆の際に参照することが望ましい。授業で、参考文献・参考 図書を選び方について説明します。 『英語論文によく使う表現』 崎村耕二 (創元社) 『テキスト心理学：心の理解を求めて 橋本憲尚ほか』 (ミネルヴァ書房) 『英語論文・レポートの書き方』 上村妙子・大井恭子 (研究社)

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	白川 計子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	英米の文学または文化を対象とし、卒業論文を完成する。 特に現代の問題に関心のある人、現代人の視点から深く物事を捉えたいという人を歓迎します。 各自が自分でテーマを決めて、一年かけてじっくり考えて表現するのが卒論です。 すでに研究対象を決めている人はもちろん、まだ何を扱いたいかわかぬ人も歓迎します。						
到達目標	論理的な思考力と客観的な表現力を培い、計画的に執筆して論文を完成させる。						
授業計画	第1回：卒業研究とは何か。心構えと方針。 第2回：研究対象決定までの個別指導 第3回：研究対象個別指導 第4回：研究対象個別指導 第5回：研究対象個別指導 第6回：研究対象個別指導 第7回：研究対象発表会 第8回：研究テーマ決定までの個別指導 第9回：研究テーマ個別指導 第10回：研究テーマ個別指導 第11回：研究テーマ個別指導 第12回：研究テーマ個別指導 第13回：研究テーマ個別指導 第14回：研究テーマ発表会 第15回：夏期研究の指導 第16回：後期研究スケジュールの指導 第17回：個別執筆指導 第18回：個別執筆指導 第19回：個別執筆指導 第20回：個別執筆指導 第21回：中間発表会 第22回：中間発表会 第23回：個別執筆指導 第24回：個別執筆指導 第25回：個別執筆指導 第26回：個別執筆指導 第27回：個別執筆指導 第28回：個別執筆指導 第29回：口頭試問と総括 第30回：口頭試問と総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	論文に必要な資料の収集と読書、執筆。						
授業方法	論文作成指導、ディスカッション						
評価基準と評価方法	論文80%、口頭試問20%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	西垣内 泰介						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究						
授業の概要	<p>英語や日本語に関連するトピックをとりあげ、それについての文献を調べ、その実例をインターネットで検索して集めます。その結果は Word で書くだけではなく、ウェブサイトの形で表現することもできます。</p> <p>これまでに卒業研究で扱ったトピックは次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の単語に関すること ・英語の構文に関すること ・メディアの英語の特徴について ・英語の発音に関すること ・英語の歌に関すること（「そら耳」について調べた人もいます） ・日本社会での英語（Tシャツのロゴを扱った人もいます） <p>などです。</p>						
到達目標	これまでの大学生活の総決算として、卒業研究のトピックを決め、資料を調べ、データを集め、それを論文ないしウェブサイトの形にまとめる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 論文の書き方、Word, html について(1) 3. 論文の書き方、Word, html について(2) 4. 論文の書き方、Word, html について(3) 5. 論文の書き方、Word, html について(4) 6. 論文の書き方、Word, html について(5) 7. 個別にトピックを決める (1) 8. 個別にトピックを決める (2) 9. 個別にトピックを決める (3) 10. 個別にトピックを決める (4) 11. 個別にトピックを決める (5) 12. データの集め方 (1) 13. データの集め方 (2) 14. データの集め方 (3) 15. データの集め方 (4) <p>—夏休み中にデータ検索、収集</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. データの整理 (1) 17. データの整理 (2) 18. データの整理 (3) 19. データの整理 (4) 20—25. 論文、ウェブサイトの作成 26—30. 発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的にコンピュータ、インターネットを使用する。						
授業方法	講義とコンピュータ実習、個別の面談						
評価基準と評価方法	各段階での提出課題						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	山内 啓子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	児童英語の指導者養成と、国際理解のための研究を行います。						
授業の概要	児童英語教育/国際理解教育 ●国際理解教育を多角的に研究します。 ●その指導者になることを目指し、多角的な視野を養いながら研究を進めます。 ●実習を課し、職業訓練も併せて行います これらを総合的にまとめ上げて、卒論に仕上げます。						
到達目標	小学校の英語活動を熟知する。 卒業論文作成を通して、学術論文の書き方を習得する。						
授業計画	前期は種々の参考文献や参考書を読み込む授業を行い、後期からは実習及び卒論作成に合わせて個別指導を行います。 「前期」 1. 参考文献講読 2. 参考文献講読 3. 参考文献講読 4. 参考文献講読 (自主研究発表) 5. 参考文献講読 (自主研究発表) 6. 参考文献講読 (確認テスト) 7. 参考文献講読 (自主研究発表) 8. 参考文献講読 (自主研究発表) 9. 参考文献講読 (自主研究発表) 10. 参考文献講読 (自主研究発表) 11. 参考文献講読 (確認テスト) 12. 参考文献講読 (卒論テーマ仮決定) 13. 参考文献講読 (卒論テーマ仮決定) 14. 卒論中間発表 15. 卒論中間発表 「後期」 16. 復習テスト 17. 卒論指導 (論文の書き方) 18. 卒論指導 (参考文献の検索) 19. 卒論指導 (引用文献と著作権に関して) 20. 卒論指導 (英文サマリーの書き方) 21. 卒論指導 (発表) 22. 卒論指導 (発表) 23. 卒論指導 (発表) 24. 卒論提出 25. 卒論推敲 26. 卒論推敲 27. 英文サマリー推敲 28. 英文サマリー推敲 29. 試問準備 30. 卒論発表準備						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：参考文献を予習しておく。 授業後学習：授業中の学びを整理し、ノートにまとめる。論文作成段階では、課題を準備し、授業後は推敲を行う。						
授業方法	ゼミ形式・個人指導 特に後期には授業外でも予約制で個別指導を随時行います。						

評価基準と 評価方法	100% 卒業論文の成果を評価します。
教科書	
参考書	青木保『異文化理解』（岩波新書）ISBN4-00-430740-6 江利川春雄『日本人は英語をどう学んできたか』（研究社）ISBN978-4-327-41068-1 その他多数、ゼミ中に教示します。

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	通訳法研究A						
担当教員	清水 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	逐次通訳入門						
授業の概要	<p>逐次通訳入門と同時通訳の基礎訓練</p> <p>通訳とはどのような作業を行なうのか、逐次通訳と同時通訳の違いは何か、等の理解を深めながら、通訳を行なう際に求められる要素を紹介します。</p> <p>授業では通訳養成のトレーニングを行なうことにより、効果的な英語学習を実践し、英語力の向上を目指します。</p> <p>授業ではテープを用いて、スピーチの訳出、英文原稿のサマリー、Q&A、数字の聞き取りニュースの英語、観光通訳、インタビューの英語などに取り組みます。</p> <p>学期末には各自スピーチを作成して、スピーチ通訳パフォーマンスを行ないます。</p>						
到達目標	リスニング力を伸ばし、英語スピーチの作成、簡単な内容の逐次通訳が出来るようになります。英語・日本語による口頭発表が臆せず出来るようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ラギング、シャドウイング、サイトトランスレイションなどの通訳トレーニングの説明と実践 テキスト Unit 1 2 Unit 1 通訳トレーニング開始 3 Unit 2 数字の練習 4 Unit 2 美しく読む 発音矯正 スピードを上げる 5 Unit 3 美しく読む 発音矯正 スピードを上げる 6 Unit 4 速訳練習 7 Unit 5 簡単な挨拶 8 Unit 6 ニュースの英語 9 Unit 7 パラフレイズ練習 10 同時通訳にチャレンジ 11 スピーチ通訳パフォーマンス 12 スピーチ通訳パフォーマンス 13 スピーチ通訳パフォーマンス 14 スピーチ通訳パフォーマンス 15 まとめと試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回ディクテーションの宿題提出が有ります。学期末に行う通訳スピーチプレゼンテーションの準備は指示に従って、主に授業外で行います。						
授業方法	テキストを用いての通訳トレーニングと配布プリントを用いての実践トレーニング。CALL教室にて、ヘッドセットをもちいて行ないます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業でのトレーニング 平常点(20%) 宿題提出物(20%) 学期末試験(30%) 通訳パフォーマンス(30%)による総合評価です。						

教科書	改訂四版 通訳トレーニングコース 水野真木子 鍵村和子 共著 大阪教育図書 ISBN4-271-11300-X
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	通訳法研究A						
担当教員	山内 啓子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	1) 英語の運用力向上 2) 日本語/英語の「ことば」に対する理解を深め、感性を高める						
授業の概要	二者間で情報が正しく伝達されるための、手段としての通訳法に対する理解を深めます。双方に情報を正確に伝達するための要素として通訳養成トレーニングの技法を学び、それを活用して英語運用能力の向上を目指します。シャドウイング、リピーティング、暗唱、反復練習などを通して効果的な英語の学習法の実践・習得に努めます。また、世間に広く目を向け、異文化を理解する態度を養うことが大切であり、そのためにニュースやスピーチなども教材に取り入れることで、知識・教養を深めます。この授業では暗誦と反復練習を通して語彙の増加を中心に、知識・教養を深めます。また英語の運用能力の向上のためにペアワーク、グループワークを課して使える技能を磨きます。						
到達目標	通訳トレーニングの技法を知り、その練習を繰り返すことで日→英→日の言語往來の能力を高めます。						
授業計画	<p>(毎回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間TOEIC準拠のリスニングテスト ・5分間TOEICテストの解説 ・5分間テキスト準拠の発話テスト <p>前期はテキスト1-8, およびwebsiteを活用します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Overall introduction 2. About Interpretation skills 3. lesson 1: shadowing 4. lesson 2: shadowing 5. lesson 3: shadowing + repeating 6. Students presentation on 'repeating' based on website material 7. lesson 4: shadowing + repeating + note taking 8. lesson 5: shadowing + repeating + note taking 9. lesson 6: shadowing + repeating + note taking 10. Students presentation with 'notes' based on website material 11. Website material: repeating + interpretation 12. lesson 7: repeating + interpretation 13. lesson 8: repeating + interpretation 14. Website material: repeating + interpretation 15. Review test 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前: テキストを5回音読。comprehension checkもチェックしておく。 授業後: 授業中に学んだ通訳の技法を繰り返し練習する。 課題として出されたウェブサイトを何度も聞く。						
授業方法	shadowing, repeatingなどの技法練習と、逐次訳練習						
評価基準と評価方法	授業への積極参加、テスト、発表等の累積評価を行います。 発表累計40%, テスト30%, 授業積極参加30%						
教科書	"To The Future: Topics in Health & Environment": 安浪誠祐/ Richard S. Lavin (松柏社) ISBN978-4-88198-676-9						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	通訳法研究B						
担当教員	清水 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	逐次通訳入門と同時通訳の基礎訓練						
授業の概要	<p>逐次通訳入門と同時通訳の基礎訓練</p> <p>通訳とはどのような作業を行うのか、逐次通訳と同時通訳の違いは何か、などの理解を深めながら、通訳を行う際に求められる要素を紹介し、授業では実際に通訳者養成のトレーニングを用いて、効果的な英語学習方法を紹介し、実践します。</p> <p>授業は主としてテープを用いて英語のスピーチを日本語に訳出します。英語の運用能力を高めるために、英文記事のサマリー、Q&A、同時通訳的発想による速読法、速訳などの練習も行ないます。各自スピーチを作成してペアを組んだ通訳担当者とのパフォーマンスも行います。</p> <p>前期では入門編とテキスト前半を終えておりますので、後期ではそれを発展させて、フォーマルスピーチにもチャレンジします。</p> <p>前期後期合わせてカリキュラムを構成していますので、前期を履修していることが望ましいですが、後期から初めて履修する人のために簡単な説明と復習を行なってから授業を始めます。</p>						
到達目標	リスニング力を伸ばし、ビジネススピーチの作成、フォーマル表現を習得し活用できるようになります。人前における英語・日本語の口頭発表が臆せず出来るようになります。						
授業計画	<p>1 Unit 8 & 英日ビジネススピーチ</p> <p>2 Unit 8 & 日英ビジネススピーチ</p> <p>3 Unit 9 & フォーマル表現</p> <p>4 Unit 9 & フォーマル表現</p> <p>5 Unit 10 & 司会者の挨拶</p> <p>6 Unit 10 & ゲストの挨拶</p> <p>7 Unit 11 & ニュースの英語</p> <p>8 Unit 12 & 大統領の英語</p> <p>9 Unit 13 & 大統領の英語</p> <p>10 Unit 14 & 同時通訳にチャレンジ</p> <p>11 スピーチ通訳プレゼンテーション</p> <p>12 スピーチ通訳プレゼンテーション</p> <p>13 スピーチ通訳プレゼンテーション</p> <p>14 スピーチ通訳プレゼンテーション</p> <p>15 まとめと筆記試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回ディクテーションの宿題提出が有ります。学期末に行うスピーチ通訳プレゼンテーションの準備は、指示に従って主に授業外で行います。						
授業方法	テキストを用いての授業と配布プリントを用いてのトレーニングを合わせて行ないます。CALL教室にてヘッドセットを使用してトレーニングをします。各学期末にスピーチ通訳パフォーマンスを行ないます。						
評価基準と評価方法	平常点20% 提出物20% スピーチ通訳プレゼンテーション30% 期末試験30%						

教科書	テキストとプリントを使用 改訂四版 通訳トレーニングコース 著 水野真木子・鍵村和子 (大阪教育図書) ISBN4-271-11300-X
参考書	

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	通訳法研究B						
担当教員	山内 啓子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	1) 英語の運用力向上 2) 日本語/英語の「ことば」に対する理解を深め、感性を高める						
授業の概要	前期に引き続き双方に情報を正確に伝達するための手段として通訳養成トレーニングの技法を学び、それを活用して英語運用能力の向上を目指します。シャドウイング、リピートイング、暗唱、反復練習などを通して効果的な英語の学習法の実践・習得に努めます。 また前期に引き続き継続的にニュースやスピーチなども教材に取り入れることで、知識・教養を深めます。 また英語の運用能力の向上のためにペアワーク、グループワークを課して使える技能を磨きます。						
到達目標	通訳トレーニングの技法を知り、その練習を繰り返すことで日→英→日の言語往来の能力を高めます。						
授業計画	<p>(毎回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分間TOEIC準拠のリスニングテスト ・5分間TOEICテストの解説 <p>後期はテキスト9-15, およびwebsiteを活用します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Overall revision 2. lesson 9: shadowing + repeating 3. lesson 10: shadowing + repeating 4. lesson 11: shadowing + repeating 5. Students presentation on 'repeating' 6. lesson 12: shadowing + repeating + note taking 7. lesson 13: shadowing + repeating + note taking 8. Students presentation with 'notes' based on website material 9. lesson 14: repeating + interpretation 10. lesson 15: repeating + interpretation 11. Students presentation on interpretation 12. Website material: repeating + interpretation 13. Students presentation on the website material 14. Overall revision 15. Final exam 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前: テキストを5回音読。comprehension checkもチェックしておく。 授業後: 授業中に学んだ通訳の技法を繰り返し練習する。 課題として出されたウェブサイトを何度も聞く。						
授業方法	shadowing, repeatingなどの技法練習と、逐次訳練習						
評価基準と評価方法	授業への積極参加、テスト、発表等の累積評価を行います。 発表累計40%, テスト30%, 授業積極参加30%						
教科書	"To The Future: Topics in Health & Environment": 安浪誠祐/ Richard S. Lavin (松柏社) ISBN978-4-88198-676-9						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークA						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語を英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書の仕事 2. 就職面接の心得、環境整備 3. 話し方と言葉づかい、日本語と英語の敬意表現 4. 服装、邦文・英文履歴書作成 5. 指示と報告(1) 6. 指示と報告(2) 7. 接遇の要件、異文化コミュニケーション 8. 接遇ケーススタディ(1) 9. 接遇ケーススタディ(2) 10. 電話対応の要件 11. 電話対応ケーススタディ 12. 国際電話 13. スケジュール管理 14. 出張業務、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 ー実習マニュアルー』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークA						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語を英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書の仕事 2. 就職面接の心得、環境整備 3. 話し方と言葉づかい、日本語と英語の敬意表現 4. 服装、邦文・英文履歴書作成 5. 指示と報告(1) 6. 指示と報告(2) 7. 接遇の要件、異文化コミュニケーション 8. 接遇ケーススタディ(1) 9. 接遇ケーススタディ(2) 10. 電話対応の要件 11. 電話対応ケーススタディ 12. 国際電話 13. スケジュール管理 14. 出張業務、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 ー実習マニュアルー』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークA						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語を英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書の仕事 2. 就職面接の心得、環境整備 3. 話し方と言葉づかい、日本語と英語の敬意表現 4. 服装、邦文・英文履歴書作成 5. 指示と報告(1) 6. 指示と報告(2) 7. 接遇の要件、異文化コミュニケーション 8. 接遇ケーススタディ(1) 9. 接遇ケーススタディ(2) 10. 電話対応の要件 11. 電話対応ケーススタディ 12. 国際電話 13. スケジュール管理 14. 出張業務、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 ー実習マニュアルー』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークB						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語と英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会議と会合 3. 法的業務 4. 会計業務、通信業務 5. 慶弔業務の要件 6. 慶弔業務ケーススタディ 7. 文書実務の要件(1) 8. 文書実務ケーススタディ(1) 9. 文書実務の要件(2) 10. 文書実務ケーススタディ(2) 11. ポートフォリオ準備、目次作成 12. ファイリング(1) 13. ファイリング(2) 14. イン・バスケット、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 一実習マニュアル』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークB						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語と英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会議と会合 3. 法的業務 4. 会計業務、通信業務 5. 慶弔業務の要件 6. 慶弔業務ケーススタディ 7. 文書実務の要件(1) 8. 文書実務ケーススタディ(1) 9. 文書実務の要件(2) 10. 文書実務ケーススタディ(2) 11. ポートフォリオ準備、目次作成 12. ファイリング(1) 13. ファイリング(2) 14. イン・バスケット、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 一実習マニュアル』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	バイリンガルオフィスワークB						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	国際ビジネスの研究						
授業の概要	ビジネス実務を学ぶ。 空港、ホテル、銀行、商社などさまざまな国際的シーンで活躍する秘書やオフィスワーカーに求められる基本的な業務や技能を学び、それらの業務を日英2ヶ国語で実践できるようにロールプレイ等を活用し、演習を行う。						
到達目標	グローバルな企業での業務に必要な知識とスキルが身につく。 日本語と英語で基本的な業務ができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会議と会合 3. 法的業務 4. 会計業務、通信業務 5. 慶弔業務の要件 6. 慶弔業務ケーススタディ 7. 文書実務の要件(1) 8. 文書実務ケーススタディ(1) 9. 文書実務の要件(2) 10. 文書実務ケーススタディ(2) 11. ポートフォリオ準備、目次作成 12. ファイリング(1) 13. ファイリング(2) 14. イン・バスケット、まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	期末試験(50%)、平常点(50%)の総合評価						
教科書	田中篤子編 著 『全訂新版 秘書実務 一実習マニュアル』 (嵯峨野書院) ISBN 978-4-7823-0353-5						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングA/Public speaking A						
担当教員	D. Chatham						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Conversational English and Public Speaking						
授業の概要	This course is intended to develop students' oral communication skills from a "daily conversation" level to an intermediate level of ability.						
到達目標	Class activities will help students use English appropriately to share personal information and experiences, formulate and express opinions, and initiate and maintain exchanges. Public speaking practice will focus on the making of poster presentations.						
授業計画	1 Fashion Trends part 1 2 Fashion Trends part 2 3 Fashion Trends part 3 4 Fashion Trends part 4 5 Presentations 6 How Can Colours Be Useful part 1 7 How Can Colours Be Useful part 2 8 How Can Colours Be Useful part 3 9 How Can Colours Be Useful part 4 10 Presentations 11 Why Are Good Manners Important? part 1 12 Why Are Good Manners Important? part 2 13 Why Are Good Manners Important? part 3 14 Why Are Good Manners Important? part 4 15 Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students will need to prepare presentations and do assigned homework outside of class time.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be graded on their performance in presentations, discussions and written tests. There will be a written test at the end of each section covered in class. Presentations/discussions: 45% Written tests: 45% Participation and attendance: 10%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking 2 Margaret Brooks Oxford University Press ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングA/Public speaking A						
担当教員	E. Dean						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Advanced Speaking A Public Speaking A						
授業の概要	This course is intended to develop students' oral communication skills from a "daily conversation" level to an intermediate level of ability.						
到達目標	Class activities will help students use English appropriately to share personal information and experiences, formulate and express opinions, and initiate and maintain exchanges. Public speaking practice will focus on the making of poster presentations.						
授業計画	1 Why do people follow fashion trends? part 1 2 Why do people follow fashion trends? part 2 3 Why do people follow fashion trends? part 3 4 Why do people follow fashion trends? part 4 5 Presentations 6 How Can Colours Be Useful part 1 7 How Can Colours Be Useful part 2 8 How Can Colours Be Useful part 3 9 How Can Colours Be Useful part 4 10 Presentations 11 Why Are Good Manners Important? part 1 12 Why Are Good Manners Important? part 2 13 Why Are Good Manners Important? part 3 14 Why Are Good Manners Important? part 4 15 Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Online practice and project/presentation preparation						
授業方法	Lecture focusing on listening and speaking skills, including pair and group work and online practice						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, assignments, projects and presentations Class participation: 40 % Assignments: 20% Projects and presentations: 40%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking Book 2 By Margaret Brooks Published by: Oxford University Press Student book Pack ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングA/Public speaking A						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Advanced Speaking A Public Speaking A						
授業の概要	This course is intended to develop students' oral communication skills from a "daily conversation" level to an intermediate level of ability.						
到達目標	Class activities will help students use English appropriately to share personal information and experiences, formulate and express opinions, and initiate and maintain exchanges. Public speaking practice will focus on the making of poster presentations.						
授業計画	1Why do people follow fashion trends? part 1 2Why do people follow fashion trends? part 2 3Why do people follow fashion trends? part 3 4Why do people follow fashion trends? part 4 5Presentations 6How Can Colours Be Useful part 1 7How Can Colours Be Useful part 2 8How Can Colours Be Useful part 3 9How Can Colours Be Useful part 4 10Presentations 11Why Are Good Manners Important? part 1 12Why Are Good Manners Important? part 2 13Why Are Good Manners Important? part 3 14Why Are Good Manners Important? part 4 15Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Online practice and project/presentation preparation						
授業方法	Lecture focusing on listening and speaking skills, including pair and group work and online practice						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, assignments, projects and presentations Class participation: 40 % Assignments: 20% Projects and presentations: 40%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking Book 2 By Margaret Brooks Published by: Oxford University Press Student book Pack ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングB/Public speaking B						
担当教員	D. Chatham						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Conversational English and Public Speaking						
授業の概要	This course is intended to develop students' ability to discuss more serious issues as well as practice speech making.						
到達目標	Class activities will oblige students to listen carefully to others, evaluate different sides of an issue, and make constructive contributions in accurate, well-pronounced English. Public speaking practice will focus on the making of formal prepared speeches.						
授業計画	1 What Does It Mean To Be Part Of A Family part 1 2 What Does It Mean To Be Part Of A Family part 2 3 What Does It Mean To Be Part Of A Family part 3 4 What Does It Mean To Be Part Of A Family part 4 5 Presentations 6 What Happens To Our Trash? part 1 7 What Happens To Our Trash? part 2 8 What Happens To Our Trash? part 3 9 What Happens To Our Trash? part 4 10 Presentations 11 How Important Is Cleanliness? part 1 12 How Important Is Cleanliness? part 2 13 How Important Is Cleanliness? part 3 14 How Important Is Cleanliness? part 4 15 Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Students will need to prepare presentations and do assigned homework outside of class time.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	Students will be graded on their performance in presentations, discussions and written tests. There will be a written test at the end of each section covered in class. Presentations/discussions: 45% 45% Written tests: 45% Participation and attendance: 10%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking 2 Margaret Brooks Oxford University Press ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングB/Public speaking B						
担当教員	E. Dean						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Conversational English and Public Speaking						
授業の概要	This course is intended to develop students' ability to discuss more serious issues as well as practice speech making.						
到達目標	Class activities will oblige students to listen carefully to others, evaluate different sides of an issue, and make constructive contributions in accurate, well-pronounced English. Public speaking practice will focus on the making of formal prepared speeches.						
授業計画	1 Why pay for something you can do yourself? part 1 2 Why pay for something you can do yourself? part 2 3 Why pay for something you can do yourself? part 3 4 Why pay for something you can do yourself? part 4 5 Presentations 6 What Happens To Our Trash? part 1 7 What Happens To Our Trash? part 2 8 What Happens To Our Trash? part 3 9 What Happens To Our Trash? part 4 10 Presentations 11 How Important Is Cleanliness? part 1 12 How Important Is Cleanliness? part 2 13 How Important Is Cleanliness? part 3 14 How Important Is Cleanliness? part 4 15 Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Online practice and project/presentation preparation						
授業方法	Lecture focusing on listening and speaking skills, including pair and group work and online practice						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, assignments, projects and presentations Class participation: 40 % Assignments: 20% Projects and presentations: 40%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking Book 2 By Margaret Brooks Published by: Oxford University Press Student book Pack ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	パブリックスピーキングB/Public speaking B						
担当教員	R. Saint-Pierre						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	Conversational English and Public Speaking						
授業の概要	This course is intended to develop students' ability to discuss more serious issues as well as practice speech making.						
到達目標	Class activities will oblige students to listen carefully to others, evaluate different sides of an issue, and make constructive contributions in accurate, well-pronounced English. Public speaking practice will focus on the making of formal prepared speeches.						
授業計画	1Why pay for something you can do yourself? part 1 2Why pay for something you can do yourself? part 2 3Why pay for something you can do yourself? part 3 4Why pay for something you can do yourself? part 4 5Presentations 6What Happens To Our Trash? part 1 7What Happens To Our Trash? part 2 8What Happens To Our Trash? part 3 9What Happens To Our Trash? part 4 10Presentations 11How Important Is Cleanliness? part 1 12How Important Is Cleanliness? part 2 13How Important Is Cleanliness? part 3 14How Important Is Cleanliness? part 4 15Presentations						
授業外における学習(準備学習の内容)	Online practice and project/presentation preparation.						
授業方法	Lecture focusing on listening and speaking skills, including pair and group work and online practice						
評価基準と評価方法	Grades will be based on class participation, assignments, projects and presentations Class participation: 40 % Assignments: 20% Projects and presentations: 40%						
教科書	Q: Skills for Success Listening and Speaking Book 2 By Margaret Brooks Published by: Oxford University Press Student book Pack ISBN: 978-0-19-475611-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	比較文化論A／Study of Comparative Culture A						
担当教員	C. L. Starling						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	Comparative culture (primarily comparing Western and East Asian culture)						
授業の概要	授業の到達目標及びテーマ到達目標：二つの要素があります。一つは学生を比較文化の概念に慣れさせることです。二つ目は西洋の考え方やふるまいを西洋の文化的歴史の鍵となる側面の学習を通してもっと解りやすくすることです。テーマ：西洋と東アジア（特に日本）の文化：原点の違いと現在の違い。授業の概要比較文化論 A では、文化的差異を理解するためには、（誰の目にも明らかな現象である）文化の表層的な差異だけでなく、その背景となる仮定、動機、価値観なども吟味する必要があるという考え方を紹介する。次に西洋の文化的背景を詳しく調べる。						
到達目標	To develop students' awareness of comparative culture as a discipline. To develop students' knowledge of the Western cultural background and its differences from the background of East Asian cultures. To develop students' listening skill (in particular) and reading and writing skills.						
授業計画	第1回：Course Introduction 第2回：Culture and comparative culture 第3回：Food 第4回：Rhetoric 第5回：Reasoning 第6回：Center and periphery 第7回：Socrates, Plato, Aristotle 第8回：The Voice of conscience 第9回：Freedom and equality 第10回：Women's rights 第11回：Game for key word review of Classes 2-10 第12回：Review (Part One) concerning material of Classes 2-6 第13回：Review (Part Two) concerning material of Classes 7-10 第14回：Summary of main points and examination preparation 第15回：Revision and examination						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students generally need to acquire A or high B level English 1 listening skills before studying in this class. Students of C level should work on their listening skills and take this class in a later year.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	授業中の学習評価を50%、学期試験評価を50%とする。						
教科書	None. Prints are used.						
参考書	Hinds & Iwasaki. (1995). An Introduction To Intercultural Communication. Tokyo: Nan' un-do.						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	比較文化論B／Study of Comparative Culture B						
担当教員	C. L. Starling						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	Comparative culture (primarily comparing Western and East Asian culture)						
授業の概要	授業の到達目標及びテーマ到達目標：二つの要素があります。一つは東アジア（特に日本人）の考え方や行動を東アジアの鍵となる側面の学習を通して、学生にもっと解りやすくすることです。二つ目は東アジアと西洋の考え方、態度やふるまいを比較対照させることです。テーマ：西洋と東アジア（特に日本）の文化：原点の違いと現在の違い。授業の概要比較文化論 B では、東アジアの文化的背景を詳しく調べ、西洋文化と比較・対照させた上で、今日のそれぞれの社会での日常生活に関連付けて考える。最後に、文化ショックが起こる典型的な原因およびグローバル化が文化にとって意味するものに注目する。						
到達目標	To develop students' awareness of comparative culture as a discipline. To develop students' knowledge of the Western cultural background and its differences from the background of East Asian cultures. To develop students' listening skill (in particular) and reading and writing skills.						
授業計画	第1回：Confucianism 第2回：Wabi-sabi 第3回：Amae 第4回：Communication style 第5回：Marriage 第6回：University life 第7回：Foreigners' surprises in Japan 第8回：Surprises of Japanese abroad 第9回：Game for review 第10回：Perception 第11回：From local to global 第12回：Review (Part One) concerning material of Classes 1-4 第13回：Review (Part Two) concerning material of Classes 5-11 第14回：Summary of main points and examination preparation 第15回：Revision and examination						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students generally need to acquire A or high B level English 1 listening skills before studying in this class. Students of C level should work on their listening skills and take this class in a later year.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	授業中の学習評価を50%、学期試験評価を50%とする。						
教科書	None. Prints are used.						
参考書	Doi Takeo. (2002). The Anatomy of Dependence. Tokyo: Kodansha. Nisbett, Richard E. (2003). The Geography of Thought. London: Nicholas Brealey Publishing.						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語A						
担当教員	岡部 浩子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として活躍できる能力を習得する。						
授業の概要	グローバル社会におけるバイリンガル・セクレタリが企業内で果たしている役割を考察し、その業務遂行に必要な基礎知識と必要な英語を学習する。秘書が携わる業務、主に来客受付・応答、電話対応・取次ぎ、メッセージの取り方、文書の書き方などについて演習を交えながら学習する。						
到達目標	バイリンガル・セクレタリとして必要な基礎知識を身につけることができます。ビジネスで使える単語、表現、マナーなど、通常の英会話とのちがいなども理解できるようになります。						
授業計画	第1回 Introduction to the course and Unit 1: part 1 Greeting & Introducing Yourself 第2回 Unit 1: part 1 Greeting & Introducing Yourself and part 2 Basics of Letter & E-mail 第3回 Unit 1 review quiz and Unit 2: part 1 Offering Drinks 第4回 Unit 2: part 1 Offering Drinks and part 2 Expressing Gratitude 第5回 Unit 2 review quiz and Unit 3: part 1 Attempting Small Talk 第6回 Unit 3: part 1 Attempting Small Talk and part 2 Expressing Congratulations 第7回 Unit 3 review quiz and Unit 4: part 1 Asking for Repetition or Explanation 第8回 Unit 4: part 1 Asking for Repetition or Explanation and part 2 Making Invitations 第9回 Unit 4 review quiz and Unit 5: part 1 Transferring Telephone Calls 第10回 Unit 5: part 1 Transferring Telephone Calls and part 2 Greeting Giving Notices 第11回 Unit 5 review quiz and Unit 6: part 1 Talking and Relaying Messages 第12回 Unit 6: part 1 Talking and Relaying Messages and part 2 Sending Cards 第13回 Unit 6 review quiz and TOEIC exercise 第14回 TOEIC or related exercise 第15回 Review and term exam						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当する箇所の内容を理解し、単語の意味を調べておいてください。 授業後学習：学習したことを復習し、英語と日本語双方向に文が作れるようにしてください。また、音読練習も並行して行ってください。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）、課題（10%）、試験（小テスト20%・期末テスト30%） 欠席した場合、review quizを受けなかった場合はかなり減点となります。						
教科書	Working with English, Atsuko Ogawa and Kayoko Otani, Macmillan Language House ISBN: 9784895854634						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語A						
担当教員	岡部 浩子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として活躍できる能力を習得する。						
授業の概要	グローバル社会におけるバイリンガル・セクレタリが企業内で果たしている役割を考察し、その業務遂行に必要な基礎知識と必要な英語を学習する。秘書が携わる業務、主に来客受付・応答、電話対応・取次ぎ、メッセージの取り方、文書の書き方などについて演習を交えながら学習する。						
到達目標	バイリンガル・セクレタリとして必要な基礎知識を身につけることができます。ビジネスで使える単語、表現、マナーなど、通常の英会話とのちがいなども理解できるようになります。						
授業計画	第1回 Introduction to the course and Unit 1: part 1 Greeting & Introducing Yourself 第2回 Unit 1: part 1 Greeting & Introducing Yourself and part 2 Basics of Letter & E-mail 第3回 Unit 1 review quiz and Unit 2: part 1 Offering Drinks 第4回 Unit 2: part 1 Offering Drinks and part 2 Expressing Gratitude 第5回 Unit 2 review quiz and Unit 3: part 1 Attempting Small Talk 第6回 Unit 3: part 1 Attempting Small Talk and part 2 Expressing Congratulations 第7回 Unit 3 review quiz and Unit 4: part 1 Asking for Repetition or Explanation 第8回 Unit 4: part 1 Asking for Repetition or Explanation and part 2 Making Invitations 第9回 Unit 4 review quiz and Unit 5: part 1 Transferring Telephone Calls 第10回 Unit 5: part 1 Transferring Telephone Calls and part 2 Greeting Giving Notices 第11回 Unit 5 review quiz and Unit 6: part 1 Talking and Relaying Messages 第12回 Unit 6: part 1 Talking and Relaying Messages and part 2 Sending Cards 第13回 Unit 6 review quiz and TOEIC exercise 第14回 TOEIC or related exercise 第15回 Review and term exam						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当する箇所の内容を理解し、単語の意味を調べておいてください。 授業後学習：学習したことを復習し、英語と日本語双方向に文が作れるようにしてください。また、音読練習も並行して行ってください。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）、課題（10%）、試験（小テスト20%・期末テスト30%） 欠席した場合、review quizを受けなかった場合はかなり減点となります。						
教科書	Working with English, Atsuko Ogawa and Kayoko Otani, Macmillan Language House ISBN: 9784895854634						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語A						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	秘書に求められる英語力を習得する。						
授業の概要	ビジネスの場面で使用する英語を読解しながら、秘書として必要な英語表現、語彙などを理解し、国際社会に通用する英語力の養成を目指す。あわせて、グローバル社会において秘書が企業内で果たしている役割を考察し、その業務遂行に必要な基礎知識と必要な英語を学習する。秘書が携わる業務、主に、来客受付、応対、レジユメの書き方などについて、演習を交えながら学習する。						
到達目標	この授業を受けることで、秘書の実務に必要なジャンルの英語の語彙や表現を習得し、英語読解力を身につけることができ、加えてTOEIC試験などのスコア・アップにも役立つことになる。						
授業計画	第01回 インTRODクシヨN 第02回 基礎読解演習(01) テーマ: 天気・気象 第03回 基礎読解演習(02) テーマ: 求人広告(01) 第04回 基礎読解演習(03) テーマ: 求人広告(02) 第05回 基礎読解演習(04) テーマ: 求人広告への応募(01) 第06回 基礎読解演習(05) テーマ: 求人広告への応募(02) 第07回 基礎読解演習(06) テーマ: 求人応募への不採用通知(01) 第08回 基礎読解演習(07) テーマ: 求人応募への不採用通知(02) 第09回 基礎読解演習(08) テーマ: 苦情 第10回 基礎読解演習(09) テーマ: 苦情への対応 第11回 基礎読解演習(10) テーマ: 銀行(01) 第12回 基礎読解演習(11) テーマ: 銀行(02) 第13回 基礎読解演習(12) テーマ: 航空(01) 第14回 基礎読解演習(13) テーマ: 航空(02) 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 各プリントの4ページ目の英文を読解してくる。こと。 授業後学習: 各プリントの1～3ページ目の授業で学んだ英文を暗唱できるくらい音読してくる。こと。						
授業方法	演習方式。						
評価基準と評価方法	毎回の小テスト80%、発表点20%						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	なし。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語B						
担当教員	岡部 浩子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として活躍できる能力を習得する。						
授業の概要	秘書英語Aで学習した内容を基に、秘書として業務を遂行していく上で必要な英語を学び、出張業務、スケジュール管理、パソコンを用いたの文書作成、英文ビジネスレターについて学習する。また、企業で上司のサポートをし、コミュニケーションのパイプ役を果たす秘書がおこなう多岐に渡る業務を円滑に進めることができるよう、発表の機会を増やし、多様な場面で発表や実習を行う。発表を通して、職場で使用する会話表現や文化の違いなどを学習する。						
到達目標	バイリンガル・セクレタリとして必要な基礎知識を基に、それを応用していく技能を身につけることができます。						
授業計画	第1回 Introduction to the course and Unit 7: part 1 Describing Schedules 第2回 Unit 7: part 1 Describing Schedules and part 2 Confirming 第3回 Unit 7 review quiz and Unit 8: part 1 Giving Suggestions and Advice 第4回 Unit 8: part 1 Giving Suggestions and Advice and part 2 Rescheduling 第5回 Unit 8 review quiz and Unit 9: part 1 Making Reservations 第6回 Unit 9: part 1 Making Reservations and part 2 Making Inquiries 第7回 Unit 9 review quiz and Unit 10: part 1 Stating and Asking for Opinions 第8回 Unit 10: part 1 Stating and ASking for Opinions and part 2 Placing Orders 第9回 Unit 10 review quiz and Unit 11: part 1 Describing Locations of Objects 第10回 Unit 11: part 1 Describing Locations of Objects and part 2 Accepting and Rejecting 第11回 Unit 11 review quiz and Unit 12: part 1 Giving Directions inside a Company 第12回 Unit 12: part 1 Giving Directions inside a Company and part 2 Reminding and Complaining 第13回 Unit 12 review quiz and Unit 13: part 1 Giving Instructions 第14回 Unit 13: part 1 Giving Instructions and part 2 Apologizing 第15回 Review and term exam						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当する箇所の内容を理解し、単語の意味を調べておいてください。 授業後学習：学習したことを復習し、英語と日本語双方向に文が作れるようにしてください。また、音読練習も並行して行ってください。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）、課題（10%）、試験（小テスト20%・期末テスト30%） 欠席した場合、review quizを受けなかった場合はかなり減点となります。						
教科書	Working with English, Atsuko Ogawa and Kayoko Otani, Macmillan Language House ISBN: 9784895854634						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語B						
担当教員	岡部 浩子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	国際秘書として活躍できる能力を習得する。						
授業の概要	秘書英語Aで学習した内容を基に、秘書として業務を遂行していく上で必要な英語を学び、出張業務、スケジュール管理、パソコンを用いたの文書作成、英文ビジネスレターについて学習する。また、企業で上司のサポートをし、コミュニケーションのパイプ役を果たす秘書がおこなう多岐に渡る業務を円滑に進めることができるよう、発表の機会を増やし、多様な場面で発表や実習を行う。発表を通して、職場で使用する会話表現や文化の違いなどを学習する。						
到達目標	バイリンガル・セクレタリとして必要な基礎知識を基に、それを応用していく技能を身につけることができます。						
授業計画	第1回 Introduction to the course and Unit 7: part 1 Describing Schedules 第2回 Unit 7: part 1 Describing Schedules and part 2 Confirming 第3回 Unit 7 review quiz and Unit 8: part 1 Giving Suggestions and Advice 第4回 Unit 8: part 1 Giving Suggestions and Advice and part 2 Rescheduling 第5回 Unit 8 review quiz and Unit 9: part 1 Making Reservations 第6回 Unit 9: part 1 Making Reservations and part 2 Making Inquiries 第7回 Unit 9 review quiz and Unit 10: part 1 Stating and Asking for Opinions 第8回 Unit 10: part 1 Stating and ASking for Opinions and part 2 Placing Orders 第9回 Unit 10 review quiz and Unit 11: part 1 Describing Locations of Objects 第10回 Unit 11: part 1 Describing Locations of Objects and part 2 Accepting and Rejecting 第11回 Unit 11 review quiz and Unit 12: part 1 Giving Directions inside a Company 第12回 Unit 12: part 1 Giving Directions inside a Company and part 2 Reminding and Complaining 第13回 Unit 12 review quiz and Unit 13: part 1 Giving Instructions 第14回 Unit 13: part 1 Giving Instructions and part 2 Apologizing 第15回 Review and term exam						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従い、教科書の該当する箇所の内容を理解し、単語の意味を調べておいてください。 授業後学習：学習したことを復習し、英語と日本語双方向に文が作れるようにしてください。また、音読練習も並行して行ってください。						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（40%）、課題（10%）、試験（小テスト20%・期末テスト30%） 欠席した場合、review quizを受けなかった場合はかなり減点となります。						
教科書	Working with English, Atsuko Ogawa and Kayoko Otani, Macmillan Language House ISBN: 9784895854634						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書英語B						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	秘書に求められる英語力を習得する。						
授業の概要	ビジネスの場面で使用する英語を読解しながら、秘書として必要な英語表現、表彙などを理解し、国際社会に通用する英語力の養成を目指す。あわせて、グローバル社会において秘書が企業内で果たしている役割を考察し、その業務遂行に必要な基礎知識と必要な英語を学習する。秘書が携わる業務、主に、来客受付、応対、レジユメの書き方などについて、演習を交えながら学習する。						
到達目標	この授業を受けることで、秘書の実務に必要なジャンルの英語の語彙や表現を習得し、英語読解力を身につけることができ、加えてTOEIC試験などのスコア・アップにも役立つことになる。						
授業計画	第01回 インTRODクシヨN 第02回 応用読解演習(01) テーマ: 医薬(01) 第03回 応用読解演習(02) テーマ: 車と駐車(01) 第04回 応用読解演習(03) テーマ: 車と駐車(02) 第05回 応用読解演習(04) テーマ: 統計データ(01) 第06回 応用読解演習(05) テーマ: 統計データ(02) 第07回 応用読解演習(06) テーマ: 警告(01) 第08回 応用読解演習(07) テーマ: 警告(02) 第09回 応用読解演習(08) テーマ: レシピ 第10回 応用読解演習(09) テーマ: 旅程表 第11回 応用読解演習(10) テーマ: 金融(01) 第12回 応用読解演習(11) テーマ: 金融(02) 第13回 応用読解演習(12) テーマ: メモランダム 第14回 応用読解演習(13) テーマ: 株式 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 各プリントの4ページ目の英文を読解してくる。こと。 授業後学習: 各プリントの1~3ページ目の授業で学んだ英文を暗唱できるくらい音読してくる。こと。						
授業方法	演習方式。						
評価基準と評価方法	毎回の小テスト80%、発表点20%						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	なし。						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書概論A						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業と企業経営者を研究し、必要な知識を得る						
授業の概要	<p>企業のトップを補佐する秘書に必要な知識(基礎編) 企業の重責を担う人物を補佐する秘書に必要な知識や技能について解説する。社会の急激な変化に伴い、秘書に求められる知識や技能は広範囲なものとなっている。コミュニケーション能力やホスピタリティマインド、リスクマネジメントなど、事務職に付く人はもちろん、航空、旅行、マスコミ関係などさまざまな職業に活かせる実務知識や常識を身につけさせ、企業とはどのようなところか、働く意味、などの基礎知識を分かりやすく解説する。</p> <p>ビデオ教材、グループディスカッション、研修ゲームなどを取り入れ、応用力を養える内容とする。学生自身のライフスタイル、キャリア構築に役立つものとする。</p>						
到達目標	企業社会の方向性を理解する。社会で活躍するためにどのような知識をスキルが必要かを学び、準備する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書とは (グループディスカッション) 2. 情報化時代と秘書 3. 会社の仕組み 4. 会社役員と秘書 5. 会社の経営組織 6. 意思決定システム (グループディスカッション) 7. 秘書による補佐形態 8. 秘書の職務と役割 9. 秘書の職務内容 10. 職業人としての基礎力 (グループディスカッション) 11. 働く意味 (グループディスカッション) 12. キャリアデザインとは 13. 経営環境の変化 14. まとめ 15. 質疑応答と期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。</p> <p>授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど、解決に努める。機会がえられれば、グローバル企業・NPOを訪問し知見を広げる。</p>						
授業方法	講義中心であるができるだけグループディスカッションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	筆記試験(70%)と平常点(30%)の総合評価						
教科書	<p>オフィス・プロを目指す秘書のキャリア形成 西澤 眞紀子、福田 洋子、前川 昌子 著 (中央経済社) ISBN978-4-502-39920-6 C3034</p>						
参考書	<p>CSR働く意味を問う、第一版、編者 日経CSRプロジェクト、ISBN978-4-532-31313-5 脱フリーター宣言!大学生の生き方・考え方、塚谷 正彦 著、実業出版(株)、ISBN4-407-30541-X やさしい経営学、海野 博・所 伸之 編著、(株)創成社、ISBN978-4-7944-2260-6</p>						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書概論A						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業と企業経営者を研究し、必要な知識を得る						
授業の概要	<p>企業のトップを補佐する秘書に必要な知識(基礎編) 企業の重責を担う人物を補佐する秘書に必要な知識や技能について解説する。社会の急激な変化に伴い、秘書に求められる知識や技能は広範囲なものとなっている。コミュニケーション能力やホスピタリティマインド、リスクマネジメントなど、事務職に付く人はもちろん、航空、旅行、マスコミ関係などさまざまな職業に活かせる実務知識や常識を身につけさせ、企業とはどのようなところか、働く意味、などの基礎知識を分かりやすく解説する。</p> <p>ビデオ教材、グループディスカッション、研修ゲームなどを取り入れ、応用力を養える内容とする。学生自身のライフスタイル、キャリア構築に役立つものとする。</p>						
到達目標	企業社会の方向性を理解する。社会で活躍するためにどのような知識とスキル必要かを学び、準備する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書とは (グループディスカッション) 2. 情報化時代と秘書 3. 会社の仕組み 4. 会社役員と秘書 5. 会社の経営組織 6. 意思決定システム (グループディスカッション) 7. 秘書による補佐形態 8. 秘書の職務と役割 9. 秘書の職務内容 10. 職業人としての基礎力 (グループディスカッション) 11. 働く意味 (グループディスカッション) 12. キャリアデザインとは 13. 経営環境の変化 14. まとめ 15. 質疑応答と期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど、解決に努める。 機会がえられれば、グローバル企業・NPOを訪問し、知見を広げる。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験(70%)と平常点(30%)の総合評価						
教科書	<p>オフィス・プロを目指す秘書のキャリア形成 西澤 眞紀子、福田 洋子、前川 昌子 著 (中央経済社) ISBN978-4-502-39920-6 C3034</p>						
参考書	<p>CSR働く意味を問う、第一版、編者 日経CSRプロジェクト、ISBN978-4-532-31313-5 脱フリーター宣言!大学生の生き方・考え方、塚谷 正彦 著、実業出版(株)、ISBN4-407-30541-X やさしい経営学、海野 博・所 伸之 編著、(株)創成社、ISBN978-4-7944-2260-6</p>						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書概論B						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業と企業経営者を研究し、必要な知識を得る						
授業の概要	<p>企業のトップを補佐する秘書に必要な知識(応用編) 企業の重責を担う人物を補佐する秘書に必要な知識や技能について解説する。社会の急激な変化に伴い、秘書の求められる知識や技能は広範囲なものになっている。コミュニケーション能力やホスピタリティマインド、リスクマネジメントなど、事務職につく人はもちろん、航空、旅行、マスコミ関係などさまざまな職業に行かせる実務知識や常識が身につく。 企業とはどのようなところか、働く意味、などを分かりやすく解説する。ビデオ教材、グループディスカッション、研修ゲームなどを取り入れ、応用力を養える内容とする。学生自身のライフスタイル、キャリア構築に役立つものとした。</p>						
到達目標	企業社会の方向性を理解する。社会で活躍するために、どのような知識とスキルが必要かを学び、準備することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書とは 2. 秘書とコミュニケーション I 3. 秘書とコミュニケーション II (グループディスカッション) 4. 人間関係 (グループディスカッション) 5. プロトコール 6. ホスピタリティ 7. コーポレート・ガバナンス 8. 働く目的 (グループディスカッション) 9. リスクマネジメント 10. 秘書のためのレファレンス 11. 経済・政治・地域に関する情報 12. 社会・文化に関する情報 13. 自己決定力(義務・権利・責任) (グループディスカッション) 14. まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。 機会がえられれば、グローバル企業・NPOを訪問し、知見を広げる。</p>						
授業方法	講義中心であるができるだけグループディスカッションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	筆記試験(70%)と平常点(30%)の総合評価。						
教科書	オフィス・プロを目指す秘書のキャリア形成、西澤 眞紀子、福田 洋子、前川 昌子 著 (中央経済社) ISBN978-4-502-39920-6 C3034						
参考書	<p>国際ビジネスのためのプロトコール、改訂版、寺西 千代子 著、有斐閣ビジネス、ISBN4-641-06913-1 全図解 日本のしくみ(政治・経済・司法編)、講談社インターナショナル(株)、ISBN4-7700-2726-5 伝説コンシェルジュが明かすプレミアム名おもてなし、前田 佳子 著、ダイヤモンド社、 ISBN978-4-478-00043-4</p>						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	秘書概論B						
担当教員	福田 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業と企業経営者を研究し、必要な知識を得る						
授業の概要	<p>企業のトップを補佐する秘書に必要な知識(応用編) 企業の重責を担う人物を補佐する秘書に必要な知識や技能について解説する。社会の急激な変化に伴い、秘書の求められる知識や技能は広範囲なものになっている。コミュニケーション能力やホスピタリティマインド、リスクマネジメントなど、事務職につく人はもちろん、航空、旅行、マスコミ関係などさまざまな職業に行かせる実務知識や常識が身につく。 企業とはどのようなところか、働く意味、などを分かりやすく解説する。ビデオ教材、グループディスカッション、研修ゲームなどを取り入れ、応用力を養える内容とする。学生自身のライフスタイル、キャリア構築に役立つものとしたい。</p>						
到達目標	企業社会の方向性を理解する。社会で活躍するために、どのような知識とスキルが必要かを学び準備する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、秘書とは 2. 秘書とコミュニケーション I 3. 秘書とコミュニケーション II (グループディスカッション) 4. 人間関係 (グループディスカッション) 5. プロトコール 6. ホスピタリティ 7. コーポレート・ガバナンス 8. 働く目的 (グループディスカッション) 9. リスクマネジメント 10. 秘書のためのレファレンス 11. 経済・政治・地域に関する情報 12. 社会・文化に関する情報 13. 自己決定力(義務・権利・責任) (グループディスカッション) 14. まとめ 15. 質疑応答、期末試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：授業計画に従い、教科書で該当するところを読んでおく。 授業後学習：学んだ内容を復習し、理解できていないところは、次回の授業で質問するなど解決に努める。 機会が得られれば、グローバル企業・NPOを訪問し、知見を広げる。</p>						
授業方法	講義中心であるができるだけグループディスカッションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	筆記試験(70%)と平常点(30%)の総合評価。						
教科書	オフィス・プロを目指す秘書のキャリア形成、西澤 眞紀子、福田 洋子、前川 昌子 著 (中央経済社) ISBN978-4-502-39920-6 C3034						
参考書	国際ビジネスのためのプロトコール、改訂版、寺西 千代子 著、有斐閣ビジネス、ISBN4-641-06913-1 全図解 日本のしくみ(政治・経済・司法編)、講談社インターナショナル(株)、ISBN4-7700-2726-5 伝説コンシェルジュが明かすプレミアム名おもてなし、前田 佳子 著、ダイヤモンド社、ISBN978-4-478-00043-4						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	ビジネス英語研究A／Study of Business English A						
担当教員	D. Chatham						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	English for everyday business situations.						
授業の概要	This course aims to develop students' ability to speak English with confidence, fluency and intelligibility in a range of formal and informal business situations.						
到達目標	Classroom tasks will focus on spoken performance with practice in business-related conversations, seminar, discussion and presentation skills. Verbal and non-verbal features of spoken interaction and their role in conveying meaning will be highlighted.						
授業計画	<p>Week 1: Introduction to Business English. Explanation of class requirements and expectations.</p> <p>Week 2: Modules 1.1, 1.2, and 1.3. Meeting a client.</p> <p>Week 3: Modules 1.4, 1.5, and 1.6. Meeting a client.</p> <p>Week 4: Modules 2.1, 2.2, and 2.3. Introducing your company.</p> <p>Week 5: Modules 2.4, 2.5, and 2.6. Introducing your company.</p> <p>Week 6: Modules 3.1, 3.2, and 3.3. Arriving for an appointment.</p> <p>Week 7: Modules 3.4, 3.5, and 3.6. Arriving for an appointment.</p> <p>Week 8: Review and examination: Modules 1.1 through 3.6</p> <p>Week 9: Modules 4.1, 4.2, and 4.3. Describing business routines.</p> <p>Week 10: Modules 4.4, 4.5, and 4.6. Describing business routines.</p> <p>Week 11: Modules 5.1, 5.2, and 5.3. Arranging a business appointment.</p> <p>Week 12: Modules 5.4, 5.5, and 5.6. Arranging a business appointment.</p> <p>Week 13: Modules 6.1, 6.2, and 6.3. Placing an order for a product or service.</p> <p>Week 14: Modules 6.4, 6.5, and 6.6. Placing an order for a product or service.</p> <p>Week 15: Review and examination: Modules 4.1 through 6.6</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students are expected to prepare for this class by studying vocabulary, practicing role-plays, and listening to assigned tasks outside of class.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	20% class work 40% mid-term examination 40% final examination						
教科書	Business Venture 1 Roger Barnard and Jeff Cady Oxford University Press ISBN: 978-0-19-457817-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	ビジネス英語研究B／Study of Business English B						
担当教員	D. Chatham						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	English for everyday business situations.						
授業の概要	This course will extend students' study of the use of English in daily business and office life, and also include discussion in English of work-related issues such as career/lifestyle choices, women and work, and applying for a job.						
到達目標	As with Business English Studies A, the course objectives are to develop spoken performance in business-related conversations as well as discussion and presentation skills.						
授業計画	<p>Week 1: Introduction to Business English. Explanation of class requirements and expectations.</p> <p>Week 2: Modules 7.1, 7.2, and 7.3. Describing the history of a company.</p> <p>Week 3: Modules 7.4, 7.5, and 7.6. Describing the history of a company.</p> <p>Week 4: Modules 8.1, 8.2, and 8.3. Announcing company plans.</p> <p>Week 5: Modules 8.4, 8.5, and 8.6. Announcing company plans.</p> <p>Week 6: Modules 9.1, 9.2, and 9.3. Choosing the best candidate.</p> <p>Week 7: Modules 9.4, 9.5, and 9.6. Choosing the best candidate.</p> <p>Week 8: Review and examination: Modules 7.1 through 9.6</p> <p>Week 9: Modules 10.1, 10.2, and 10.3. Directions for business.</p> <p>Week 10: Modules 10.4, 10.5, and 10.6. Directions for business.</p> <p>Week 11: Modules 11.1, 11.2, and 11.3. Entertaining for business.</p> <p>Week 12: Modules 11.4, 11.5, and 11.6. Entertaining for business.</p> <p>Week 13: Modules 12.1, 12.2, and 12.3. Ending a business trip or meeting.</p> <p>Week 14: Modules 12.4, 12.5, and 12.6. Ending a business trip or meeting.</p> <p>Week 15: Review and examination: Modules 10.1 through 12.6</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	Students are expected to prepare for this class by studying vocabulary, practicing role-plays, and listening to assigned tasks outside of class.						
授業方法	Lecture						
評価基準と評価方法	20% class work 40% mid-term examination 40% final examination						
教科書	Business Venture 1 Roger Barnard and Jeff Cady Oxford University Press ISBN: 978-0-19-457817-2						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法A						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	とまかくプレゼンができるようになる！						
授業の概要	<p>この授業では、基本的なプレゼンテーションの実地的な訓練をします。面白そうなテーマを考え、自分で資料を探し出して調べ、ハンドアウトとパワーポイントを作成し、人前で発表する、というプレゼンの準備から実施までの流れを経験し、とまかく日本人には不得手なプレゼンをどうにかこなせるようにすることが目標です。この授業をまじめに聞いていれば、少なくとも「人前で喋る時にこれをやってはいけない」ことは何かは分かってくるはずですが、</p> <p>ただ、「好きなテーマで好きな資料を探して発表して下さい」と言っても何をしても良いのか途方に暮れるので、この授業では「国会会議録」を資料の一つとして使うという条件を付けます。国会会議録は国会で開催されている会議の記録ですが、戦後60年あまりにわたる日本の社会・政治・経済・文化、そしてことばに至るまでさまざまな現象のデータベースとも言えます。これを使って、グループ（履修者数によっては個人）で、好きなテーマで数回発表をしてもらいます。</p>						
到達目標	とまかくそれなりのプレゼンができるようになること。						
授業計画	<p>第1回 イン트로・授業説明 第2回 グループ分け・発表方法についての説明1 ハンドアウトの書き方 第3回 発表方法についての説明2 資料の調べ方、発表での話し方 第4回 国会会議録に関する講義（松田） 第5回 発表テーマに関する相談 各グループで討論をしながら、松田とテーマについて相談します 第6回 第1・2グループの中間発表 第7回 第3・4グループの中間発表 第8回 第5・6グループの中間発表 第9回 第7・8グループの中間発表 第10回 ここまでの発表全体に対する講評 改めて注意すべき…についておさらいします。 第11回 第1・2グループの最終発表 第12回 第3・4グループの最終発表 第13回 第5・6グループの最終発表 第14回 第7・8グループの発表 第15回 まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表に向けての準備は必須です。						
授業方法	講義と発表						
評価基準と評価方法	<p>発表の出来具合＋他の発表へのコメント・批判</p> <p>※他のグループの発表のあと、自発的に挙手してその発表への批評をしてもらいます。まともな批判であると判断されればポイントを出します。誤った批評をしてもポイントが引かれることはありません。ただし、ただ褒めるだけの批評や、「面白かったです」「ためになりました」といった感想レベルの批評は認めません。</p>						
教科書							
参考書	松田謙次郎（編）『国会会議録を使った日本語研究』（ひつじ書房）ISBN: 978-4-7647-3710-5						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法A						
担当教員	松田 泰至						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使った様々な表現技法を学ぶ						
授業の概要	この授業では、コンピュータの持つ高度な画像および音声の編集機能を駆使して実際に作品を作り上げる過程を通して、現在のコンピュータで可能である様々な表現技法を学ぶことを目的としています。受講生の技能レベルに応じて若干の修正があるかもしれませんが、授業は概ね以下の順序で行われる予定です。 1. Macintoshの基本操作 2. 静止画像の処理 3. 静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成						
到達目標	コンピュータを使って、静止画像や音声等を用いた躍動感あるプレゼン資料を作ることができるようになります。						
授業計画	第1回：講義概要および受講時の注意 第2回：Macintoshの基本操作 第3回：静止画像の基本処理 1 レイヤーの概念 第4回：静止画像の基本処理 2 選択、フィルタ、イメージ調整 第5回：静止画像の基本処理 3 グラデーション 第6回：演習 1 第7回：演習 2 第8回：PC上での音声の符号化 第9回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 1 画像処理 第10回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 2 画面転換 第11回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 3 音声編集 第12回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 4 テキスト処理 第13回：演習 3 第14回：演習 4 第15回：総復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業の内容を復習しておくこと。 授業後学習：授業で新たに学んだ技法を、配布プリントのみ参照しながら何度も納得するまで繰り返し練習してください。技法の修得する過程で、新たな疑問や要求項目等が生まれ、次の学習を牽引してくれます。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法A						
担当教員	松田 泰至						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使った様々な表現技法を学ぶ						
授業の概要	この授業では、コンピュータの持つ高度な画像および音声の編集機能を駆使して実際に作品を作り上げる過程を通して、現在のコンピュータで可能である様々な表現技法を学ぶことを目的としています。受講生の技能レベルに応じて若干の修正があるかもしれませんが、授業は概ね以下の順序で行われる予定です。 1. Macintoshの基本操作 2. 静止画像の処理 3. 静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成						
到達目標	コンピュータを使って、静止画像や音声等を用いた躍動感あるプレゼン資料を作ることができるようになります。						
授業計画	第1回：講義概要および受講時の注意 第2回：Macintoshの基本操作 第3回：静止画像の基本処理 1 レイヤーの概念 第4回：静止画像の基本処理 2 選択、フィルタ、イメージ調整 第5回：静止画像の基本処理 3 グラデーション 第6回：演習 1 第7回：演習 2 第8回：PC上での音声の符号化 第9回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 1 画像処理 第10回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 2 画面転換 第11回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 3 音声編集 第12回：静止画像および音声を融合したプレゼンテーション資料の作成 4 テキスト処理 第13回：演習 3 第14回：演習 4 第15回：総復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業の内容を復習しておくこと。 授業後学習：授業で新たに学んだ技法を、配布プリントのみ参照しながら何度も納得するまで繰り返し練習してください。技法の修得する過程で、新たな疑問や要求項目等が生まれ、次の学習を牽引してくれます。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法B						
担当教員	松田 謙次郎						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	パワーポイントを使ったプレゼンテーションの演習						
授業の概要	日本の国会では、1946年以来議場での発言をすべて記録し、国会会議録として一般に配布、ネット公開しています。新聞だと300年分にもなる膨大なこのデータは、戦後の日本語の姿をそのまま映し出している貴重な記録でもあります。これを見ていくと、政治家の口癖、流行語の変化、その時代のキャッチフレーズ、方言の移り変わりなども浮かび上がってきます。ことばのデータとして注目されたのはこの数年というほぼ未開拓のデータなため、学生でも簡単に「新発見」が可能な、エキサイティングなデータです。この授業では、これまでの研究を振り返りながら、各自の興味を赴くままに国会会議録を検索し、面白いことを発見・発表しながらプロジェクトを進めることで、プレゼンテーションの技能を高めていきます。特にBでは、プレゼンテーションの中身の充実を図ります。なお、言語学や国会に関する前提知識はほとんど不要です。なお、前期に「プレゼンテーションの技法A」を履修した学生は、違ったテーマで発表をしなければなりません。						
到達目標	前期Aのグループ発表から、個人でのプレゼンが出来るようになること。						
授業計画	第1回 イン트로・授業説明 第2回 スケジュール決定・発表方法についての説明1 ハンドアウトの書き方 第3回 発表方法についての説明2 資料の調べ方 発表での話し方 第4回 国会会議録に関する講義(松田) 第5回 発表テーマに関する討議 各自での現時点でのアイデアを語ってもらい、クラスで討議します 第6回 第1・2グループの中間発表 第7回 第3・4グループの中間発表 第8回 第5・6グループの中間発表 第9回 第7・8グループの中間発表 第10回 ここまでの発表に対する全体的なまとめ・講評 第11回 第1・2グループの最終発表 第12回 第3・4グループの最終発表 第13回 第5・6グループの最終発表 第14回 第7・8グループの発表 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表に向けての入念な準備が必要です。						
授業方法	講義と発表+他人の発表への批評 ※他人の発表のあと、自発的に挙手してその発表への批評をしてもらいます。まともな批判であると判断されればポイントを出します。誤った批評をしてもポイントが引かれることはありません。ただし、ただ褒めるだけの批評や、「面白かったです」「ためになりました」といった感想レベルの批評は認めません。						
評価基準と評価方法	発表の出来具合						
教科書							
参考書	松田謙次郎(編)『国会会議録を使った日本語研究』(ひつじ書房) ISBN: 978-4-7647-3710-5						

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法B						
担当教員	松田 泰至						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使った様々な表現技法を学ぶ						
授業の概要	この授業では、“プレゼンテーションの技法A”に引き続き、現在のコンピュータで可能である様々な表現技法を学ぶことを目的としています。受講生の技能レベルに応じて若干の修正があるかもしれませんが、授業は概ね以下の順序で行われる予定です。 1. Webページの内容理解。 2. 簡易アニメーションの作成およびWebページへの組み込み						
到達目標	Webの仕組みを理解し、種々の形式を持つデータを組み入れたWebページを作成することができるようになります。						
授業計画	第1回：講義概要および受講時の注意 第2回：Webページの内容理解1 Webの仕組み 第3回：静止画像処理 第4回：Webページの内容理解2 HTML復習 第5回：Webページの内容理解3 動きのあるWebページの作成、Javascriptを触ってみる 第6回：Webページの内容理解4 イベント駆動型プログラミング 第7回：各種データのWebページへの組込 静止画像、動画、ファイル形式 第8回：演習1 Webページの作成 第9回：アニメーションの原理 フレーム 第10回：簡易アニメーションの作成1 基本ビヘイビア 第11回：簡易アニメーションの作成2 テキスト処理 第12回：簡易アニメーションの作成3 静止画像、音声処理 第13回：簡易アニメーションの統合 共通媒体としての動画フォーマットの利用 第14回：演習2 擬似動画の作成 第15回：総合演習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容をしっかりと復習しておきましょう。 授業後学習：授業で学んだ新たな技法を、配布プリントのみを参照しながら何回も納得するまで繰り返し練習してください。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの技法B						
担当教員	松田 泰至						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	コンピュータを使った様々な表現技法を学ぶ						
授業の概要	この授業では、“プレゼンテーションの技法A”に引き続き、現在のコンピュータで可能である様々な表現技法を学ぶことを目的としています。受講生の技能レベルに応じて若干の修正があるかもしれませんが、授業は概ね以下の順序で行われる予定です。 1. Webページの内容理解。 2. 簡易アニメーションの作成およびWebページへの組み込み						
到達目標	Webの仕組みを理解し、種々の形式を持つデータを組み入れたWebページを作成することができるようになります。						
授業計画	第1回：講義概要および受講時の注意 第2回：Webページの内容理解1 Webの仕組み 第3回：静止画像処理 第4回：Webページの内容理解2 HTML復習 第5回：Webページの内容理解3 動きのあるWebページの作成、Javascriptを触ってみる 第6回：Webページの内容理解4 イベント駆動型プログラミング 第7回：各種データのWebページへの組込 静止画像、動画、ファイル形式 第8回：演習1 Webページの作成 第9回：アニメーションの原理 フレーム 第10回：簡易アニメーションの作成1 基本ビヘイビア 第11回：簡易アニメーションの作成2 テキスト処理 第12回：簡易アニメーションの作成3 静止画像、音声処理 第13回：簡易アニメーションの統合 共通媒体としての動画フォーマットの利用 第14回：演習2 擬似動画の作成 第15回：総合演習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回の授業の内容をしっかりと復習しておきましょう。 授業後学習：授業で学んだ新たな技法を、配布プリントのみを参照しながら何回も納得するまで繰り返し練習してください。						
授業方法	講義および演習						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書							
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	翻訳研究A						
担当教員	柏本 吉章						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語と日本語の語彙・表現のずれを探る						
授業の概要	正確な翻訳、自然な翻訳、さらに効果的な翻訳のためには、英語と日本語の間にある語彙や表現のずれを意識し、それを乗り越える工夫が必要です。この授業では、特に日英語の語彙が反映する意味の相違に焦点を当て、翻訳作業の中での英語・日本語のずれへの対処法を学びます。						
到達目標	日英語の語彙や表現の意味のずれを理解し、状況に応じた正確で適切な翻訳ができる能力を身につけること						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション：翻訳ウォーミングアップ 第2回 表情豊かな形容詞 第3回 数や量の基本表現の訳 第4回 日常のことばで訳す形容詞 第5回 スパイスを効かせた副詞の訳 第6回 実践編（その1）ストーリーの温かみを訳文に 第7回 日本語にしない勇気：代名詞の訳 第8回 身近な名詞に身近な訳を 第9回 手ごわい名詞の訳の工夫 第10回 動きを表さない動詞 第11回 カタカナ語で翻訳する 第12回 日英語の語彙のずれと翻訳(1) 日常語の意味のずれ 第13回 日英語の語彙のずれと翻訳(2) 文化と事物と意味のずれ 第14回 実践編（その2）ストーリーの素朴さを訳文に 第15回 授業内容のまとめと質疑応答と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の復習、および指示された練習問題などの準備						
授業方法	講義と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	平常点 30%、筆記試験 70%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	翻訳研究A						
担当教員	白川 計子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	翻訳とは何か、実践をとおして学ぶ翻訳研究						
授業の概要	英語から日本語へ、日本語から英語への翻訳の優れた実例をあげつつ、授業では様々な文章の翻訳を試みる。文学作品、映画、実用書などを用いて、翻訳作業の基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標	英語の読解力、日本語の表現力、異文化理解など、翻訳の作業に必要な技能の基礎を修得する。						
授業計画	第1回：翻訳とは何か。 第2回：俳句の英訳鑑賞 第3回：俳句の英訳実践 第4回：映画台詞理解1 第5回：映画台詞理解2 第6回：映画台詞翻訳実践1 第7回：映画台詞翻訳実践2 第8回：名言翻訳実践 第9回：実用書の翻訳1 第10回：実用書の翻訳2 第11回：実用書の翻訳3 第12回：実用書の翻訳4 第13回：短編小説の英訳実践1 第14回：短編小説の英訳実践2 第15回：まとめと復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	与えられた課題を予習し、翻訳を完成させる。						
授業方法	講義と翻訳実践						
評価基準と評価方法	平常点（授業中の提出物）50%、翻訳作品提出物50%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	翻訳研究B						
担当教員	柏本 吉章						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語と日本語の表現法・発想法の違いを探る						
授業の概要	自然な翻訳、効果的な翻訳のためには、英語と日本語の表現法や発想法の違いを理解し、それをしっかりと意識しておくことが重要になります。さまざまな種類の英語の翻訳練習を通して、翻訳作業に不可欠な英語と日本語の表現法・発想法の置き換えの要領を身につけてください。						
到達目標	日英語の表現法や発想法の違いを理解し、状況に応じた正確で適切な翻訳ができる能力を身につけること						
授業計画	第1回 授業オリエンテーション：翻訳ウォーミングアップ 第2回 頭から訳す技法 第3回 英語らしいbe動詞の訳 第4回 英語らしいwh-語の訳 第5回 日本語に多い否定表現 第6回 日本語の消極的表現 第7回 実践編（その1）日英語の表現法のずれを補う 第8回 無生物主語構文の訳 第9回 BE言語とHAVE言語 第10回 英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現(1) 身体表現の対照性 第11回 英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現(2) 2種類の知覚表現 第12回 英語話者好みの表現と日本語話者好みの表現(3) 自己の他者化 第13回 絵本の翻訳と擬音語・擬態語 第14回 実践編（その2）日英語の発想法のずれを補う 第15回 質疑応答と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の復習、および指示された練習問題などの準備						
授業方法	講義と練習問題による演習						
評価基準と評価方法	平常点 30%、筆記試験 70%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	翻訳研究B						
担当教員	白川 計子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	翻訳とは何か、実践をとおして学ぶ翻訳研究						
授業の概要	英語から日本語へ、日本語から英語への翻訳の優れた実例をあげつつ、授業では様々な文章の翻訳を試みる。文学作品、映画、実用書などを用いて、翻訳作業の基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標	英語の読解力、日本語の表現力、異文化理解など、翻訳の作業に必要な技能の基礎を修得する。						
授業計画	第1回：翻訳とは何か、さまざまな翻訳紹介 第2回：百人一首の英訳鑑賞 第3回：百人一首の英訳実践 第4回：「ことわざ」の翻訳実践 第5回：映画の台詞理解 第6回：映画の台詞翻訳実践 第7回：映画の台詞翻訳実践 第8回：実用書翻訳実践 第9回：実用書翻訳実践 第10回：実用書翻訳実践 第11回：実用書翻訳実践 第12回：実用書翻訳実践 第13回：英米作家短編翻訳実践 第14回：英米作家短編翻訳実践 第15回：まとめと復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	与えられた課題を予習し、翻訳を完成させる。						
授業方法	講義と翻訳実践						
評価基準と評価方法	平常点（授業中の提出物）50%、翻訳作品提出物50%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	メディアの英語A/English in the Media A						
担当教員	川中 紀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画で学ぶコミュニケーションのための英語						
授業の概要	<p>映画で学ぶコミュニケーションのための英語</p> <p>映画『ゴースト：ニューヨークの幻』を見ながら、ナチュラル・スピードの英語の聞き取りに挑戦します。字幕なしで映画を見ることは、受講生にとって憧れの1つでしょう。この授業では、そのための第一歩として、やや高度な英語の聞き取りに挑戦します。</p> <p>英語圏に留学・旅行した際に、すぐに役に立つ会話表現を身につけるため、機能別に英語の表現を学び、英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。</p> <p>また、英語のヒットソングを用いて、音声変化の法則を体系的に学び、聴き取る能力をを向上させることも目標とします。メディアの英語A、Bをできれば通年で履修すれば、留学など、実際に異文化間コミュニケーションが必要になった場合の英語力の向上に役に立つでしょう。</p>						
到達目標	字幕無しで映画を理解する力を身につけ、高度な英語の聴解力を養成すること。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：意見・感想を求める表現</p> <p>第3回：予定を尋ねる表現</p> <p>第4回：提案の表現</p> <p>第5回：勧誘の表現</p> <p>第6回：推量の表現</p> <p>第7回：伝達の表現</p> <p>第8回：謝罪の表現</p> <p>第9回：指摘・説明の表現</p> <p>第10回：挨拶の表現</p> <p>第11回：警告の表現</p> <p>第12回：別れの表現</p> <p>第13回：英語の音声変化の法則</p> <p>第14回：英語字幕の活用法・シャドーイングの活用法</p> <p>第15回：復習テストと前期のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習、復習を十分にして授業にのぞむこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	受講状況（出席・発表）を考慮に入れ、試験（8割）と課題を含む受講状況（2割）の総合評価。						
教科書	<p>『ゴースト：ニューヨークの幻』角山輝彦 著（センゲージ ラーニング） ISBN 978-4-86312</p> <p>『ポップスで学ぶ総合英語（改訂新版）角山輝彦 著（成美堂）978-4-7919-3086-9</p>						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	メディアの英語A/English in the Media A						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアの英語を通して、語彙力、リスニング力、コミュニケーション力を向上させる。						
授業の概要	英語圏の音楽やドキュメンタリー映画などを素材にして、ナチュラル・スピードの英語リスニング力を向上させるとともに、語彙力を増強させる。また、会話で役に立つ英語表現を状況に則して使うことができるような、コミュニケーションのための表現力を養うことを目標とする。						
到達目標	この授業を受けることで、ナチュラル・スピードの英語のリスニング力を向上させ、英語語彙力を身につけることができる。また、よりよいコミュニケーションを行うための表現力を身につけ、海外留学への準備ができる。						
授業計画	第01回 インタロダクション 第02回 基礎リスニング演習 (01) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (01) 第03回 基礎リスニング演習 (02) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (02) 第04回 基礎リスニング演習 (03) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (03) 第05回 基礎リスニング演習 (04) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (04) 第06回 基礎リスニング演習 (05) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (05) 第07回 基礎リスニング演習 (06) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (06) 第08回 質疑応答と復習 第09回 基礎リスニング演習 (07) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (07) 第10回 基礎リスニング演習 (08) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (08) 第11回 基礎リスニング演習 (09) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (09) 第12回 基礎リスニング演習 (10) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (10) 第13回 基礎リスニング演習 (11) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (11) 第14回 基礎リスニング演習 (12) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (12) 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: テキストの各ユニットの英語テキストを読んてくること。 授業後学習: テキストの指示された部分の英語テキストを音読してくること。						
授業方法	演習方式。						
評価基準と評価方法	毎回の小テスト80%、発表点20%						
教科書	"Smash Hit Listening" Nobuhiro Kumai & Stephen Timson 編著、マクミラン ISBN978-4-7773-6378-0						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	メディアの英語B/English in the Media B						
担当教員	川中 紀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画で学ぶコミュニケーションのための英語						
授業の概要	<p>映画で学ぶコミュニケーションのための英語</p> <p>映画『About a Boy』を見ながら、ナチュラル・スピードの英語の聞き取りに挑戦します。字幕なしで映画を見ることは、受講生にとって憧れの1つでしょう。この授業では、そのための第一歩として、やや高度な英語の聞き取りに挑戦します。</p> <p>英語圏に留学・旅行した際に、すぐに役に立つ会話表現を身につけるため、機能別に英語の表現を学び、英語コミュニケーション能力を養うことを目指します。</p> <p>また、英語のヒットソングを用いて、音声変化の法則を体系的に学び、聴き取る能力を向上させることも目標とします。メディアの英語A、Bは独立した科目ですが、できれば通年で履修すれば、留学など、実際に異文化間コミュニケーションが必要になった場合の英語力の向上に役に立つでしょう。</p>						
到達目標	字幕無しで映画を理解する力を身につけ、高度な英語の聴解力を養成すること。						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：意見・感想を求める表現</p> <p>第3回：予定を尋ねる表現</p> <p>第4回：提案の表現</p> <p>第5回：勧誘の表現</p> <p>第6回：推量の表現</p> <p>第7回：伝達の表現</p> <p>第8回：謝罪の表現</p> <p>第9回：指摘・説明の表現</p> <p>第10回：挨拶の表現</p> <p>第11回：警告の表現</p> <p>第12回：別れの表現</p> <p>第13回：英語の音声変化の法則</p> <p>第14回：英語字幕の活用法・シャドーイングの活用法</p> <p>第15回：復習テストと前期のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習、復習を十分にして授業にのぞむこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	受講状況（出席・発表）を考慮に入れ、試験（8割）と課題を含む受講状況（2割）の総合評価。						
教科書	『アバウト・ア・ボーイ』神谷久美子 著（松柏社）978-4-88198-643-1 メディアの英語Aの2冊目のテキストも引き続き、使用する予定です。						
参考書							

科目区分	英語英米文学科専門教育科目						
科目名	メディアの英語B/English in the Media B						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアの英語を通して、語彙力、リスニング力、コミュニケーション力を向上させる。						
授業の概要	英語圏の音楽やドキュメンタリー映画などを素材にして、ナチュラル・スピードの英語リスニング力を向上させるとともに、語彙力を増強させる。また、会話で役に立つ英語表現を状況に則して使うことができるような、コミュニケーションのための表現力を養うことを目標とする。						
到達目標	この授業を受けることで、ナチュラル・スピードの英語のリスニング力を向上させ、英語語彙力を身につけることができる。また、よりよいコミュニケーションを行うための表現力を身につけ、海外留学への準備ができる。						
授業計画	第01回 インTRODクシヨN 第02回 応用リスニング演習 (01) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (01) 第03回 応用リスニング演習 (02) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (02) 第04回 応用リスニング演習 (03) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (03) 第05回 応用リスニング演習 (04) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (04) 第06回 応用リスニング演習 (05) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (05) 第07回 応用リスニング演習 (06) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (06) 第08回 質疑応答と復習 第09回 応用リスニング演習 (07) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (07) 第10回 応用リスニング演習 (08) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (08) 第11回 応用リスニング演習 (09) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (09) 第12回 応用リスニング演習 (10) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (10) 第13回 応用リスニング演習 (11) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (11) 第14回 応用リスニング演習 (12) テーマ: 音楽とドキュメンタリーの英語 (12) 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: テキストの各ユニットの英語テキストを読んてくること。 授業後学習: テキストの指示された部分の英語テキストを音読しててくること。						
授業方法	演習方式。						
評価基準と評価方法	毎回の小テスト80%、発表点20%						
教科書	"Smash Hit Listening" Nobuhiro Kumai & Stephen Timson 編著、マクミラン ISBN978-4-7773-6378-0						
参考書							